

第5節 生涯スポーツ

1 生涯スポーツの推進

県民のニーズや能力に応じた体育・スポーツ活動を積極的に展開し、生涯スポーツの一層の推進を図るため、次の事業を行っている。

令和6年度の主な事業は次のとおり。

- みやざき県民総合スポーツ祭の開催
- 総合型地域スポーツクラブの育成支援
- スポーツで健康・体力・生きがいづくり事業（「1130」の普及啓発、出前事業）
- 生涯スポーツ団体等の育成支援（県スポーツ推進委員協議会 県スポーツ少年団、県武道館協議会）
- 指導者養成事業（アシスタントマネージャー養成講習会）
- 宮崎県スポーツ推進審議会の開催
- 表彰（県生涯スポーツ功労者・優良団体表彰、文部科学省生涯スポーツ功労者・優良団体表彰）
- 情報収集提供事業（「宮崎県の体育・スポーツ」、ホームページ「宮崎県教育庁スポーツ指導センター」）

2 スポーツ団体

(1) 公益財団法人宮崎県スポーツ協会

宮崎県体育協会は、昭和47年3月29日法人格を取得し、新たに財団法人宮崎県体育協会として発足した。平成24年4月1日、財団法人宮崎県体育協会を解散し、公益財団法人宮崎県体育協会を設立した。

同協会は、陸上競技協会をはじめ、53競技団体、障がい者スポーツ協会、高等学校体育連盟、中学校体育連盟、高等学校野球連盟および県内9市6郡体育協会73団体で組織されている。平成7年4月1日に事務局を宮崎県スポーツ会館に置き、本県体育・スポーツの健全な普及発展を図り県民の体力向上に寄与することを目的として、加盟団体はじめ関係機関団体と連携して、各種競技会、講習会の開催、選手強化事業の推進、スポーツ教室等を行っている。平成24年12月に事務局を県都市公園管理事務所2階に移転した。令和2年4月1日に宮崎県スポーツ協会に名称を変更した。

会 長 春山 豪志 株式会社宮崎放送代表取締役

副会長

橋口 光雄 宮崎経済同友会副代表幹事

吉田 建世 一般社団法人延岡市スポーツ協会副会長

串間 敦郎 宮崎県スポーツ指導者協議会理事

田村 司 宮崎県ハンドボール協会副会長

永友 郁子 弁護士法人衛藤法律特許事務所弁護士

(2) 公益財団法人宮崎県スポーツ協会加盟団体

(令和7年度)

No.	加盟団体名	会長名	No.	加盟団体名	会長名
1	宮崎陸上競技協会	林田 洋二	37	カヌー協会	中馬 光久
2	水泳連盟	武井 俊輔	38	ボウリング連盟	藤元 良一
3	バレーボール協会	相星 正人	39	少林寺拳法連盟	矢野 文昭
4	軟式野球連盟	井料田 豊	40	四半的弓道連盟	藤本 英利
5	ソフトテニス連盟	寺園 圀順	41	ゲートボール協会	水久保 豊
6	卓球協会	丸田 哲生	42	アイスホッケー連盟	黒木誠一郎
7	弓道連盟	重信 和行	43	ミニバレーボール協会	荒川 良二
8	ラグビーフットボール協会	石田 喜克	44	グラウンド・ゴルフ協会	菊池 政雄
9	サッカー協会	齊藤 了介	45	武術太極拳連盟	高木 良典
10	バスケットボール協会	神戸 博明	46	ゴルフ協会	日野 直彦
11	柔道連盟	鳥居 敏文	47	トライアスロン連合	押川紘一郎
12	剣道連盟	橋口 光博	48	綱引連盟	福田 幸夫
13	相撲連盟	中野 一則	49	ミニテニス協会	宮川 泰也
14	体操協会	海老原郷士	50	サーフィン連盟	森園 茂生
15	馬術連盟	二見 康之	51	パークゴルフ協会	大重 陽一
16	クレー射撃協会	森 英典	52	エアロビック連盟	黒木テル子
17	山岳連盟	新原 祐治	53	ダンススポーツ連盟	藏満 正二
18	ソフトボール協会	押川 尚生	54	スポーツウエルネス吹矢協会	南原 正人
19	バドミントン協会	相澤 潔	55	(公財)宮崎市スポーツ協会	長友 寧雄
20	テニス協会	秋田 義久	56	(一社)都城市スポーツ協会	星原 透
21	ウエイトリフティング協会	福島 博明	57	(一社)延岡市スポーツ協会	福田 達也
22	ハンドボール協会	末廣 芳文	58	日南市スポーツ協会	房安 生二
23	自転車競技連盟	蓬原 正三	59	小林市スポーツ協会	安田 昭一
24	レスリング協会	長友 寧雄	60	日向市スポーツ協会	田中 隆幸
25	ライフル射撃協会	中山 康	61	串間市スポーツ協会	岡留 浩
26	ボクシング連盟	萩原 利文	62	西都市スポーツ協会	相澤 潔
27	銃剣道連盟	児玉 慎二	63	えびの市スポーツ協会	赤川 一郎
28	フェンシング協会	渡辺 正剛	64	児湯郡スポーツ協会	花房洋一郎
29	ボート協会	那須 司	65	西臼杵郡スポーツ協会	堀口 真嗣
30	アーチェリー協会	函師 博規	66	東臼杵郡体育協会	那須 重美
31	セーリング連盟	橋口 昭彦	67	北諸県郡体育協会	中村 新
32	ホッケー協会	安楽 耕三	68	西諸県郡スポーツ協会	田上 則昭
33	空手道連盟	河野 和久	69	東諸県郡体育協会	小川 勝博
34	スケート協会	久保 貴嗣	70	障がい者スポーツ協会	齋藤 孝二
35	スキー連盟	小野 秀	71	高等学校体育連盟	山尾 典子
36	なぎなた連盟	佐々木逸夫	72	高等学校野球連盟	香川 健二
			73	中学校体育連盟	谷口 行孝

(3) 宮崎県スポーツ少年団

スポーツ少年団は、昭和51年度から有料登録制を実施し、令和6年度は661団体、12,113人の団員が日々スポーツ活動を展開している。

スポーツ少年団は、四季を通じた団活動とともに、県、九州、全国大会等に参加し相互の交流と団活動の活発化に努めている。

また、昭和 57 年度からスポーツ少年団の育成指導に功績のあった指導者と模範的な団活動をしている単位団を表彰しており、平成 12 年度からスポーツ少年団の 5 年以上の指導者に対し、県教育長より感謝状を贈り表彰を行っている。

平成 2 年度からの日本スポーツ少年団認定員制度が変わり、本県では、令和 3 年度からスタートコーチ（ジュニアユース）の養成に努めている。

(4) 宮崎県スポーツ推進委員協議会

各市町村の教育委員会から委嘱される非常勤職員としてのスポーツ推進委員は、全市町村に配置され、地域住民のスポーツ・レクリエーションの指導をはじめ、市町村の行う体育・スポーツ振興事業に参画し、その推進者として活躍している。

また、昭和 57 年度から、地域における体育・スポーツの健全な普及発展に貢献し顕著な成果をあげたスポーツ推進委員を表彰している。

(令和 7 年 9 月 1 日)

市町村名	スポーツ推進委員数			市町村名	スポーツ推進委員数			市町村名	スポーツ推進委員数		
	男	女	計		男	女	計		男	女	計
宮崎市	31	28	59	西都市	11	6	17	延岡市	12	13	25
国富町	8	7	15	高鍋町	5	3	8	日向市	5	8	13
綾町	9	5	14	新富町	8	5	13	門川町	1	5	6
日南市	7	8	15	西米良村	4	2	6	美郷町	6	3	9
串間市	3	6	9	木城町	4	2	6	諸塚村	3	2	5
都城市	19	25	44	川南町	5	4	9	椎葉村	8	2	10
三股町	9	4	13	都農町	4	6	10	高千穂町	4	3	7
小林市	12	6	18					日之影町	3	3	6
えびの市	5	5	10					五ヶ瀬町	4	2	6
高原町	4	3	7					計	194	166	360

(5) 宮崎県スポーツ指導者協議会

公益財団法人日本スポーツ協会が認定したスポーツ指導者で組織し、機関誌発行やスポーツ指導者の育成、資質向上及び指導者間の連携や啓発に関する研修会や講習会等を開催している。

3 みやざき県民総合スポーツ祭の開催（令和 6 年度）

6 月 1 日・2 日をメイン開催日とし、5 月から 9 月にかけて県内 7 市 9 町 62 会場において、56 競技に 10,475 人が参加して熱戦を繰り広げた。

令和6年度宮崎県スポーツ少年団市区町村別登録一覧

都道府県役職員登録数	県役員 19名	その他役職員 0名	合計 19名
------------	---------	-----------	--------

少年団設置市町村数 26市町村	市区町村数 26市町村
-----------------	-------------

市町村名	団 数			指導者			うち理念の有無			役員・スタッフ			団 員 数			市ス少役員数		
	更新	新規	計	更新	新規	計	理念(有)	理念(無)	計	役員	スタッフ	計	男子	女子	計	市町村	単位団	計
宮崎市	192	4	196	431	24	455	437	18	455	69	253	322	2994	1634	4628	10	22	32
日南市	29	5	34	50	13	63	60	3	63	9	40	49	268	251	519	3	0	3
串間市	10		10	11	3	14	10	4	14	5	17	22	125	49	174	3	4	7
都城市	72		72	105	17	122	109	13	122	24	84	108	751	384	1135	12		12
小林市	38	1	39	57	13	70	60	10	70	22	36	58	428	233	661	1		1
えびの市	17		17	18	9	27	22	5	27	10	22	32	158	49	207	2		2
西都市	22		22	42	7	49	48	1	49	3	30	33	298	115	413	7	7	14
延岡市	42		42	72	9	81	73	8	81	22	88	110	514	283	797	6		6
日向市	49	3	52	85	19	104	95	9	104	25	51	76	553	347	900	5	1	6
国富町	15		15	28	2	30	28	2	30	10	32	42	176	78	254	1	1	2
綾町	10		10	11	1	12	11	1	12	7	15	22	81	55	136	1	2	3
三股町	16	1	17	21	2	23	23		23	5	25	30	219	86	305	2		2
高原町	8		8	19	1	20	18	2	20		3	3	123	22	145	1	1	2
高鍋町	13	1	14	25	3	28	28		28	2	26	28	141	131	272	2	3	5
新富町	15		15	23	1	24	21	3	24	7	20	27	143	94	237	1	1	2
木城町	7		7	14	1	15	15		15	4	10	14	71	45	116	2	1	3
川南町	15	1	16	28	3	31	31		31	10	12	22	98	99	197	1	3	4
都農町	12		12	22	2	24	24		24	1	10	11	106	58	164	2	1	3
門川町	22		22	28	2	30	28	2	30	6	34	40	228	136	364	1	3	4
高千穂町	11		11	17	3	20	19	1	20	1	9	10	120	56	176	3		3
日之影町	2		2	4	1	5	4	1	5	2		2	27	11	38	1	1	2
五ヶ瀬町	10		10	12	4	16	16		16	6	2	8	53	25	78	2	1	3
美郷町	4		4	6		6	6		6	3	2	5	39	16	55	2		2
西米良村	2		2	3		3	3		3		2	2	19		19	1		1
諸塚村	3		3	2	1	3	3		3	4		4	27	5	32	1		1
椎葉村	8	1	9	15	1	16	16		16	2	6	8	51	40	91	1		1
6年度合計	644	17	661	1149	142	1291	1208	83	1291	259	829	1088	7811	4302	12113	74	52	126
5年度合計	673	11	684	1456	103	1559	1489	70	1559	254	707	961	7985	4204	12189	71	54	125
増 減	-29	6	-23	-307	39	-268	-281	13	-268	5	122	127	-174	98	-76	3	-2	1

4 県有スポーツ施設

(令和7年9月現在)

番号	施設名 (完成年月)	施設内容	郵便番号	所在地	電話番号 (FAX)
1	宮崎県体育館 (S43.6)	競技場4 (本館1、別館3) 人工登はん壁2 (屋外1、屋内1)	880-0879	宮崎市宮崎駅東2丁目4番地1号	0985-24-3975 (24-3990)
2	宮崎県ライフル射撃競技場 (R7.3)	エアーライフル射場1 スモールボアライフル射場1	889-1702	// 田野町乙4765-1	0985-86-1628
3	ひなた宮崎県総合運動公園 (S48.12)	ひなた陸上競技場1 (第1種公認全天候 400m×8コース)	889-2151	// 大字熊野1443-12	総合受付 0985-58-5588 (58-6238)
4	// (S48.6)	第2陸上競技場1 (300m×6コース、投てき場)	//	// //	//
5	// (S46.3)	運動広場2 145m×100m (ソフトボール2)	//	// //	//
6	// (S49.3)	庭球場1 (砂入人工芝テニスコート24)	//	// //	//
7	// (S47.3)	第3競技場1 (第3種公認全天候 400m×8コース サッカー場1)	//	// //	//
8	// (S47.3)	ラグビー場1 (155m×85m)	//	// //	//
9	// (S47.3)	補助球技場1 (120m×84m)	//	// //	//
10	// (S46.3)	軟式野球場2 (軟式A:両翼99m 中堅122m、軟式B:両翼92m 中堅100m)	//	// //	//
11	// (S51.3)	合宿所1 (収容人員88名)	//	// //	//
12	// (S51.8)	トレーニング場1 (体育館1、ウエイトトレーニング場1)	//	// //	//
13	// (S53.3)	自転車競技場1 (400m×6車連、ホッケー場1)	//	// //	//
14	// (S56.3)	ゲートボール場1(4) (25m×20m)	//	// //	//
15	// (S57.2)	屋内練習場 (野球練習場) 1 (45m×45m)	//	// //	//
16	// (R元.9)	第2トレーニング場1	//	// //	//
17	// (R6.3)	屋内走路1 (100m・110mハードル兼用走路×5コース、走り幅跳び・三段跳び用走路1コース)	//	// //	//
18	ひなたサンマリンスタジアム宮崎 (H13.2)	硬式野球場1 (両翼100m 中堅122m 内外野とも天然芝張 観客収容人員30,000人)	//	// //	0985-58-5151 (58-3213)
19	ひなた武道館 (H10.11)	主道場1 柔道場1 剣道場1 副道場1 相撲場1 弓道場2 (近の場、遠の場) トレーニングルーム1	889-2151	宮崎市大字熊野2206番地1	0985-58-5151 (58-3213)
20	ひなた木の花ドーム (H16.2)	アリーナ1 (長径122m 短径102.5m 高さ38m 全面人工芝張)	889-2151	// 大字熊野1443-12	総合受付 0985-58-5588 (58-6238)
21	ひなたひむかスタジアム (S49.8)	第2硬式野球場1 (両翼92m 中堅122m 観客収容人員15,000人) *旧宮崎市営球場 (H16.4.1宮崎市から譲渡)	//	// //	//
22	アスリートタウン延岡アリーナ (新宮崎県体育館) サブアリーナ (R5.8)	サブアリーナ1 多目的室 (地域武道センター) 1	882-0803	延岡市大貫町1丁目2894	0982-21-3121
23	パーソルアクアパーク宮崎 (宮崎県プール) (R6.12)	50m室内温水プール1 (日本水泳連盟公認長水路:50m×10コース)、25m室内温水プール1 (短水路:25m×10コース)、トレーニングルーム1、屋内ボルダリングウォール1、屋外クライミングウォール1、多目的スタジオ1	880-0818	宮崎市錦本町4-1	0985-33-9378
24	KUROKIRI STADIUM (宮崎県山之口陸上競技場) (R6.12)	陸上競技場1 (世界陸連WAクラスII、日本陸連第1種公認全天候 400m×9コース)、屋内走路1、トレーニングルーム1、投てき練習場1	889-1802	都城市山之口町花木2381番地4	0986-57-2800

第6節 宮崎県競技力向上対策

第81回国民スポーツ大会宮崎県開催の決定を受け、天皇杯獲得に向けた取組を官民一体となって総合的かつ計画的に行うため、副知事を本部長とした宮崎県競技力向上対策本部を平成30年7月に設立した。対策本部は、第81回国民スポーツ大会に向けた競技力向上を図り、大会終了後も更なる本県スポーツの発展に寄与することを目的としている。

また、天皇杯獲得を目指すために必要となる競技力向上の具体的な対策を示す指針として、宮崎県競技力向上基本計画を策定し、「推進体制の整備・充実」、「選手の発掘・育成・強化」、「指導体制の充実・強化」、「環境条件の整備」を4つの柱として競技力向上対策を推進していくこととしている。

1 活動状況

(1) 宮崎県競技力向上対策本部

本部会議（年1回）、強化対策委員会（年2回）、専門委員会（強化専門委員会：年2回、社会人アスリート等確保専門委員会：年2回、コンディショニングサポート専門委員会：年2回）

(2) チームみやぎきミーティング（年2回）

公益財団法人宮崎県スポーツ協会の組織団体で、国民スポーツ大会の正式競技41競技の理事長及び強化委員長等が一堂に会し、本県の競技力向上対策について協議を行っている。

(3) 公益財団法人宮崎県スポーツ協会

傘下競技団体を中心に企画委員会及び強化・育成委員会を組織し、選手強化に伴う諸問題の研究と事業の計画を行っている。

(4) 指導者の養成

優れた指導者の招へい等により指導技術の向上を図るとともに、県内の有望指導者を全国の強豪校や大学、企業チームへ派遣し、研修視察等を行うなど、指導者の資質向上に努めている。

(5) 一貫した指導体制の確立

小学生から成年までの一貫した指導体制の整備に努めるとともに、発達段階や各種競技の特性に応じた指導の充実及び地域と密着したスポーツの振興に努めている。

(6) 選手強化対策

重点指定による強化を推進している。

- ・特技競技の育成・強化（国民スポーツ大会において、安定した競技得点が獲得できる競技）
- ・最重点強化（上位入賞が期待できる競技種別・個人）
- ・重点強化（入賞の可能性が高い競技種別）
- ・発展強化（入賞の可能性のある競技種別）

(7) 宮崎県高等学校競技力強化指定校

運動部活動において一定の実績がある高等学校を指定し、必要な支援を行うとともに、強化指定校を核とした部活動の一層の活性化を図り、本県高等学校のスポーツ水準の維持及び国民スポーツ大会へ向けた競技力向上を図っている。

・令和6年度 27校 31競技 73部

(8) 宮崎県中学校競技力向上拠点校

運動部活動において一定の実績がある中学校を指定し、必要な支援を行うとともに、高等学校競技力強化指定校と連携することで、本県における中学校のスポーツ水準の発展及び国民スポーツ大会へ向けた競技力向上を図っている。

・令和6年度 20校 21競技 36部

(9) 宮崎県中学校競技力向上推進校

運動部活動において一定の実績がある中学校を指定し、必要な支援を行うことで、本県における中学校のスポーツ水準の発展及び国民スポーツ大会へ向けた競技力向上を図っている。

・令和6年度 16校 16競技 22部

(10) 宮崎ワールドアスリート発掘・育成プロジェクト

県内の体力・運動能力に優れた小学生を選考し、育成プログラムにより子どもたちの可能性を広げ、将来、

本県や日本のリーダーとしてスポーツ界を牽引できる人材の育成を図るとともに、オリンピック競技大会等の国際大会におけるメダル獲得や第 81 回国民スポーツ大会における天皇杯獲得を目指すプロジェクトである。

○令和 6 年度在籍数

カテゴリー	キッズ	ジュニア		シニア
学 年	小学 6 年生	中学 1 年生	中学 2 年生	中学 3 年生
学年人数	29 名	28 名	25 名	25 名
カテゴリー人数	29 名	53 名		25 名
総 計	107 名			

2 事業実績

(1) 国民スポーツ大会（令和 5 年までは国民体育大会）九州ブロック予選通過状況

年 回	27	28	29	30	R 元	2	3	4	5	6
開催地	大分	宮崎	長崎	鹿児島	佐賀	沖縄	福岡	熊本	大分	宮崎
通過競技	17	21	18	19	19	中止	15※	19	19	21
通過種目	27	40	33	37	39		28※	38	38	43

※ 令和 3 年度第 41 回九州ブロック大会秋季大会については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、7 競技 21 種別で中止。

(2) 国民スポーツ大会（令和 5 年までは国民体育大会）参加者数

年 回	27	28	29	30	R 元	2	3	4	5	6	摘 要
開催地	和歌山	岩手	愛媛	福井	茨城	鹿児島	三重	栃木	鹿児島	佐賀	
参加者数	373	479	475	453	454	延期	中止	479	471	466	冬・夏・秋季大会 (監督・コーチ・選手)

(3) 国民スポーツ大会（令和 5 年までは国民体育大会）における本県の成績

年 回	27	28	29	30	R 元	2	3	4	5	6	
開催地	和歌山	岩手	愛媛	福井	茨城	鹿児島	三重	栃木	鹿児島	佐賀	
男女総合	順位	42 位	39 位	44 位	39 位	41 位	延期	中止	32 位	27 位	32 位
	得点	707.5 点	768.5 点	702 点	780.5 点	718 点			834.5 点	942.5 点	840.0 点
女子総合	順位	47 位	44 位	45 位	40 位	42 位			31 位	23 位	26 位
	得点	334.5 点	440.5 点	403 点	439.5 点	442.5 点	537.5 点	584.5 点			
全 体	入賞競技	14	18	14	16	15	17	24	18		

(4) 宮崎ワールドアスリート発掘・育成プロジェクトオーディション参加者と通過者

年度	H27	28	29	30	R 元	2	3	4
参加申込者	545	429	284	279	244	136	204	176
1 次通過者	115	110	134	132	157	136	96	119
2 次通過者	51	48	31	26	28	27	25	39
3 次通過者			29	25				
ワールドアスリート生	51	48	29	24	27	27	23	39
(うち)小学 4 年生	25	24	23	20	20	21	18	29
(うち)小学 5 年生	0	0	4	4	7	6	5	10
(うち)小学 6 年生	26	24	2					

令和 5 年度から募集停止

第7章 人 権 教 育

第1節 人権教育の推進163

第2節 学校における人権教育164

第3節 社会教育における人権教育165

第1節 人権教育の推進

1 人権教育の沿革

県教育委員会は、昭和52年7月28日、人間尊重の教育をより深く推進するとともに、真に差別をなくしていく意志と実践力とをもった人間の育成を目指した「宮崎県同和教育基本方針」を制定（昭和62年4月1日改訂）し、これに基づく同和教育を、すべての学校及び地域社会において推進し、県民一人一人が同和問題に対する認識を深め、自らの課題としてその解決に当たるよう努めてきた。

その後、平成8年、地域改善対策協議会意見具申において、「同和教育を人権教育として発展的に再構築すべきである」と提言され、また、平成12年に「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」が施行されたことなどから、本県においては平成17年1月に「宮崎県人権教育・啓発推進方針」（平成26年12月改定）を、4月1日に「宮崎県人権教育基本方針」を示し、人権教育を積極的に推進しているところである。

2 人権教育の総合的推進

人権教育は、全庁的な取組で推進しているが、さらに円滑かつ効果的な推進を図るため、昭和57年4月1日、教育庁に同和教育室（平成16年度「人権同和教育室」と改称）を設置した。

平成30年4月1日、組織改正により人権同和教育課に改編し、いのちの教育・調整担当と生徒指導・安全担当を設置した。

いのちの教育・調整担当は、「いのち」を大切にす教育の推進や人権教育に関する総合企画及び関係機関等との連絡調整を所掌する。令和6年度の主な事業は次のとおりである。

(1) 総合企画の推進

① 研修会等

名 称	期 日	参 加 者	人 数
教育庁職員等人権教育研修会	7, 10, 11 月	庁内各課(室)及び出先機関の職員	168 人
市町村教育長等人権教育研修会	8 月	市町村教育長等	45 人

② 資料作成

資 料 名	内 容	部 数 等
－ファミリーふれあい－小学生用	親子が共に学ぶための人間尊重に関する読み物	11,000 部
－ファミリーふれあい－中学生用	親子が共に学ぶための人権問題に関する読み物	11,300 部
－ファミリーふれあい－高校生用	高校生が人権について考えるための読み物	7,650 部

③ みやざきの「子どものいのちと人権」を守る推進事業

子どもたちが困難に直面したときに、信頼できる大人に援助を求める能力やストレスを改善する力を身に付けるとともに、子どもたちが抱えている人権に関わる問題や課題を解決し、子どもたちの人権感覚の高揚を図るため、それぞれ推進校を指定し「SOSの出し方に関する教育」と「人権教育」に取り組んだ。

(2) 関係機関との連絡調整

① 各課・各機関との連絡

教育庁内人権教育推進連絡会（本庁各課の課長補佐、教育機関等の指定職員で構成）を設置し、人権教育に関する情報交換及び推進についての研究協議等を行った。

② 市町村教育委員会との連携

事 業 名	期 日	対 象
人権教育推進研修会	6 月 ※オンデマンド研修	県内全公立学校等の管理職
人権教育推進のための市町村訪問	4～3 月	

③ 関係団体との連携

関係団体の開催する各種研究大会等に職員を派遣した。

第2節 学校における人権教育

学校における人権教育の充実を図るため、指導者養成、研究助成等を行っている。

I 指導者養成・研修奨励

昭和51年度から指導者の養成、教職員の研修並びに研究助成等を行い、人権教育の推進充実に努めている。
令和6年度の主な事業は次のとおり。

(1) 人権教育研究員配置

県立学校（5校に各1名）に配置

(2) 人権教育研究団体等に対する助成措置

- ・宮崎県人権・同和教育研究協議会助成・後援
- ・研究大会等の後援

第3節 社会教育における人権教育

人間尊重の教育をより深く推進するとともに、同和問題をはじめとする様々な人権問題を正しく認識し、真に差別をなくしていく意志と実践力をもった人間を育成するため、社会教育の各種学級・講座・研修等において、基本的人権の尊重を基調とする学習を積極的に取り入れ、住民が人権・同和問題を自らの課題として受け止めるよう指導の充実を図る。

1 指導者養成

社会教育における人権教育を充実するため指導者の養成・研修に努めている。令和6年度の主な事業は次のとおり。

研 修 会 名	参加者数	主 催	実 施 期 日
市町村人権教育行政担当者等研修会	20名	県教育委員会	令和6年7月29日(月)

第8章 学校以外の教育機関等

第1節	県教育研修センター	169
第2節	県立図書館	177
第3節	県立美術館	183
第4節	県総合博物館	190
第5節	県立西都原考古博物館	197
第6節	県埋蔵文化財センター	201
第7節	スポーツ指導センター	209
第8節	青少年教育施設	220

第1節 県教育研修センター

1 設置目的

昭和43年4月1日教育機関設置条例の一部を改正する条例（宮崎県条例第8号）により、宮崎県教育研究所を廃止し「教育関係職員の研修及び教育に関する専門的、技術的事項の研究を行う」ことを目的として、宮崎県教育研修センターが設置された。

2 施設（令和7年3月31日現在）

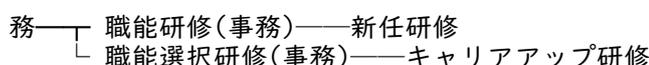
設置場所	宮崎市阿波岐原町前浜4276番729		
敷地面積	14,524.32㎡	建物	3,089.59㎡
		本館 2階建	2,781.16㎡
		附属棟（A棟） 1階建	187.54㎡
		附属棟（B棟） 1階建	120.89㎡

3 事業の概要（令和6年度）

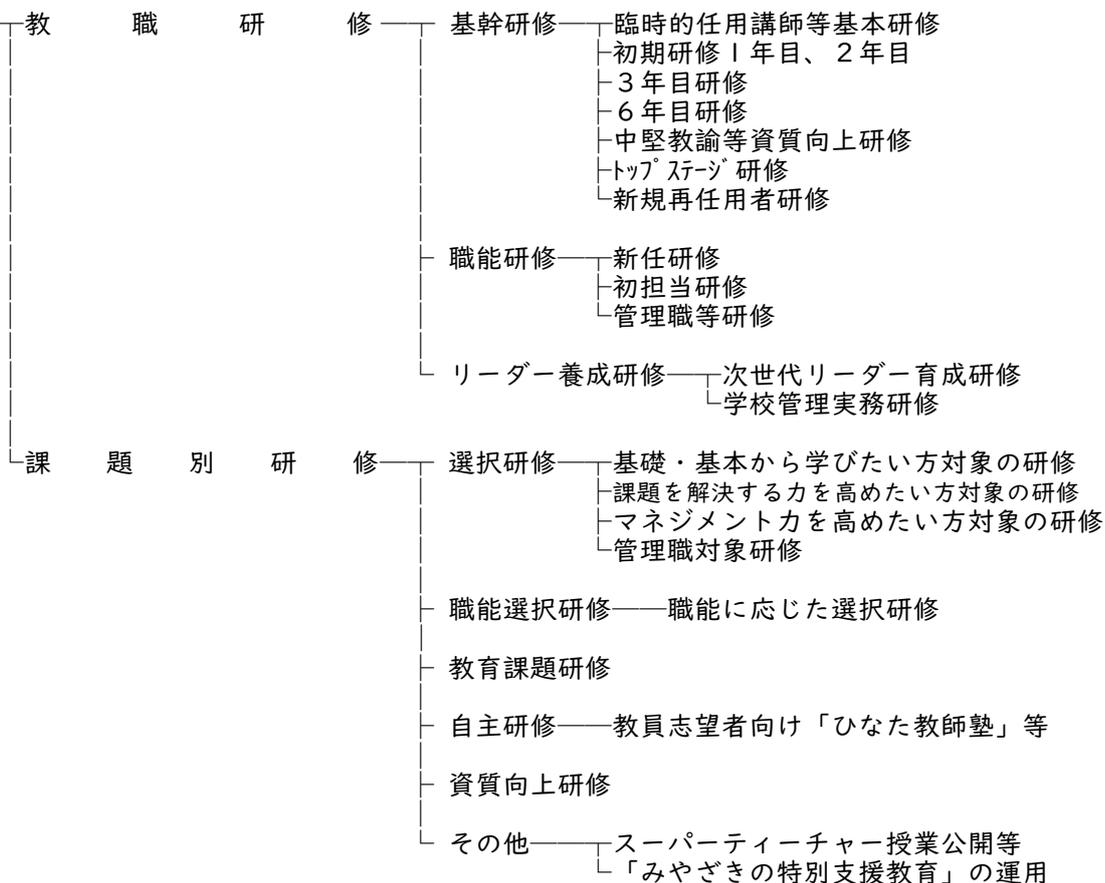
令和6年度教育施策に基づき、本県学校教育・生涯学習の向上並びに教育関係職員の資質の向上を図るため、総務課、学習研修課、教育支援課の3課が、次の事業を行った。

なお、文部科学省から示された「教師に共通的に求められる資質能力」のうち、個別最適な学び・協働的な学びを推進する上で重要となる「特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応」と「ICTや情報・教育データの利活用」については、学習研修課の特別支援教育担当と教育支援課の教育情報支援担当がそれぞれ関連する研修を行った。

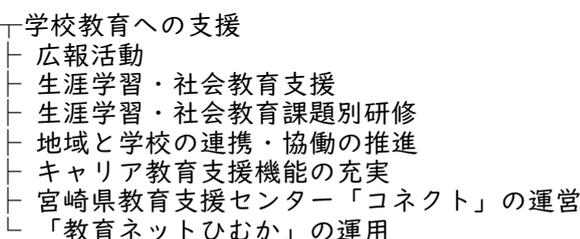
(1) 総務課 — 総務



(2) 学習研修課 — 教 職 研 修



(3) 教育支援課 — 教 育 支 援



4 令和6年度事業実績

(1) 総務課事業

- 総務・・・学校事務職員研修（学習研修課事業参照）

(2) 学習研修課事業

● 教職研修

※ 「研修回数・日数」について

- ・ 令和6年度は、全ての回を1日で行った。

※ 「対象者数」の人数について

- ・ 小・中学校教諭等には、国立小・中学校を含めている。
- ・ 中学校教諭等には、県立中学校及び中等教育学校（前期課程）を含めている。
- ・ 県立学校教諭等は、高等学校、特別支援学校、中等教育学校（後期課程）を合計している。

ア 基幹研修

【初期研修1年目、2年目】

- ・ 初期研修の対象となる公立小・中・義務教育学校及び県立学校の教諭等、養護教諭、栄養教諭に対して、県教育委員会が定める初期研修実施要項及び初期研修実施計画に基づき、校外研修の一環として基本的な研修を実施した。
- ・ 新規採用及び知事部局等から初めて公立小・中・義務教育学校及び県立学校に転任した事務職員（主事、主任主事、事務主査）に対して、事務新任者研修として、学校事務職員としての資質の向上を図ることを目的として、その職務遂行に係る基本的な事項について研修を実施した。

【初期研修1年目】

		小学校 教諭等	中学校 教諭等	義務教育学校 教諭等	県立学校 教諭等	養護教諭	栄養教諭	計
①	研修回数(回)	7			10	10	10	37
	日数(日)	7			10	10	10	37
②	対象者数(人)	169	72	2	95	15	1	354

※小・中・義務教育学校教諭は、上記に加え、各教育事務所で2日間、各市町村教育委員会で2日間実施

【初期研修2年目】

		小学校 教諭等	中学校 教諭等	義務教育学校 教諭等	県立学校 教諭等	養護教諭	栄養教諭	計
①	研修回数(回)	2			2	2	2	8
	日数(日)	2			2	2	2	8
②	対象者数(人)	87	61	4	106	20	1	279

【経験者研修】

- ・ 教諭等については、採用後3年目、6年目、概ね10年を経過した者を対象として、一層の指導力の向上を図るため、教育指導上の諸問題について研修を実施した。
- ・ 養護教諭については、採用後3年目、6年目、概ね10年を経過した者を対象として、一層の資質の向上を図るため、時代に即した新たな健康問題への対応の在り方等について研修を実施した。
- ・ 栄養教諭については、採用後3年目、6年目、概ね10年を経過した者を対象として、自己の課題や児童生徒の食に関する課題の現状を把握し、積極的に学校給食の管理や食に関する指導を展開できる実践力を身に付けるための研修を実施した。

【3年目研修】

		小学校 教諭等	中学校 教諭等	義務教育学校 教諭等	県立学校 教諭等	養護教諭	栄養教諭	計
①	研修回数(回)	1			1	1	1	4
	日数(日)	1			1	1	1	4
②	対象者数(人)	120	54	1	92	14	1	282

※上記に加え、選択研修を2日間受講。

【6年目研修】

		小学校 教諭等	中学校 教諭等	義務教育学校 教諭等	県立学校 教諭等	養護教諭	栄養教諭	計
①	研修回数(回)	2			2	3	3	10
	日数(日)	2			2	3	3	10
②	対象者数(人)	192	55	11	60	18	4	340

【中堅教諭等資質向上研修】

		小学校 教諭等	中学校 教諭等	義務教育学校 教諭等	県立学校 教諭等	養護教諭	栄養教諭	計
①	研修回数(回)	5			5	5	6	21
	日数(日)	5			5	5	6	21
②	対象者数(人)	46	45	1	56	17	7	172

※上記に加え、小・中・義務教育学校教諭等は、各市町村教育委員会で1日間実施。

※上記に加え、選択研修を受講。(小・中・義務教育学校教諭等、栄養教諭は2日間、国立小・中教諭等、県立中教諭等、県立学校教諭等、養護教諭は3日間)

〔臨時的任用講師等基本研修〕

	小学校	中学校	義務教育	県立学校	計
受講者数(人)	102	71	6	92	271

〔新規再任用者研修〕

	小学校	中学校	義務教育	県立学校	計	
①	研修回数(回)	1			1	
	// 日数(日)	1			1	
②	対象者数(人)	2	4	0	3	9

〔トップステージ研修(指定年齢)〕

	小学校	中学校	義務教育	県立学校	計
対象者数(人)	113	117	3	190	423

※選択研修を2日間受講。

イ 職能研修

学校の管理職及び教務主任、複式学級初担任や特別支援学級初担任など専門的な教育指導等を必要とする職能について、その職務遂行に応じた基本的な事項や教職員としての資質の向上を図るための研修を実施した。

領域	職 能 名	講 座 数	日 数 (日)	対象者数 (人)
管理職等	新任校長	1	3	78
	新任教頭	1	2	95
	新任事務長	1	2	16
	新任事務主幹	1	2	3
	新任主幹教諭	1	1	54
	新任指導教諭	1	1	10
主任等	新任教務主任	1	1	85
	新任生徒指導主事	1	1	98
	新任進路指導主事	1	1	50
	新任保健主事	1	1	81
	新任特別支援教育コーディネーター	1	1	80
	新任事務主任	1	1	6
	新任共同実施主任	1	1	9
担当教諭	複式学級初担任	1	2	44
	特別支援学級初担任	1	2	206
	通級指導教室初担当者	1	1	46
学校事務	学校事務職員新任者研修	1	2	42
合 計		17	25	1,003

ウ リーダー養成研修

〔リーダー養成研修〕

公立学校の教職員を対象に、本県教育のリーダーとしての資質の向上や本県教育水準の向上を図ることを目的として、学校運営を行っていく上での基礎的な知識を身に付けるための研修を実施した。

講 座 名	日 数	学 校 種 別 対 象 者 数				
		小	中	義務	県立	計
次世代リーダー育成研修	10	14	9	2	15	40
学校管理実務研修	4	79	49	1	33	162
計	14	93	58	3	48	202

● 課題別研修

ア 選択研修

教職員のライフステージに応じた資質・能力・マネジメント力等の育成及び喫緊の教育課題への対応力の向上と教育実践力の進化・充実を図った。

研修数	日数	受講者数
40	69	5,023

※ 実施研修

- ① 基礎・基本から学びたい方向け研修
キャリア教育、特別支援教育、授業研究、生徒指導、保護者連携
- ② 課題を解決する力を高めたい方向け研修
カリキュラム・マネジメント、キャリア教育、人権教育、特別支援教育と生徒指導、児童生徒の特性に応じた支援、OJTの推進、不登校未然防止
- ③ マネジメント力を高めたい方向け研修
学校と地域との連携・協働、特別支援教育と組織マネジメント、ネット社会への対応、コーチングスキル
- ④ 管理職としてのマネジメント力を身に付けたい方向け研修
スクール・コンプライアンス、カリキュラム・マネジメント、人材育成

イ 職能選択研修

希望者向けに、各職能に関する専門的事項について研修を行い、職能としての資質の向上を図った。

講座数	日数	受講者数
9	10	906

ウ 教育課題研修

喫緊の教育課題の解決や本県の教育施策の充実を図るための研修を実施し、教職員のライフステージに応じた資質・能力・マネジメント力等の育成及び喫緊の教育課題への対応力の向上と教育実践力の進化・充実を図った。

研修数	日数	受講者数
10	15	1,335

エ 自主研修

教職員や保護者等、県民が自主的に参加する研修の場の充実を図るとともに、臨時的任用講師等の指導力の向上を図った。

研修数	日数	受講者数
4	16	688

※ 実施講座 ひなた教師塾、(いつもよりちょっと楽しい)ICT講座、Weekend Short Seminar、教職員なかまづくり講座

オ 資質向上研修

教育実践上の基礎的・基本的な研修や人間関係づくりを目的とした研修等を実施し、教職員の資質の向上を図った。

講座名	期間	学校種別受講者数				
		小	中	義務	県立	計
資質向上研修等	1年間	1	1	0	0	2

(3) 教育支援課事業

● 教育支援

ア 学校教育への支援

- ① 学校教育に関する課題等についての質問や相談への対応
個人(教職員)及び学校や教育研究団体を対象として、来所、電話、メール、FAXによる質問や相談への対応を行った。

来所	電話	メール	FAX	総計
8	73	1	0	82

② 研修サポート

幼・小・中・県立学校、教育研究団体等の研究及び研修について、要請に応じて指導主事等の派遣による指導・援助を行った。(※小中一貫校は、中学校に含める。)

校種等	小学校	中学校	義務教育	県立学校	その他	計(昨年度)
指導主事等派遣(件)	21	20	2	13	12	68(82)

③ 教育資料、図書、DVD等の紹介・貸出

カリキュラム支援センター所蔵の教育資料、図書、DVD等の紹介、貸出しを行った。

図書	学校経営案等	貸出者数(昨年度)
所有数	所有数	318(352)
7,097	1,040	

④ 自主研究グループへの支援

自主研究グループを募集し、11団体を指定。延べ1回の指導主事等による研究会の支援や研修場所の提供を行った

グループ名	研究内容	グループ名	研究内容
全国養護教諭連絡協議会宮崎県研究会	養護教諭の資質向上	岩熱教室	授業における教育技術力の向上
みやざき養護教諭29(にく)研修会	養護教諭の資質向上及び執務の効率化	ひなた宮崎音楽塾	ハイブリッドな音楽教育
養護教諭15(いちご)の会	学校における救急処置の在り方	英語授業実践研究会	英語指導における効率的な指導・評価方法
みやざき特別支援教育コミュニティ	障がいの状態や特性に応じた指導支援	家庭科イノベーション	家庭科における指導方法
Seitoshido2024	生徒指導実践及び組織マネジメント	啐啄教師塾	生徒指導や教科指導、学校経営に関する課題解決
TEAM NEXT-MIYAZAKI YOGO TEACHER-	養護教諭の資質向上と他の養護教諭・教諭との協働		

イ 広報活動

① 目的

教育研修センター事業の内容や成果について、教職員及び県民に広く周知する。

② 事業実績

- 「利用の案内」及び「要覧」の電子データをWebページに掲載するとともに、「利用の案内」を県内教育関係機関、各小・中・県立学校等へ配付した。
- 学校支援に関する情報(研修サポート、研修で利用できる資料、サイエンスアドバイザー、自主研究グループ、学校におけるキャリア教育)やチラシなどをWebページに適宜掲載した。

ウ 生涯学習・社会教育支援

① 社会教育基礎講座

講座数・日数・受講者数等

講座数	日数	受講者数
1	1	28

講座内容・日数・受講者数等

目的	講座内容	期日	受講者数
生涯学習・社会教育を推進するために必要な基礎的知識・技能等を学び、市町村社会教育行政職員としての資質の向上に資する。	・講義 「生涯学習概論～社会教育の意義・特性、社会教育行政の組織と役割～」 ・講義・演習 「社会教育経営論～事業の企画・立案～」	5/9 (木)	28

② 社会教育専門講座

講座数・日数・受講者数等

講座数	日数	受講者数
1	1	82

講座内容・日数・受講者数等

目的	講座内容	期日	受講者数
トークセッションや県内好事例の紹介、意見交換を通して、これからの生涯学習・社会教育に関する知見を広め、各市町村における取組の充実に資する。	・トークセッション 「これからの生涯学習・社会教育」 ・事例紹介 「生涯学習・社会教育関係事業の好事例の紹介」 ・意見交換 「各市町村の実態共有や今後の取組等について」	4/17 (水)	82

エ 地域と学校の連携・協働の推進

県民総ぐるみ「地域・学校づくりのつどい」

「地域と学校の連携・協働」のさらなる具現化を図るために、地域学校協働活動とコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の一体的推進に向けての理解・深化や実践への動機付けを通して、学校・家庭・地域や企業・市民団体等が一体となって取り組む県民総ぐるみによる教育を推進し、これからのみやざきを担う人材育成や地域の活性化に資するために、以下の研修会を実施した。

会場	研修内容	時間	期日	受講者数
宮崎地区 (メイン会場) 県教育研修センター ※メイン会場からオンライン 配信 (オンライン参加者) 各勤務校等	・説明 「コミュニティ・スクールと地域学 校協働活動の一体的推進及び本研修 会の目的」 ・実践発表 「都農南小の学校運営協議会の取組 について」 ・講話 「地域の中に学校を 学校の中に地 域を」 ・対話 「説明・実践発表・講話を踏まえ、 コミュニティ・スクールと地域学校 協働活動を一体的に推進するため にできることは何か」	13:30～ 16:10 対面及び オンライン	8/7 (水)	544
北諸県・西諸県地区 (メイン会場) えびの市文化センター ※メイン会場からオンライン 配信 (オンライン参加者) 南九州大学 都城キャンパ ス、各勤務校等	・説明 「コミュニティ・スクールと地域学 校協働活動の一体的推進及び本研修 会の目的」 ・講話 「地域の中に学校を 学校の中に地 域を」 ・実践発表 「地域をベースにした探究から拡が る学び」 ・対話(質疑応答) 「地域ぐるみでつくる未来への道し るべ」	9:30～ 12:05 対面及び オンライン	8/3 (土)	665
延岡・日向・門川地区 カルチャープラザのべおか ※メイン会場からオンライン 配信 (オンライン参加者) 各勤務校等	・説明 「コミュニティ・スクールと地域学 校協働活動の一体的推進及び本研修 会の目的」 ・実践発表 「細島が好きな子どもを育てる学校 ・地域づくり～学校と公民館の協働 によるキャリア教育を通して～」 ・講話 「子どもたちの未来のために、今私 たち大人にできること～コミュニテ ィ・スクールと地域学校協働活動の 理解と促進に向けて～」 ・対話(質疑応答) 「コミュニティ・スクールと地域学 校協働活動の一体的推進に向けて」	13:20～ 16:10 対面及び オンライン	9/27 (金)	188
西臼杵・諸塚・椎葉・美郷地 区 北郷総合交流センター ※メイン会場からオンライン 配信 (オンライン参加者) 各勤務校等	・説明 「コミュニティ・スクールと地域学 校協働活動の一体的推進及び本研修 会の目的」 ・実践発表 「椎葉村の取組」 ・講話 「子どもたちの未来のために、今私 たち大人にできること～コミュニテ ィ・スクールと地域学校協働活動の 理解と促進に向けて～」 ・対話(質疑応答) 「コミュニティ・スクールと地域学 校協働活動の一体的推進に向けて」	13:20～ 16:10 対面及びオ ンライン	10/25 (金)	115

オ キャリア教育支援機能の充実

① キャリア教育推進に関する対応(令和7年3月31日現在)

学校の校内研修や市町村教育委員会が主催する研修など、以下のような支援を行った。

コーディネーター		課員		合計		
相談・支援等	講演等	相談・支援等	講演等	相談・支援等	講演等	件・人数合計
413件	197件	131件	13件	544件	210件	754件
4,856名	15,068名	2,603名	1,028名	7,459名	16,096名	23,555名

※相談・支援等…キャリア教育の推進についての講義、協議、相談

※講演等…各種研修会等における講演や、よのなか教室の講師等

- ② キャリア教育の推進拠点やエリアへの支援
- (1) 市町キャリア教育支援センターやセンター的機能を有する市町村の取組を支援するとともに、センターの新規開設に向けた啓発活動を行った。
 - (2) 県立学校におけるキャリア教育推進及び県キャリア教育コーディネーター活用の周知を図るため、キャリア教育推進指定校（略称：CEハイスクール）への訪問を行った。
 - (3) 各種エリア会議等に参加し、情報収集及び県のキャリア教育推進に関する情報発信を行った。
（都城商工会議所就職支援委員会、都城青年会議所キャリア教育勉強会、都城地区エリアネットワーク会議、宮崎経済同友会キャリアデザイン委員会、地域創生セミナー〔高千穂町〕、県北地域企業経営者の人材育成に関する情報交換会）
 - (4) 特別支援学校におけるキャリア・パスポートの活用に関する校内研究支援を行った。
- ③ キャリア教育研修（教育課題研修）の実施
- (1) 「みやざきのキャリア教育①」（県立学校管理職及びキャリア教育推進リーダー対象）
 - (2) 「社会とのつながりを生かした学校経営～これからの時代に求められる管理職の役割～」（管理職対象）
 - (3) 「みやざきのキャリア教育②」（県立学校キャリア教育推進リーダー対象）
 - (4) 県立学校初期研修2年目 講義
 - (5) 公立小・中・義務教育学校初期研修1年目研修 講義
- ④ キャリア教育プログラムの実施
- (1) 中学生段階からキャリア形成支援を行う「ひなた場」（対話型キャリア教育プログラム）を21校で実施した。また、講師や生徒向け事前説明会で学校が使用する動画を含む関連資料を宮崎県キャリア教育支援センターWebページに掲載し、各学校が主体的に取り組むことができるよう工夫した。
 - (2) 学校の要望を受け、各種キャリア教育プログラムを実施した。（キャリア教育の視点を生かした探究学習、課題研究発表会、進路講演会、地域企業見学、保護者向け講演、職員研修等）
- ⑤ 広報活動
- (1) 宮崎県内で行われている様々なキャリア教育プログラムについて、各種研修会で紹介した。
 - (2) 「宮崎県キャリア教育支援センター」のリーフレットを作成した。教職員の関心を高めるためにデザインや内容を工夫し、ミラ임にて県立学校全教職員に配信した。
 - (3) 「宮崎県キャリア教育支援センター」の活動事例をWebページに掲載した。
 - (4) キャリア教育に関する研修において、各県立学校の実践状況を集約するとともに、集まった情報については県立学校全教職員が共有できるようにした。
 - (5) 「宮崎県キャリア教育支援センター」内で教育資料（教育雑誌、書物他）に関する情報発信を行った。

カ 宮崎県教育支援センター「コネクト」の運営

① 不登校児童生徒等への直接支援

学校種	電話等相談	見学	面談	利用申請	利用人数
小学校	18	16	16	16	15
中学校	26	18	13	12	11
高等学校	27	12	10	10	5
特別支援学校	0	0	0	0	0
その他	1	1	1	1	0
計	72	47	40	39	31

(1) 支援体制

ア 教育支援センター

・主任支援員1名、支援員4名、スクールカウンセラー1名、スクールソーシャルワーカー1名

イ 学生ボランティア

・28名登録（宮崎大17名、宮崎国際大8名、南九州大2名、九州医療科学大1名）

(2) 主な活動内容

ア 常時活動

・自学自習 ・栽培活動 ・読書 ・室内外スポーツ ・散策等

イ 季節に応じたイベント

・夏祭り（スイカの収穫、スイカ割り、そうめん流し）
 ・秋祭り（親子ウォークラリー、バーベキュー）
 ・冬祭り（巨大書き初め、手作り凧揚げ、豚汁の振る舞い）
 ・春祭り（パンケーキ作り）

ウ オンライン「コネクト」

・9月より毎週水曜日実施（計23回実施）
 ・延べ231名参加（1回平均利用10.0人）
 ・主な内容：クイズ、特技披露、自己紹介、潜入捜査（県総合博物館）、メタバース体験
 他県とのコラボ（三重県、長崎県）、大学紹介、観光地から（綾、青島、平和台）等

- エ Live 配信型講座
 - ・11月より毎週水曜日実施（計14回実施）
 - ・延べ39名参加（1回平均利用2.8人）
 - ・主な内容：国語、数学、英語、進路関係
- ② 学びの支援体制の研究
 - (1) ワーキンググループ（全4回）
 - ・「遠隔授業」の活用における調査・研究について
 - (2) 先行実践自治体の県外視察
 - ・広島県県教育支援センター、三重県教育支援センター、鎌倉市教育委員会、戸田市教育支援センター
- ③ 市町村教育支援センターの連携拠点
 - (1) 連絡協議会の開催
 - 第1回（6/27）各市町村支援センターとの連携について 他
 - 第2回（10/25）各市町村支援センターにおける具体的な実践紹介 他
 - 第3回（1/31）各市町村支援センターの現状と課題の共有 他
 - (2) 訪問
 - ・各市町村支援センターの訪問（8/19～10/15）・・・県内30カ所
- ④ 関係団体等との連携
 - (1) 連絡協議会及びオンライン情報交換会の開催
 - 第1回連絡協議会（6/27）各フリースクール等との連携について 他
 - 情報交換会：オンライン（11/29）各フリースクール等との取組と課題の共有 他
 - 第2回連絡協議会（1/23）これからの不登校児童生徒への支援について 他
 - (2) 訪問
 - ・各フリースクール等の訪問（8/19～10/13）・・・県内28カ所
- ⑤ その他
 - (1) フィール「コネクト」・・・不登校支援に関する講演会等
 - 開催日時・参加者及び内容
 - 第1回（9/17）・・・参加者168名（内オンライン81名）
 - 「学校に行きづらさを感じている子どもたちの支援を考える講演会」 中邑賢龍氏
 - 第2回（12/14）・・・参加者71名
 - 「不登校の子どもが新しい一歩を踏みだすとき」 石井しこう氏
 - 第3回（2/22）・・・参加者72名
 - 「命の授業」 腰塚勇人氏
 - (2) リーフレットの作成
 - ・「コネクト」に関する内容（対象、利用時間、スタッフ、活動内容、Q A、アクセス等）を紹介するリーフレットを作成した。

第2節 県立図書館

1 設置

県立図書館は、明治35年(1902年)に誕生し、現在の館は、置県100年記念事業の「宮崎県総合文化公園建設構想」に基づき最初に建築した施設として昭和63年5月23日、県総合文化公園内に開館した。

県立図書館は、社会教育を担う中核施設としての使命を踏まえ、基本目標として《「知の共有・創造」を支える全県的な図書館ネットワーク》の実現を目指すこととした宮崎県立図書館ビジョンを平成29年12月に策定した。また、策定後の図書館を取り巻く環境の変化に応じて一部内容を見直し、令和5年2月には当該ビジョンを次の枠組みに改めて、県民の学びを支え、宮崎の歴史・文化を伝える役割をより明確にした。

宮崎県立図書館ビジョン

人の暮らしを豊かにし、地域の課題解決に役立つ図書館

行動指針及び今後の施策展開の方向性

指針1 図書館の図書館(全県ネットワーク)

- (1) 市町村立図書館(室)等の支援・協力
- (2) 学校図書館の支援
- (3) 大学図書館への利用促進
- (4) 図書館活動・ネットワークを支える施設・システムの維持管理
- (5) 図書館の図書館としての情報発信

指針2 みやざきの資料(地域資料)の拠点

- (1) 地域資料の収集・保存・発信の全県的な促進
- (2) 地域情報のデジタル化・データベース化

指針3 調べたい、学びたいに資料・情報・知識で応える

- (1) レファレンスサービスの充実
- (2) 専門的な資料・情報の収集・整理・保存・提供
- (3) 生涯読書活動の推進
- (4) 他の専門機関との連携
- (5) 情報アクセス環境の整備
- (6) 政策立案の支援
- (7) 地域の実情に応じた課題解決型サービス
- (8) 専門的なサービスを支える人材の育成・確保
- (9) 新たな動向の把握及び事業の改善

【重点取組事項】	事項1	事項2	事項3	事項4	事項5
	デジタル化の推進と「ひなた電子図書館」の活用促進	障がい者サービスの充実による利用支援	市町村立図書館(室)・学校図書館に対する支援	専門的資料及び地域資料の収集・整理・活用	県内公共図書館(室)職員の専門的知識・スキルの向上

沿革

明治35年5月	私立日州教育会附属図書館の寄贈を受けて開館
大正4年11月	御大典記念事業として新館建設
昭和24年5月	増改築
昭和34年4月	近隣の町村会館から出火、類焼により焼失
昭和36年7月	新館開館
昭和63年5月	置県100年記念事業として総合文化公園に移転新築開館
平成22年10月	新書庫へ視聴覚演習室改修(収蔵能力4万冊増)

施設の概要

設置場所	宮崎市船塚3丁目210番地1(県総合文化公園内)		
建築面積	6,067㎡	延床面積	9,729㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造2階建 収蔵能力84万冊		

閲覧室系設置席数	一般閲覧室	235席	研修室系収容席数	研修ホール	156席
	郷土資料室	32席		視聴覚室	100席
	児童図書室	22席		研修室	52席
	AVコーナー	6席		読書振興室	16席
	パソコン席	23席			
	新聞コーナー席	12席			

2 資料概況

県立図書館の蔵書数は、令和6年度末で約85.4万冊となっている。

県民に対する社会教育を推進し、県民の生涯にわたる学習活動を支えるために、各分野における基本的な資料から専門的な資料まで幅広く収集し、特に市町村図書館等との役割を踏まえた収集、学校教育支援のための収集、郷土資料の収集、子どもの読書活動推進のための収集、自然や環境及び本県の産業に関する特色ある図書館づくりのための収集、地域や社会人支援のための収集に重点的に取り組んでいる。

資料購入の推移

(金額：千円)

区分	R 2		R 3		R 4		R 5		R 6	
	購入数	金額								
図書	9,501	33,834	9,465	34,779	10,318	35,091	9,101	36,549	8,437	36,689
逐次刊行物	3,460	5,629	3,544	5,792	3,553	5,881	3,506	6,304	3,525	6,201
視聴覚資料	37	888	22	734	25	779	20	747	21	765
計	12,998	40,351	13,031	41,305	13,896	41,751	12,627	43,600	11,983	43,655

配架別・分類別資料数

(令和7年3月31日現在)

区分	閲覧室	児童図書室	書庫	B M書庫	視聴覚資料	その他	合計	割合 (%)
0 総記	8,376	926	42,550	866	385	466	53,569	6.2
1 哲学	4,727	300	20,720	1,039	112	3	26,901	3.2
2 歴史	13,928	1,671	58,261	2,547	908	355	77,670	9.1
3 社会科学	24,444	2,707	156,797	5,170	2,431	374	191,923	22.4
4 自然科学	13,823	3,888	46,480	5,963	1,134	24	71,312	8.4
5 技術	12,169	1,654	44,020	4,849	772	24	63,488	7.4
6 産業	11,100	864	40,100	1,929	557	9	54,559	6.4
7 芸術	10,465	2,814	46,640	4,527	7,580	269	72,295	8.4
8 言語	3,102	618	10,183	1,114	146	44	15,207	1.8
9 文学	27,008	19,236	142,059	38,261	370	66	227,000	26.6
計	129,142	34,678	607,810	66,265	14,395	1,634	853,924	100.0

3 事業実績

(1) 館内利用事業

県立図書館では、図書資料等の閲覧・貸出、レファレンス（調査相談）業務等を行っている。特にビジネスに関する様々な情報を提供するビジネス支援サービス、郷土資料や行政資料等の収集や積極的な活用、関係機関と連携した県政の重点施策情報発信事業等、県民への情報発信に努めている。

また、身近な健康や病気に関する資料を揃えた健康情報コーナーの設置、健康相談「まちの保健室」の開催、妊娠・出産・育児など子育てに関する資料を児童図書室内に揃えた子育て支援コーナーの設置など、身近な課題解決に役立つ情報提供にも努めている。

① 貸出冊数等

入館者数・登録者数・貸出冊数（開館日数：285日）

(令和6年度)

区分	入館者	登録者	貸出冊数	1日平均入館者	1日平均登録者	1日平均貸出冊数
利用者	人	649人	41,664冊	人	2.3人	146冊
0歳～6歳		620	43,487		2.2	153
7歳～12歳		167	3,165		0.6	11
13歳～15歳		149	1,300		0.5	5
16歳～18歳		231	4,417		0.8	15
19歳～22歳		452	10,266		1.6	36
23歳～29歳		1,015	40,440		3.6	142
30歳～39歳		1,027	50,009		3.6	175
40歳～49歳		740	30,815		2.6	108
50歳～59歳		690	33,789		2.4	119
60歳～69歳		576	46,564		2.0	163
70歳～						
計	373,604	6,316	305,916	1,311	22.2	1,073

分類別図書貸出冊数

(令和6年度)

分類別	閲覧室	児童図書室	計	1日平均	分類別	閲覧室	児童図書室	計	1日平均
0 総記	6,171	1,541	7,712	27	6 産業	9,143	2,837	11,980	42
1 哲学	6,306	1,110	7,416	26	7 芸術	14,403	9,428	23,831	84
2 歴史	12,896	4,655	17,551	62	8 言語	3,489	1,811	5,300	19
3 社会科学	23,329	5,653	28,982	102	9 文学	52,550	96,965	149,515	525
4 自然科学	15,783	13,313	29,096	102	合計	162,239	143,677	305,916	1,073
5 技術	18,169	6,364	24,533	86					

レファレンス業務

(令和6年度)

区分	対面	電話	文書等	F A X	Eメール	計(件数)
件数	4,737	1,319	7	523	175	6,761

相互貸借件数

(令和6年度)

区分	国立国会図書館借受	県内外図書館借受	県外図書館貸出	計(冊)
件数	0	365	158	523

- ② ビジネス支援
 県立図書館の持つ様々な蓄積されたデータ情報や資料等をもとに、ビジネス関連情報のコーディネートを行っている。関係機関とのビジネス情報の共有化を図る中で、県民が必要としている情報の提供（関係機関の紹介等含む。）を行っている。
- ビジネス情報コーナー
 - ・ビジネス関連資料 … 会社録、業界情報、業界名鑑、統計、白書、雑誌等
 - ・「仕事」本 … 資格取得、キャリアアップのための書籍等
 - ・パンフレット … 各種政策、求人情報、セミナー等のパンフレット
 - ・パソコン席 … 個人持ち込み用パソコン席15席
 インターネット専用利用者パソコン4台、データベース専用パソコン4台
 - 関係機関との共催による企画展、セミナー等
 〈令和6年度実績〉
 高校生向け「ビジネスプラン作成講座」開催 7月27日 参加者数：23人
- ③ 児童サービス
- 読み聞かせ
 子どもの想像力を育て、多くの言葉と出会う機会を持たせるために、毎週3回職員とボランティアによる絵本の読み聞かせを行っている。
 - ・毎週火曜日：午後2時～午後2時20分（図書館職員による読み聞かせ）
 - ・毎週水曜日：午後3時～午後3時20分（ボランティア団体による読み聞かせ）
 - ・毎週土曜日：午後3時～午後4時（〃〃）
 〈令和6年度実績〉
 読み聞かせ利用者数 こども：1,239人 大人：1,010人 合計：2,249人
 - 子育て支援
 児童図書室内に、妊娠、出産、育児、しつけなど子育てに関する図書や雑誌等をまとめた「子育て支援コーナー」を設置している。
- ④ 健康情報サービス
- 宮崎大学医学部がん相談支援センターとの連携
 がん対策に関するパネル展示のほか、関連するパンフレット、チラシを設置している。
 - 健康相談「まちの保健室」の開催
 第5週を除く毎週土曜日に、1階ギャラリーで宮崎県看護協会より派遣される保健師等による相談会を実施している。
 〈令和6年度実績〉 相談者数 延べ：600人
 - 「がんサロン」の実績
 〈令和6年度実績〉 1回実施（11月4日） 参加者数：61人
 - 『声に出して言葉を楽しもう会』の開催
 〈令和6年度実績〉 4回実施（6月12日、9月12日、12月4日、2月21日） 参加者数 延べ：56人
- ⑤ 障がい者等サービス
- 来館が困難な程度の障がい者を有する方々への無料郵送貸出、視覚障がい者等のための音声録音図書の貸出を平成27年3月から実施している。
- 〈令和6年度実績〉 利用登録者数 新規：7人 年度末計：25人 延べ利用者数：691点
- 『読む』サポートコーナーの設置
 本を読むことに困られている方が、読書を楽しむことができる資料を配架している。
 LLブック、点字資料、マルチメディアDAISY等
 - 視覚障害者等用データ送信サービスの開始
 閲覧室に設置してある端末で、国立国会図書館が製作した視覚障害者等用資料（学術文献のテキストデータ及び録音データ等）のDAISYデータ等と、図書館等が製作し国立国会図書館が収集した視覚障害者等用データ（DAISYデータ）を利用できるようにしている。
- ⑥ 郷土情報の発信
- 郷土資料室の充実
 今後の施策展開として「みやざきの文化の理解・継承の促進」を掲げ、宮崎の歴史や自然、文学、先人に関する資料の充実を図っている。また、県・市町村・国からの刊行物はもちろん、全市町村の広報誌など行政資料の収集にも取り組み、関係機関と連携して積極的に郷土情報の発信に取り組んでいる。
 - 特別展・企画展
 - ・特別展：「中村地平の足跡（あしあと）」（9月21日～11月24日）
 - ・企画展：「牧水遺墨展」（12月7日～1月26日）
 - ・共催展：「遺跡発掘成果展2024『東九州自動車道118遺跡 ～清武～西都編～』」（2月19日～3月9日）

- 巡回展
 - ・「中近世の日向国」 綾てるは図書館（5月14日～5月31日）など3会場
 - ・「宮崎の鉄道～鉄道敷設の歴史～」 西都市立図書館（4月9日～4月21日）など14会場
 - 講座
 - ・宮崎県文化講座
特別展に関連して作家・中村地平の研究者等による講演・鼎談を実施（10月6日） 受講者67人
 - ・古文書講座
「地方（じかた）文書の世界」 全4回実施（6月1日、7月6日、8月3日、9月7日） 受講者計89人
 - 刊行資料
 - ・『宮崎県文化講座研究紀要 第51輯』
 - ・『佐土原藩嶋津家江戸日記（二十六）』
- ⑦ 職場体験学習・施設見学等
小学生等の館内見学や中学生からの職場体験学習を積極的に受入れ、図書館の利用促進や学生の就業体験、図書館司書の実習等を行っている。

施設見学の受入状況

（令和6年度）

種別	幼稚園・保育所	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学	一般	計
受入団体数	3	8	1	0	0	1	2	15
人数（延数）	92	618	157	0	0	10	17	894

- ⑧ 関係機関と連動した情報発信事業
- ア) 県立図書館ギャラリー展（県政の重点施策情報発信事業）
県政の重点施策や地域の課題等を県民に周知し理解を促すことを目的として、県・国等の関係機関と社会教育施設である県立図書館が互いの資産（人・物・施設等）を有効活用し、企画展や関連イベント等の情報発信事業を図書館の施設を使用して実施している。
○令和6年度実施事業数…28事業
〈実施事業例〉
男女共同参画パネル展、人権啓発パネル展、日本のひなた宮崎国スポ・障スポ展 等
- イ) 県立図書館ギャラリー展（主催・共催事業）
県政の重点施策情報発信事業以外に、当館が定めたテーマによる主催行事や関係機関との共催事業を実施し、積極的に情報発信を行っている。
○令和6年度実施事業数…6事業
〈実施事業例〉
こどもの読書週間・秋の読書週間企画展、NHK大河ドラマ「光る君へ」全国巡回展 等
- ウ) 県内公共図書館・図書室における巡回展
県政の重点施策情報発信事業においては、広く県内各地に周知を図るべきものであることから、県内公共図書館・図書室での巡回展を実施している。
○巡回展実施館数…21館（室）
○巡回展実施事業数…45事業
- ⑨ 各種相談事業
地域や住民の課題やニーズの多様化に対応するためには、情報提供だけでなく「人」と「組織」を結びつける積極的なレフェラルサービスも必要であり、各種機関と連携した相談会を実施している。
- ア) 法律相談会
・実施日…毎月第2金曜日（8月を除く） ・相談件数…17件
- イ) ランタンのつどい（自死遺族の思いの分かち合いの会）
・実施日…毎月第2土曜日 ・参加者数…75人

(2) 館外利用事業

- ① 移動図書館車「やまびこ」による巡回配本に代わり、平成28年度からやまびこ文庫事業を開始した。やまびこ文庫は、町村や学校等における読書環境の整備を支援する事業で、県立図書館から貸出図書を定期配送する支援及びBM書庫（市町村配送専用書庫）で貸出を行う支援を実施している。
- ア) 定期配送による支援
〈町村支援事業〉

令和6年度貸出冊数

市町村名	図書館・図書室名	貸出冊数	市町村名	図書館・図書室名	貸出冊数
高千穂町	高千穂町立図書館	1,500	美郷町	美郷町立西郷図書館	1,500
五ヶ瀬町	五ヶ瀬町教育委員会図書室	1,500		美郷町立北郷図書館	1,500
諸塚村	諸塚村中央公民館図書室	1,200		美郷町立南郷図書館	1,200
日之影町	日之影町立図書館	900	高原町	高原町中央公民館図書室	1,500
西米良村	西米良村立図書室	90	合計		10,890

〈学校支援事業〉

令和6年度配本冊数

市町村名	学校名	冊数	市町村名	学校名	冊数	市町村名	学校名	冊数
高千穂町	押方小学校	450	諸塚村	諸塚小学校	1,170	宮崎市	赤江まつばら支援学校	360
	田原小学校	900		荒谷小学校	400		みなみのかぜ支援学校	750
	岩戸小学校	1,500	西米良村	西米良中学校	600		清武せいりゅう支援学校	600
	上野小中学校	1,260		美郷町	美郷北義務教育学校		900	宮崎海洋高等学校
	延岡しろやま支援学校高千穂校	450	美郷南学園		840		県教育支援センター コネクト	280
五ヶ瀬町	鞍岡小学校	990	椎葉村	椎葉小学校	630	都城市	都城さくら聴覚支援学校	630
	三ヶ所小学校	1,500		尾向小学校	630	日南市	日南くろしお支援学校	1,500
	坂本小学校	1,500		不土野小学校	900	日向市	日向ひまわり支援学校	450
	上組小学校	1,110		大河内小学校	840	新富町	児湯るびなす支援学校	600
	五ヶ瀬中学校	525		松尾小学校	810	小林市	小林こすもす支援学校	600
	五ヶ瀬中等教育学校	1,200		椎葉中学校	450			
日之影町	日之影中学校	750	宮崎市	明星視覚支援学校	240		合計	26,715

イ) 市町村・団体支援用専用資料の貸出による支援

〈大量貸出支援事業〉

令和6年度 2施設（都農町民図書館、高岡地区交流センター図書室） 貸出冊数…計702冊

〈児童教育施設等支援事業〉

令和6年度 登録施設数…25施設 貸出冊数…計4,860冊

② 子育て支援図書セット

絵本・育児書（1セット30冊）を町村の図書館・図書室へ貸し出し、子育て世代を支援している。

③ 団体文庫

読書活動団体を支援し、団体の健全な育成を図るため、図書資料の長期大量貸し出しを実施している。

④ 県立図書館資料の市町村等への貸出

県内全域での県立図書館の利用を図るため、利用者の居住する市町村立図書館・室等から県立図書館の図書を貸し出す県立図書館の本お取り寄せサービス（マイラインサービス）を実施している。

令和6年度貸出冊数

図書館・室名	貸出冊数	図書館・室名	貸出冊数	図書館・室名	貸出冊数
宮崎市立図書館	0	美郷町立南郷図書館	53	県立高鍋高等学校	0
宮崎市立佐土原図書館	49	高千穂町立図書館	151	県立宮崎東高等学校	0
都城市立図書館	245	宮崎市清武文化会館図書室	9	県立妻高等学校	72
都城市立高城図書館	8	宮崎市立田野公民館図書室	8	県立日向工業高等学校	7
延岡市立図書館	280	宮崎市高岡地区農村環境改善センター図書室	32	県立宮崎西高等学校	102
延岡市立図書館北方分館	2	都城市山之口地区公民館図書室	7	県立福島高等学校	0
延岡市立図書館北浦分館	3	都城市山田総合センター図書室	38	県立都城泉ヶ丘高等学校	201
延岡市立図書館北川分館	7	都城市高崎たちばな学び館	8	県立延岡星雲高等学校	10
日南市立図書館	515	高原町中央公民館図書室	53	県立高千穂高等学校	4
小林市立図書館	193	西米良村立図書室	4	県立飯野高等学校	0
日向市立図書館	339	木城町総合交流センターリパリス図書室	99	県立小林高等学校	91
串間市立図書館	65	諸塚村中央公民館図書室	12	県立延岡商業高等学校	0
西都市立図書館	67	椎葉村図書館	14	県立宮崎工業高等学校	0
えびの市民図書館	34	日之影町立図書館	405	県立高鍋農業高等学校	0
三股町立図書館	116	五ヶ瀬町教育委員会図書室	42	県立本庄高等学校	42
国富町立図書館	183	県立五ヶ瀬中等教育学校	83	県立宮崎海洋高等学校	14
綾てるは図書館	121	県立日向高等学校	0	県立都城工業高等学校	3
町立高鍋図書館	339	県立富島高等学校	0	宮崎大学附属図書館本館	56
新富町図書館	53	県立宮崎南高等学校	22	宮崎大学附属図書館医学分館	0
川南町立図書館	44	県立佐土原高等学校	13	県立看護大学	4
都農町民図書館	206	県立宮崎商業高等学校	148	宮崎学園図書館	12
門川町立図書館	36	県立日南振徳高等学校	15	宮崎学園高等学校	0
美郷町立西郷図書館	234	県立都城農業高等学校	0		
美郷町立北郷図書館	104	県立宮崎北高等学校	98	合計	5,175

※日南市立まなびピア図書館及び北郷図書館、南郷図書館は本館（日南市立図書館）に含まれる

※小林市立図書館野尻分館・須木分館は本館（小林市立図書館）に含まれる

(3) 視聴覚事業

視聴覚資料等の登録団体への貸出及び視聴覚資料等を利用した映写会、講座等を実施している。

① 令和6年度視聴覚資料等利用状況

視聴覚資料		機器	
利用回数	利用者数	利用回数	利用者数
14	2,475	15	770

② 令和6年度事業実績

○ 映写会

県民の生涯学習や子どもたちの情操教育に役立てるため、子ども向け及び一般向けの映写会を実施している。

図書館子ども映写会 1回 参加人数 89人
 図書館シアター 4回 参加人数 363人
 メモリアル宮崎 2回 参加人数 22人

○ 緑陰コンサート

音楽の専門的な知識や技術を持つ団体等を招き、演奏会や音楽レコードの鑑賞会を実施している。
2回 参加人数 362人

(4) 文化活動事業

○ 第66回「こどもの読書週間」関連行事

企画展示「みんなの本棚～バリアフリーなこどもの本～」 「児童図書室紹介コーナー」
 特別おはなし会「外国語で絵本を楽しもう」「しゅわでおはなし会」
 絵本ワークショップ「みんなでたのしむ しかけ絵本」ほか
 (実施期間：4月16日～5月6日)

○ 第78回「秋の読書週間」関連行事

企画展示「読書県みやざきを支える本屋さん」
 ギャラリートーク「おしえて！本屋さん」
 ワークショップ「本友（ほんとも）のススメ」

(5) ホームページ等活用事業

ホームページを通じて、県内図書館(室)所蔵資料の横断検索サービスの提供や、貴重資料のデジタル画像の公開とともに、様々なイベント、サービスについて積極的に発信している。平成28年度からはフェイスブック、令和4年度からはInstagramによる情報発信を開始し、SNSの活用にも努めている。
 (令和6年度年間アクセス件数 フェイスブック30,441件、Instagram24,335件)

パソコン用トップページアクセス件数の推移

年度	R2	R3	R4	R5	R6
件数	243,672	163,523	169,170	262,675	336,919

※1 R2はホームページに設置しているアクセスカウンター、R3以降はグーグルアナリティクスによる計数。

※2 R2については、システム入替のため、令和3年2月中旬から下旬までの件数はカウントされていない。

(6) ひなた電子図書館

非来館型サービスの一環として、令和6年9月から電子書籍サービス（キノデン及びライブラリエ）を提供し、貴重書デジタルアーカイブと併せて「ひなた電子図書館」として運用を開始した。
 (令和6年度閲覧数 キノデン11,323回、ライブラリエ169,647回、貸出数 ライブラリエのみ18,885回)

(7) 県民の読書振興、生涯学習に資する各種事業実績

○ ひなた電子図書館（通称：ひなデジ）オープニングセレモニー

電子書籍サービスのスタートを記念して、大型モニターを使った除幕式や体験会、みやざき読書アンバサダーの米良美一氏の読み聞かせコンサートなどを開催し、電子書籍のPRと利用促進を図った。
 実施日 9月26日 参加者数 150人

○ 置県140年宮崎県史等デジタル化及び活用推進事業

・『宮崎県史』のデジタル化と公開

置県百年記念事業をきっかけに編纂された『宮崎県史』のうち通史編、資料編及び別編の計11冊をデジタル化し、デジタルアーカイブとして令和7年3月からインターネット公開した。

・「ウィキペディアタウン in 延岡市」の開催

地域の歴史や文化を探访し、図書館の資料等を活用しながら記事にまとめて「ウィキペディア」で発表する県民参加型ワークショップイベントを延岡市立図書館との共催で実施した。
 実施日 2月22日 参加者数 15名

第3節 県立美術館

1 設 置

置県100年記念事業「宮崎県総合文化公園建設構想」に基づき、県民広場、図書館、芸術劇場に続く県民文化の拠点施設として、平成4年12月着工、平成6年12月に本体が完成。県立美術館条例の施行にともない平成7年4月1日「宮崎県立美術館」として設置され、同年10月17日に開館した。

(1) 施 設

地下1階 地上3階			
・高 さ	23m	・地 下	2,273.99㎡
・南北の長さ	90m	・1 階	3,403.98㎡
・東西の長さ	30m	・2 階	2,526.51㎡
・建築面積	3,428.48㎡	・3 階	2,050.06㎡
・延床面積	10,333.23㎡	・塔 屋	78.69㎡

(2) 事業部門

・展示部門	コレクション展示室 企画展示室 県民ギャラリー 等	2,926㎡
・収蔵部門	収蔵庫 一時保管庫 荷解梱包室 等	1,527㎡
・教育普及部門	美術図書室 アートシアター アトリエ 等	782㎡
・調査研究部門	研究室 会議室 資料室	186㎡
・サービス部門	喫茶室 ミュージアムショップ 等	699㎡
・管理部門	館長室 事務室 警備室 中央監視室 等	1,703㎡

2 事業実績

(1) コレクション展

美術館の収蔵作品を、コレクション展示室において、より広く県民に親しまれるとともに学習・憩いの場ともなるようテーマを設けて紹介する。令和6年度は次の展示を行った。

① コレクション展示室1

内 容 館蔵品の中から企画テーマを設けて国内外の名品を紹介した。

会期及びテーマ

- ・第1期：4月13日(土)～6月30日(日) 「名品セレクションⅠ +美術と音楽」
- ・第2期：7月9日(火)～10月1日(火) 「たのしむ美術館」
- ・第3期：10月5日(土)～12月22日(日) 「名品セレクションⅡ
+パリの日本人画家たち」
- ・第4期：1月9日(木)～4月8日(火) 「名品セレクションⅢ
+名作へのオマージュ」

② コレクション展示室2

内 容 館蔵品の中から企画テーマを設けて作品を紹介するとともに、本県出身の作家や本県にゆかりのある作家の作品を紹介した。

会期及びテーマ

- ・第1期：4月13日(土)～6月30日(日) 「宮崎の美術 -特集 塩月桃甫」
「画家の目線」
- ・第2期：7月9日(火)～10月1日(火) 「たのしむ美術館」
- ・第3期：10月5日(土)～12月22日(日) 「宮崎の美術 -クローズアップ1914」
「画家と戦争」
- ・第4期：1月9日(木)～4月8日(火) 「宮崎の美術 -めでたづくし」
「人体表現」

③ コレクション展示室3(瑛九展示室)

内 容 瑛九の油彩画、版画、フォト・デッサン、関連資料などにより瑛九の人と芸術を紹介した。

会期及びテーマ

- ・第1期：4月13日(土)～6月30日(日) 「瑛九の眼」
- ・第2期：7月9日(火)～10月1日(火) 「たのしむ美術館」
- ・第3期：10月5日(土)～12月22日(日) 「瑛九と仲間たち」
- ・第4期：1月9日(木)～4月8日(火) 「瑛九 1925-1959」

④ コレクション展示室4(彫刻展示室)

内 容 館蔵品の中から企画テーマを設けて主に彫刻作品を紹介した。

会期及びテーマ

- ・第1期：4月13日(土)～6月30日(日) 「イタリア現代彫刻 3人のM」
 - ・第2期：7月9日(火)～10月1日(火) 「たのしむ美術館」
 - ・第3期：10月5日(土)～12月22日(日) 「ミングッツィー 愛と優しさ」
- ※第4期は「みやざき総合美術展」会場として使用。

⑤ たのしむ美術館

内 容 当館のコレクション展の一環として、子どもから大人までを対象に様々な見方を紹介する入門的な展覧会。

技法、題材等に焦点を当てて分かりやすい解説や問いかけを設定するなど作品をより魅力的に感じてもらう工夫を通して、誰でも美術に親しむことができ、作品鑑賞の楽しさを味わい、美術や美術館に対する興味関心を高める機会とした。

会 期 7月9日(火)～10月1日(火) (計74日間)

入場者数 13,739名

関連事業

○おとなツアー

中学生以上を対象に展覧会の見どころを紹介した。

日 時：令和6年7月14日(日)、9月15日(日) 午後2時から午後2時30分まで

○こどもツアー

小学生から中学生を対象に、クイズなどに挑戦しながら楽しく鑑賞した。

日 時：令和6年8月4日(日)、11日(日)、17日(土)

午後2時から午後2時30分まで

○スタンプラリー

鑑賞シートでスタンプラリーをしながら、鑑賞を楽しんだ。

(2) 特別展等

コレクション展と併せて国内外の優れた作品を紹介するため、令和6年度は次の展覧会を実施した。

① 佐川美術館コレクション 平山郁夫展 -悠久の歴史をたずねて-

内 容 日本画壇を代表する画家で没後15年を迎えた文化勲章受章者の平山郁夫が、悠久の歴史に彩られたシルクロードを主題に描いた作品89点を紹介。

会 期 令和6年5月25日(土)～6月30日(日) (計32日間)

入場者数 4,408名

関連行事

○開会式

日 時：令和6年5月25日(土) 午前9時40分から午前9時55分まで

会 場：2階アートフォーラム

○内覧会(佐川美術館学芸員 藤井康憲氏)

日 時：令和6年5月25日(土) 午前9時55分から午前10時25分まで

会 場：2階企画展示室

○スペシャルギャラリートーク(佐川美術館学芸員 藤井康憲氏)

日 時：令和6年5月25日(土) 午前11時から正午まで

会 場：2階企画展示室

○美術館サポーターによる読み聞かせ

日 時：令和6年6月1日(土)、15日(土) 午前11時から午前11時30分まで

会 場：2階アートフォーラム

○当館学芸員によるギャラリートーク

日 時：令和6年6月8日(土)、22日(土) 午前11時から正午まで

会 場：2階企画展示室

② テオ・ヤンセン展

内 容 科学と技術を融合させ、「現代のレオナルド・ダ・ヴィンチ」とも称されるオランダの造形作家、テオ・ヤンセンによって生み出された、風を動力としてオランダの砂浜を歩く「ストランドビースト」14体と、その発想の過程やビーストの進化を映像や資料とともに紹介。

会 期 令和6年7月20日(土)～9月8日(日) (計43日間)

入場者数 31,117名

関連行事

○開会式

日 時：令和6年7月19日(金) 午後3時から午後4時まで

会 場：2階アートフォーラム

○リ・アニメーション

日 時：会期中毎日 平日6回、土日7回

会 場：2階企画展示室

※特別リ・アニメーション 8月13日(火)～15日(木)、9月4日(水)～6日(金)
各日2回

○ミニビーストレース

日 時：会期中の土日 ①午前11時 ②午後2時 各回30分程度

会 場：2階アートフォーラム

○ビーストを楽しむツアー

日 時：令和6年7月28日(日)、8月4日(日)、21日(水)、31日(土)

午後1時30分から午後2時まで

会 場：2階企画展示室及びアートフォーラム

○風で動くおもちゃをつくろう

日 時：令和6年8月14日(水) 午前10時から午後4時まで

会 場：1階アトリエ3

③ 19、20世紀の芸術家とポスター —創作において自由なる競創—

内 容 シェレやロートレック、ミュシャからピカソ、マティス、シャガールまで、19世紀後半から20世紀にかけてのポスター芸術の確立とその後の展開を、約160点の作品で紹介。

会 期 令和6年10月19日(土)～12月8日(日) (計44日間)

入場者数 4,524名

関連行事

○開会式

日 時：令和6年10月18日(金) 午後2時から午後3時20分まで

会 場：2階アートフォーラム

○講演会

日 時：令和6年10月26日(土) 午後2時から午後3時30分まで

会 場：1階アートホール

講 師：日高英輝氏 (アートディレクター・デザイナー)

○トーク&ワークショップ

日 時：令和6年11月9日(土) 午前10時15分から午後3時30分まで

会 場：2階企画展示室及び1階アトリエ

講 師：黒木周氏 (版画家)

○当館学芸員によるギャラリートーク

日 時：令和6年10月20日(日)、11月16日(土)、30日(土)

午後2時から午後3時まで

会 場：2階企画展示室

④ 第5回みやぎ総合美術展

内 容 県内在住者及び県出身者を対象に、自由表現、絵画、彫刻、書、写真、工芸、デザインの7部門の作品を公募し、入選、入賞作品を展示紹介した。

会 期 令和7年2月15日(土)～3月2日(日)(計16日間)

展示点数 451点

会 場 企画展示室、県民ギャラリー、アートフォーラム

応募点数 1,063点

入場者数 5,935名

関連事業 開会式(令和7年2月14日)

表彰式 (令和7年2月16日)

デザイン部門「切り絵で再現! CDジャケットデザイン」(令和7年2月22日)

写真部門審査員 タカザワケンジ氏「記念講演会」(令和7年2月23日)

工芸部門「おしゃべりしながら、みんなで鑑賞」(令和7年2月24日)

(3) 教育普及部門

① 実技講座

県民の美術に関する技術の向上や創作意欲を喚起するため、県内外で活躍している講師を招き、2講座を各2回実施した。

講座名	内容	講師	日時	会場	参加人数
象がん	本格的な象がんの技法を体験し、アクセサリを製作する。	伊藤 恵美子 (象がん師)	①令和6年7月20日(土)・21日(日) ② // 7月27日(土)・28日(日) 土曜日 11:00 ~ 17:00 日曜日 11:00 ~ 16:00 ※①②同じ内容で計2回実施	アトリエ 3	① ② 各8名 計16名
てん刻	鑑賞と制作を通しててん刻の歴史と技法を学ぶ。	小原 俊樹 (工芸書家)	令和6年8月3日(土)・4日(日) 8月10日(土)・11日(日) 土曜日・日曜日とも10:30 ~ 15:30	アトリエ 3	① 8名 ② 7名 計15名

② 子ども美術教室

子どもたちを美術に親しませ、興味・関心や美術作品に対する理解を深めさせるため、鑑賞や創作等の機会を提供した。

教室名	内容	期 日	会 場	参加人数
こいのぼりdeアート	スタンプと封筒を使ったオリジナルこいのぼりを制作した。	令和6年5月3日(金・祝) 5月4日(土・祝)	アトリエ3	237名
名画たんてい団1	たんてい手帳(ワークブック)を使ってコレクション展を楽しく鑑賞した。	令和6年5月21日(火) ~6月30日(日)	コレクション 展示室	298名
夏を かざろう	身近な材料を使って、夏にちなんだ工作をした。	令和6年6月15日(土)	アトリエ3	27名
えのぐで あそぼう	絵の具を使った簡単な技法を体験し、楽しい作品を作った。	令和6年8月24日(土) 8月25日(日)	アトリエ3	42名
ヒカリエがこう	光で描く日光写真を体験し、ちょっと変わった自画像を作った。	令和6年10月14日 (月・祝)	アトリエ3	19名
名画たんてい団2	たんてい手帳(ワークブック)を使ってコレクション展を楽しく鑑賞した。	令和6年11月6日(水) ~12月22日(日)	コレクション 展示室	259名
こども美術館DAY!	楽しい創作活動や鑑賞を行った。	令和6年12月14日(土) 12月15日(日)	アトリエ3 ほか	217名
名画たんてい団3	たんてい手帳(ワークブック)を使ってコレクション展を楽しく鑑賞した。	令和7年2月4日(火) ~3月23日(日)	コレクション 展示室	418名

③ ワークショップ

従来の表現方式や技法にとらわれない表現活動をとおして、美術への興味関心を高め、表現することについて考える場として、ワークショップを実施した。

名 称	会 場	期 日	内 容	参加人数
タッチ de アート!	アトリエ3	令和6年6月29日(土)	様々な素材を貼り合わせ、触って楽しめる作品を作り、お互いの表現や触感の違いを楽しんだ。	19名
リング de アート!	アトリエ3	令和6年11月2日(土) ~11月24日(日)	輪をつなぎ合わせ、空間の中で輪が広がる様子を楽しんだ。	324名

④ 旅する美術館・旅してアート

県内各地で当館所蔵作品による展覧会を開催するとともに、複合的にアウトリーチ活動を展開することで、より多くの県民が気軽に本物の美術作品に触れる場や、創作体験及び美術の専門的な話を聞く機会など、様々なアートとの出会いの場を設定することで、県民が美術に親しみ、地域の文化振興に寄与することを目的として実施した。

○ 旅する美術館

より多くの県民が、身近な場所で気軽に本物の美術作品に親しめるよう、県内2町で当館の収蔵作品展を開催した。また、会場近隣の小中学校で、美術館オリジナル映像番組の鑑賞や造形体験等を行う「旅する美術教室」を実施した。

旅する美術館（収蔵作品展）		
市 町 村	五ヶ瀬町	綾 町
会 期	令和6年11月12日(火)～11月17日(日) (計6日間)	令和6年11月20日(水)～11月24日(日) (計5日間)
会 場	自然の恵み資料館	綾てるは図書館
展 示 作 品 数	18点	20点
入 場 者 数	541名	897名

旅する美術教室		
期 日	会 場	参加人数
10月 8日(火)	綾町立綾中学校	59名
10月17日(木)	五ヶ瀬町立三ヶ所小学校	28名
10月25日(金)	五ヶ瀬町立上組小学校	16名
11月 5日(火)	五ヶ瀬町立五ヶ瀬中学校	38名
11月12日(火)	五ヶ瀬町立坂本小学校	34名
11月12日(火)	五ヶ瀬町立鞍岡小学校	26名
11月21日(木)	綾町立綾小学校	65名

○ 旅してアート（アートトーク）

美術作家や美術の専門家等を招聘し、講師と直接触れ合える講演会やワークショップを開催した。

講 師	末永 幸歩	黒木 周
日 程	令和6年9月14日(土)	令和6年11月9日(土)
会 場	アートホール、コレクション展示室1	企画展示室、アトリエ
内 容	「アート思考」についてのトークを聞き、コレクション展示作品を鑑賞して感じたことを表現するワークショップ。	企画展示室でフランスの版画工房についてのトークを聞き、アトリエでリトグラフ作品を制作するワークショップ。
参加者数	30名	トーク：32名、ワークショップ：12人

⑤ アートシアター

当館では、美術の普及を図るため、館オリジナルの番組や特別展関連番組等をアートシアターにて県民の鑑賞に供している。

令和6年度の一般貸出は、1件（宮崎県高校総合文化祭の映像作品）であった。また、休日には館オリジナル番組を計画的に上映した。特別展及びみやざき総合美術展では、以下の上映を行った。

- ・「テオ・ヤンセン展」…テオ・ヤンセンが自身の作品等について紹介する映像
- ・「第5回みやざき総合美術展」…各部門の入賞作品を紹介する映像

⑥ 県民ギャラリー

県民の美術文化向上のために、作品発表及び鑑賞の場として県民ギャラリー等を貸し出した。

絵画	彫刻	工芸	デザイン	写真	書	総合美術	その他	計	入場者数
11件	0件	2件	0件	2件	7件	0件	14件	36件	57,204名

⑦ アトリエ開放

県民の創作活動を支援するため、専用設備を備えたアトリエを毎週火曜日、木曜日、日曜日(休館日を除く)に開放した。利用状況は次のとおりである。

種 別	油彩	水彩	版画	デッサン	彫刻	陶芸	その他	計
利用者数(一般開放)	0名	0名	10名	0名	0名	110名	84名	204名

⑧ インターンシップ、職場体験学習等

キャリア教育に係る就業体験の場として、生徒の実習を受け入れた。展示室やインフォメーションでの来館者対応業務の補助や講座等の準備、団体対応補助等、様々な体験実習を行った。

学 校	受入人数	期 間
県立佐土原高等学校	4名	令和6年10月23日(水)～10月25日(金)(3日間)
宮崎市立大宮中学校	4名	令和6年11月21日(木)～11月22日(金)(2日間)
宮崎市立樫中学校	3名	令和6年12月5日(木)～12月6日(金)(2日間)
宮崎市立赤江中学校	3名	令和7年1月21日(火)～1月23日(木)(3日間)

⑨ 博物館実習

博物館法及び同法施行規則に基づき、学芸員資格取得をめざす学生の博物館実習を受け入れた。美術館の運営並びに資料の収集・展示・保存、専門事項に係る基本的な講義の他調査・研究及び美術の普及活動等の実際的な体験実習を行った。

実習生の受入人数 3名

令和6年8月21日(水)～8月30日(金)

※台風10号接近のため、28日(水)午前までの実習とした。

⑩ 美術館サポーター(ボランティア)

「県民に開かれた美術館づくり」を効果的に推進する施策の一環として、美術館の活性化を図ると共に、県民に美術館活動(イベント補助・美術情報整理)をとおして、生涯学習の場を提供することを目的に美術館サポーター(ボランティア)を例年募集している。

令和6年度は8名の新規登録があり、計42名の登録を行った。

・年齢別登録者数(人)

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
計	1	5	2	2	6	17	6	3	42

(4) 資料整備

① 美術資料

収集方針 ・郷土出身作家及び本県にゆかりのある作品
 ・わが国の美術の流れを展望するにふさわしい作品
 ・海外のすぐれた作品

この方針のもとに、昭和63年から資料の収集を進めており、平成元年度には美術品等取得基金を創設し、収集計画のもと美術品の系統的な収集を行っている。厳しい財政事情から、近年はこの基金の執行凍結を余儀なくされていたが、平成27年度の条例改正により基金の活用が可能となった。

令和6年度は一般会計予算でシュルレアリスムの作家の作品1点を購入した。また寄贈作品2点も加え、同年度末の収蔵作品数は、4,260点となっている。

② 図書資料

平成5年度から年次的に整備を進め、令和6年度末現在23,674冊になっている。図書の主なものは、美術図書室に配架し県民の閲覧に供するとともに、職員を配置し県民からの照会や相談に応じている。

○ 蔵書規模(R7. 3. 31現在)

種 別	冊 数
図 書	10,822
図 録 等	11,171
合 本 雑 誌 等	1,681
計	23,674

配 架 場 所		冊 数
開架	美術図書室	4,534
閉架	資料室等	19,140
計		23,674

③ 当館所有番組

本館ではアートシアター、移動鑑賞教室などの場において、良質な画像で美術作品などの紹介番組を県民の鑑賞に供しており、これらで使用するソフトの整備状況は、静止画番組357タイトル、館制作のオリジナル静止画番組40タイトル、動画番組11タイトルの計408タイトルとなっている。

第4節 県総合博物館

1 設 置

宮崎県総合博物館は、考古・歴史を柱とする博物館として、昭和26(1951)年4月に設立された宮崎県立博物館を前身としている。その後、昭和46(1971)年3月には明治百年記念事業に伴う整備事業により、自然と美術分野を加え、機能を充実させて総合博物館として開館した。

平成7年(1995)には宮崎県立美術館の設置に伴い美術部門が移管され、また、平成10年(1998)5月には21世紀に向けた文化施設にふさわしい博物館に再生するため、「県総合博物館再編整備事業」により、展示室等を改修し、リニューアルオープンした。

現在本館には、自然史、歴史及び民俗の3つの常設展示室があり、宮崎の自然と歴史について約8,000点の資料を使って紹介している。

このほか、本館東側の民家園には、移築復元した民家(国指定重要文化財2棟、県指定有形文化財2棟)を屋外展示している。

【施設の概要】

- 本館・・・鉄筋コンクリート2階建(建築面積 4,122.29㎡、延床面積 7,366.74㎡)
 - ・常設展示室 2,645.80㎡(自然史 844.20㎡ 歴史 767.70㎡ 民俗 1,033.90㎡)
 - ・特別展示室 751.68㎡
 - ・その他(収蔵庫・事務室等) 3,969.26㎡
- 民家園・・・木造平屋建寄棟造(茅葺)
 - ・旧藤田家住宅(国指定重要文化財) 90.44㎡
 - ・旧黒木家住宅(国指定重要文化財) 131.88㎡
 - ・米良の民家(県指定有形文化財) 110.13㎡(本屋 78.37㎡、馬屋 31.76㎡)
 - ・椎葉の民家(県指定有形文化財) 137.97㎡

2 事業実績

(1) 調査研究

【調査研究の基本的な考え方と目標】

○調査研究の基本的な考え方

- (ア) 県民に還元できるものであること。
- (イ) 本館の設立目標に沿ったものであること。
- (ウ) 将来展示等に活かされるものであること。
- (エ) 科学的・客観的なものであること。

○調査研究の目標

- (ア) 館共通：宮崎の自然史と歴史に関する調査研究を行う。
- (イ) 分野別
 - ① 自然史分野：宮崎の自然に関する基礎研究を行う。
 - ② 歴史分野：歴史・民俗を通してみる郷土の伝統と地域性の研究を行う。

ア 個別テーマ調査研究

各部門の担当職員が個別の研究テーマを設定し、調査研究を以下のとおり実施した。

- ・動物：① 宮崎県内のモグラについて
② 宮崎神宮の池の外来生物調査
- ・植物：① 県内の絶滅危惧菌類について
② 宮崎県沿岸に産する海藻類について
③ 巨田池周辺で見られる植物調査
- ・地質：① 県内の炭酸塩コンクリーションについての研究
② 県内より産出する化石標本の記載・分類学的研究
③ 宮崎県北西部の秩父帯より産出するコノドント化石
- ・考古：① 酒器に関する考古学的研究
- ・歴史：① 「日向記」に関する基礎的研究
- ・民俗：① 宮崎の神楽に関する研究
② 昭和時代の宮崎の焼酎造り

【令和6年度の報告書】※令和7年3月発行の『宮崎県総合博物館研究紀要第45輯』に掲載し、J-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システム)においてオンライン公開(<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mpmnh/-char/ja>)した。

- ① 宮崎神宮の池における外来生物調査
- ② 宮崎県北部の向坂山および白岩山の地衣類 補遺
- ③ 宮崎県で再発見されたミズアオイ(ミズアオイ科)について
- ④ 巨田池周辺の植物について 一調査報告一
- ⑤ 延岡市沖田貝塚と沖田川産貝類の放射性炭素年代値による古環境指定
- ⑥ 木内石亭の著作物に記録された日向国の「奇石」一江戸時代における宮崎県産地質標本の認識の一例一
- ⑦ 館蔵「備前焼の角徳利」
- ⑧ 令和の庚申講(西都市三財地区川原田集落)に関する調査記録
- ⑨ 【研究ノート】みやぎきの神楽について(三) 一酒に関する神事・演目について一
- ⑩ 【研究ノート】昭和時代の宮崎の焼酎造り ～造り手への聞き取り調査報告～
- ⑪ 特別展「毒モンスター水族館 ～海のキケンな生きものたち～」実施報告
- ⑫ 特別展「化石タイムカプセル 一コンクリーションの謎をとく一」実施報告

イ 調査研究報告会

総合調査研究や個別テーマ調査研究などの状況報告と、学芸課職員の専門性の向上を図る目的で、調査研究報告会を令和7年3月11日に本館で実施し、37人の参加者(うちZoomによる参加10名)があった。

【発表題目一覧】

- ・動物：特別展「毒モンスター水族館～海のキケンな生きものたち～」実施報告
- ・動物：宮崎神宮の池における外来生物調査
- ・植物：巨田池周辺の植物について 一調査報告その1ー
- ・植物：みやはくウォールミュージアムの構築について
- ・植物：キリノミタケと麴カビ、そして酵母
- ・地質：木内石亭の著作物に記録された日向国の「奇石」 一江戸時代における宮崎県産地質標本の認識の一例一
- ・地質：化石タイムカプセル展の展示企画について
- ・考古：県内出土の考古資料から飲酒の痕跡を考える
- ・歴史：『山田文書』（当館所蔵）所収中世文書の年次比定
- ・民俗：昭和時代の宮崎の焼酎造り ～造り手への聞き取り調査報告～

(2)資料の収集・保存

ア 資料の収集

- (ア)資料収集件数：12,100点
- (イ)その他の資料：図書・文献等の収集 748点

イ 資料の整理・登録

① 資料の登録数

分野・部門		登録資料数	(令和6年度登録資料数)
自然史	動物	75,150点	(11,391点)
	植物	63,977点	(540点)
	地質	6,723点	(0点)
	計	145,850点	(11,931点)
歴史	考古	1,717点	(8点)
	歴史	5,669点	(1点)
	民俗	12,941点	(9点)
	計	20,327点	(18点)
美術	工芸(刀剣類)	107点	(0点)
	彫刻(屋外展示)	9点	(0点)
	計	116点	(0点)
総計		166,293点	(11,949点)

② デジタルミュージアムへのデータ登録

県教育庁文化財課が平成14年度から運営するサイト「みやざきデジタルミュージアム」への登録を毎年実施してきたが、令和6年度は「みやはくデジタルコレクション」の新規開設に伴い、登録を行わなかった。

ウ 資料の保存

- (ア)IPMウォッチング (年12回…展示室・収蔵庫・エントランス・研修室・管理棟等) 虫菌害の発生の有無を調べ、資料保存に適した環境に改善するため、館職員による点検を行った。
- (イ)モニタリング (年12回…展示室・収蔵庫・エントランス(計80か所)) 害虫の侵入及び発生状況を把握するために粘着トラップを設置した。
- (ウ)収蔵庫内の目視・清掃 (年12回)
- (エ)薬剤による管理 (9月に収蔵庫でガス燻蒸を実施)

(3)展示

ア 常設展示

常設展示室は自然史、歴史及び民俗の3つのフロアからなり、宮崎の自然と歴史について、実物を中心に約8,000点の資料を使って分かりやすく紹介するとともに、解説等を行う展示解説員の配置や随時の資料入替えを行うことによりサービスの充実を図っている。

(ア)自然史展示室

本館1階にある自然史の展示は、「宮崎の森」「宮崎の水辺」「宮崎の大地」「宮崎の生物」「ふるさとの自然」の5つのコーナーから成り、学校教育はもちろんのこと生涯学習の場になるように、できる限り宮崎県の実物資料を中心に構築するとともに、生きものの生態などについては、ジオラマやレプリカ、模型等を使ったり、体験的装置や情報機器も導入することによって、来館者が肌で実感し、より親しめるよう工夫している。

また、屋外では、本館入り口北側に、串間市で発掘された縄文から弥生時代のクスノキや日之影町で採取された二枚貝のメガロドン石灰岩を展示している。

(イ)歴史展示室

本館2階にある歴史の常設展示は、自然史展示室の照葉樹林ジオラマとの関連づけた導入部と、通史的に構成する「日向のあけぼのに生きる」「古代から近世を生きる」「発展しつづける宮崎」の3つのコーナーから成り、人々の生活史を大きな柱として、現在の宮崎地域の約2万年前の旧石器時代から現代にいたる歴史の流れを紹介している。

(ウ)民俗展示室

本館2階の歴史展示室に隣接する民俗の常設展示は、「山にくらす」「里にくらす」「海にくらす」「いのりとまつり」の4つのコーナーから成り、国指定重要有形民俗文化財の「日向の山村生産用具」をはじめとする実物資料を中心に、原寸大の模型や映像、パソコン検索等を多用して、観覧者が体験しながら楽しめる展示としている。

また、導入部に配置した「民俗へのいざない」では、炭焼き小屋のジオラマを展示し、宮崎の豊かな

風土と人々の営みを表現し、中央に配置した「こころのロード」では、映像と音声により県内の代表的な年中行事と人々の精神世界を紹介している。

(エ)多言語音声ガイドシステムの導入

海外からの利用者にも博物館設備を楽しみながら利用してもらい、宮崎の自然や歴史について幅広く知ってもらうための一つのツールとして多言語音声ガイド「音えんぴつ」を導入している。

(オ)みやはくデジタルミュージアム

最新のデジタル技術を活用し後生に貴重な文化財を継承と、宮崎の自然や歴史、文化に対する情報発信や更なる地域の活力向上や観光振興に寄与することを目的として「みやはくデジタルミュージアム構築事業」を実施した。博物館資料のデジタルアーカイブ化に伴う館内施設の整備や、1階エントランスホールの壁面にインタラクティブコンテンツを投影する大型スクリーン「みやはくウォールミュージアム」を設置した。また、インターネットを通じて館内の様子や収蔵資料の検索・閲覧が行えるポータルサイト「みやはくデジタルコレクション」の運用を開始した。

イ 特別展示

(ア)「第44回SSP展～自然を楽しむ科学の眼～」

a 会 期：令和6年4月27日(土)～6月9日(日) 開催日数：37日間(無料入場)

b 主 催：宮崎県総合博物館、日本自然科学写真協会

c 趣 旨：写真に対する興味関心に応えるとともに、動物や植物、自然環境への関心を高める。

d 内 容：顕微鏡・科学・昆虫・節足類、水中・水棲生物、鳥類、哺乳類・両生爬虫類、植物・菌類、山岳・天体・自然風景に分類された138点の写真部門、12点の動画部門の作品を展示し、作品に登場する動物の剥製や乾燥標本、化石・岩石標本、模型、レプリカなどを展示した。

e 関連行事：① 開会式およびガイドツアー
② 子ども向け写真教室「生きものKids写真教室」
③ ギャラリートーク(実施5回)
④ 関連講座「SSPの作品にTRY!Ⅳ」
⑤ 勝ち抜き!カブトムシ争奪戦

f 観覧者数：11,943人

(イ)特別展「毒モンスター水族館 ～海のキケンな生きものたち～」

a 会 期：令和6年7月13日(土)～9月8日(日) 49日間(有料入場)

※台風10号の影響により8月29日(木)と8月30日(金)の2日間は臨時休館

b 主 催：特別展「毒モンスター水族館～海のキケンな生きものたち～」実行委員会

(宮崎県総合博物館・宮崎日日新聞社・MRT宮崎放送・一般社団法人宮崎県教職員互助会)

c 趣 旨：本展覧会は、海に生息する「毒」をもつ多様な生きものたちを中心に展示し、有毒生物の多様性や自然界での生き残りをかけた様々な戦略などを紹介した。また、私たちがこれらの生きものたちと今後どのように関わっていくべきか、環境問題や食文化、薬など自分たちの身近な生活と関連して考えてもらう機会とした。

d 内 容：毒の基礎的な知識をパネルや標本で分かりやすく展示し、毒を持つ図鑑に登場する生物を擬人化したキャラクターとコラボレーションすることで、すべての世代にも親しめるように工夫した。また、本館所蔵の標本だけでなく、関係機関からの生体標本や液浸標本なども展示し、生活の身近にある毒について紹介した。

e 関連行事：① 開会式および内覧会
② ワークショップ「さがそう!海の宝石 ウミウシ観察会」
③ 講演会「クラゲってどんな生きもの?～美しいクラゲの世界～」
④ ワークショップ「宮崎レジ袋ゼロチャレンジ!オリジナルトートバッグ作成」
⑤ 講演会「村瀬先生が教えるひむかの魚と毒」
⑥ 博物館こどもDay「海の生きものエサやり体験」

f 観覧者数：66,156人

(ウ)特別展「化石タイムカプセル ～コンクリーションの謎をとく～」

a 会 期：令和6年10月12日(土)～11月24日(日)開催日数：38日間(無料入場)

b 主 催：宮崎県総合博物館

c 趣 旨：本館と名古屋大学博物館の連携協定事業としての活動や研究成果を紹介することを目的とした展示会である。両博物館が連携協定を結ぶきっかけとなったコンクリーション(良質な化石を含む球状や塊状の岩石)研究の最新成果を紹介し、自然の作る不思議な造形など地球科学に対する興味をもつ機会とした。

d 内 容：コンクリーションをイメージしたマスコットをデザインし、小学生など低年齢の子どもたちにも親しめるようにした。宮崎県内をはじめとする日本や世界各地のコンクリーションから産出されたアンモナイトや三葉虫化石等を展示し、炭酸塩コンクリーションから派生的に形成された鉄のコンクリーションなど非常に珍しい資料も展示した。また、コンクリーションの工業への応用などもトピックとして紹介した。

e 関連行事：① 開幕イベント 講演とガイドツアー
② 特別講演会「恐竜、モササウルス、アンモナイトの発掘と研究～化石を含む地層中のタイムカプセルを追い求めて～」
③ 学芸員によるガイドツアー
④ 博物館野外講座 化石採集会(化石タイムカプセルを探そう)
⑤ 団体解説

f 観覧者数：13,544人

ウ エントランス・ロビー展示

本館1階のエントランスホールと2階民俗展示室前のロビーにおいて、1年を通じてトピックや季節ごとにテーマを設定し、部門の特色をいかした展示や、特別展に関連した展示、「宮崎の伝統工芸品」など

の関連機関との連携した展示等を15回開催した。

エ 民家園

民家園は本館の東側に位置し、県内に残っていた地方独特の建築様式を持つ民家4棟を昭和47年から昭和53年にかけて移築復元したものである。これらのうち「旧藤田家住宅」と「旧黒木家住宅」は国の重要文化財に、「椎葉の民家」と「米良の民家」は宮崎県の有形文化財に指定されている。

平成26～27年度に「旧藤田家住宅」と「旧黒木家住宅」の保存修理を実施し、引き続き平成28～29年度に「米良の民家」と「椎葉の民家」の保存修理を行い、令和元年度より、民間主体による民家園利用事業制度をスタートし、令和6年度は9回の利用があった。

(4)教育普及

本館の収蔵資料等を活用しての学校教育支援や博物館等講座を実施した。また、これらの博物館活動を展開するために関係機関・団体等の連携を図った。

ア 学校教育支援

(ア)学校の受け入れ(令和6年度実績:計235校)

- ① 小学校: 77校
- ② 中学校: 5校
- ③ 高等学校: 3校
- ④ 特別支援学校: 7校
- ⑤ 幼稚園・保育園・認定こども園: 143校

(イ)授業への支援(令和6年度実績:13件)

本館職員が直接生徒や学生に説明や指導を行った。

- ① 宮崎大学地域創生学部との連携: 90名
- ② 宮崎大学教育学部附属小学校「授業支援(民俗部門)」: 約100名
- ③ 筑波大学生命環境学群地球学類「地質学総合野外実験」への協力: 20名
- ④ 宮崎北高等学校「フィールドワーク」: 40名
- ⑤ 宮崎西高等学校附属中学校「青島亜熱帯植物観察会」及び事前学習: 80名
- ⑥ 日南学園高等学校頤学館地理総合の授業への協力: 35名
- ⑦ 高鍋町立高鍋西小学校への協力: 74名
- ⑧ 高千穂町高千穂中学校への協力: 1名
- ⑨ 宮崎市立大宮小学校「授業支援(地質部門)」: 131名
- ⑩ 宮崎市立木花台小学校への協力: 41名
- ⑪ 三股町立梶山小学校への協力: 56名
- ⑫ 県教育支援センター「コネクト」への支援: 2回

(ウ)学校への資料貸出し

授業等で活用することの多い資料をセットにして学校への貸出しを実施

・令和6年度実績:小学校 2校、中学校 2校、大学 1校

(エ)職場体験学習・インターンシップの受け入れ

中学校等の職場体験学習の受け入れ

令和6年度実績:中学校 6校(386人)、高等学校 1校(2人)

(オ)博物館実習生の受け入れ

学芸員資格取得を希望する大学生の受け入れ

・令和6年度実績:4大学(6人)

イ 展示解説員による普及活動

来館者へのきめ細やかなサービスを提供するため、平成12年度から展示解説員制度をスタートさせた。展示解説員は、学校やその他の団体の来館時対応や展示解説を担当するほか、来館者の案内や問い合わせの対応を行っている。また、常設展示室において、紙芝居・クイズラリーなどの催し物の運営を行っている。

(ア)常設展示室の展示解説

・令和6年度に展示解説を受けた方:6,765人

(イ)催し物の運営

- ①紙芝居(毎週日曜日及び祝日):令和6年度参加者(5,334人)
- ②むかしのあそび体験ひろば(毎月第1・3・5土曜日):令和6年度参加者(6,618人)
- ③クイズラリー(通常版:毎月第2・4土曜日、特別版):令和6年度参加者(1,195人)

(ウ)地域回想法「博物館で思い出を語ろう!」事業の実施

・令和6年度実績:44回

(エ)「博物館わくわく通信」の発行

・令和6年度実績:2回発行(4月・10月)

ウ 博物館講座

博物館講座は、本館がこれまで収集した資料や調査研究の成果をもとに、県民に自然や歴史に関する多様な体験・学習の機会を提供することを目的に実施している。年間を通じて部門ごとに実施する普及講座のほか、特別展示に関連して実施する講座を実施した。

(ア)普及講座(22講座中22講座を実施、参加者:683人)

部門	講座名	実施日	場所	参加者数
歴史	地 学芸員とさるく歴史散歩 in 宮崎市上北方・柏田	4月20日	上北方 ・柏田	38
歴史	よろい・かぶと着用体験	5月5日	エントランスホール	58
民俗	地 鶴戸山の民俗を学ぼう	5月11日	日南市 鶴戸神宮	20
植物	地 海藻ウォッチング	5月25日	青島海岸	31

歴史	「鹿児島藩の領主権力と家臣団 - 都城島津家の地誌編さん事業-」 (宮崎の歴史を学ぶ1)	5月26日	研修室1	28
植物	地 きのご観察会	6月30日	延岡市 行徳山	26
植物	標本講座「押し葉標本をつくろう」	7月21日	研修室2	33
地質	標本講座「化石の標本をつくろう」 (化石クリーニング体験)	7月28日	研修室2	21
民俗	「宮崎平野の神楽」	9月28日	研修室1	18
植物	地 秋のえびの高原で植物観察会	9月29日	えびの市 えびの高原	23
動物	地 求む！ザリガニ調査隊	10月14日	平和台公園	13
地質	地 化石採集会 (化石タイムカプセルを探そう)	11月10日	川南町 通浜	51
植物	自然の色で染めてみよう	11月23日	研修室2	31
歴史	地 学芸員とさるく歴史散歩 in 西都市三財	12月1日	西都市 三財	37
民俗	佐土原人形絵付け体験	12月7日	研修室2	30
考古	考古学から探る「おにぎり」はじめて物語	12月8日	研修室1	41
地質	地 双石山の奇石観察会	12月15日	双石山	25
歴史	「歴史学からみた中世伊東氏研究の課題」 (宮崎の歴史を学ぶ2)	1月12日	研修室1	74
動物	深海魚大解剖	1月13日	研修室2	13
考古	体験講座「ミニ銅鏡をつくろう！」	2月8日	研修室2	19
考古	地 中世の山城を攻めろ！ ～木城町新納院高城の巻～	3月2日	木城町 新納院高城	24
地質	化石レプリカをつくろう	3月23日	研修室2	29

※ 地は地域講座

(イ)特別展示関連講座(10講座中9講座を実施、参加者：472人)

講座名	実施日	場所	参加者数
S S P展関連講座 「生きものkids写真教室」	5月3日	民家園・ エントランス	12
S S P展関連講座 「S S Pの作品にTRY! IV ～フィールドへとびだそう」	5月26日	青島	18
ワークショップ 「さがそう！海の宝石 ウミウシ観察会」	5月11日	宮崎市内海	34
講演会 「クラゲってどんな生きもの？～美しいクラゲの世界～」	7月20日	研修室1	51
ワークショップ 「宮崎レジ袋ゼロチャレンジ！オリジナルトートバッグ作成」	8月4日	エントランス ホール	200
講演会 「村瀬先生が教えるひむかの魚と毒」	8月17日	研修室1	32
球状コンクリーション -自然からの贈り物-	10月13日	研修室1	55
ワークショップ 「神秘的な海のアート！宮崎の貝がら観察会」	10月26日	串間市崎田浜	中止 天候不順
恐竜、モササウルス、アンモナイトの発掘と研究	10月27日	研修室1	55
食中毒と寄生虫 ～アニサキス観察会～	11月16日	研修室2	15

エ 民家園を活用した普及事業

国指定重要文化財2棟、県指定有形文化財2棟の計4棟の古民家からなる民家園の活用事業(民家園民俗文化体験事業)を実施するとともに民家園ボランティアによる火入れ等や県内の語り部の会によるみやざきの昔話公演、民家園の貸出しなど実施している。

(ア)火入れ

民家園ボランティアによる民家の囲炉裏の火入れを毎週土曜日に実施した。

(イ)伝統文化体験講座

民家園で昔ながらの正月準備を体験しよう！

・実施日：令和6年12月21日(土)

・参加者：約50人

(ウ)「みやざきの昔話」公演

毎月第3土曜日(9月、12月、1月を除く)に宮崎県内に伝わる昔話の公演を年9回実施した。

・参加者：182人

(エ)昔のくらし体験

民家園ボランティアが指導者となり、小学生などを対象に、各民家の囲炉裏や石臼、唐箕などの昔の道具の使い方の指導を年2回開催した。

・参加者：45人

(オ)民家園利用事業

個人や団体を対象に、民家園を利用する事業を実施している。放送番組の撮影やレコードコンサート、神楽体験など9回の実施があった。

・参加者：1,215人

- (カ)民家園春祭り
民家園内において、「昔の遊び」・「昔のくらし体験」・「昔話公演」・「民謡公演」・「太鼓の演奏」・「お琴の演奏」など様々な催しを開催した。
・実施日：令和7年3月15日（土）
・参加者：450人
- オ 「どこでも博物館」事業
本館が所在する宮崎市から距離があり、訪れることが難しい地域の県民を対象に、博物館が出向き、展示の紹介や体験講座を行う「どこでも博物館」事業を平成27年度から実施しており、令和6年度は、6月（西都市 西都市立茶臼原小学校）・7月（都城市 都城きりしま支援学校）・2月（新富町 新富町総合交流センターきらり）で実施し、計568人の参加があった。
- カ 関係機関との連携
他の博物館や研究機関、さらに教育関係機関と連携し、調査研究等のための職員派遣・招聘、展示等に伴う資料の貸出し・借用、情報交換等を行った。
(ア)職員の派遣： 計29件（40回）
(イ)研究者等の招聘： 計22件（27名）
(ウ)視察・調査等で来館された関係機関： 計13機関（県外：11、県内：2）
(エ)資料の貸出し： 計9機関
(オ)本館が資料を借用又は展覧会等で協力を得た関係機関：計72機関
- キ 名古屋大学博物館との相互協力協定
令和元年12月12日に名古屋大学博物館と相互協力に関する協定書を調印し、協定を締結した。令和6年度は、特別展「化石タイムカプセル」を共同主催により開催し、標本借用、展示内容の検討などのために緊密な連携を行った。名古屋大学博物館の吉田英一館長は、展覧会のオープニングイベントとして、講演会とガイドツアーを実施した。
- ク 宮崎大学との連携
宮崎大学地域資源創成学部は、「地域理解実習」のカリキュラムにおいて「コロナ禍で地域社会・まちづくり・地域資源の活用はどのように変化したか？」をテーマに大学周辺の3地域や都農町の現状・課題やまちづくりの取組について学んでいる。総合博物館ではこのカリキュラムにおいて自然史、歴史、民俗の地域資源についての講義を令和6年5月17日に行った。
- ケ 福祉施設との連携
本館を利用する児童、高齢者、障がい者の福祉施設は、近年増加傾向にあったが、令和6年度は延べ169団体・施設の来館となった。
このうち、高齢者福祉施設の認知症高齢者を対象に、平成27年度から展示解説員がコーディネーター役となり、博物館にある「昔の道具」等を用いて、「博物館で思い出を語ろう！」事業（他県では地域回想法とも呼ばれている）を令和6年度は計44回実施した。
また、施設が自分の施設内で回想法を実施する際に利用していただくために、「昔の道具」や「おもちゃ」などをパッケージにした「貸出しキット」を用意しており、令和6年度は1回の利用があった。
- コ レファレンス対応
日常的に利用しやすい施設として地域や社会に貢献するため、「いつでも何にでも相談にのれる博物館」を目指し、来館時の質問だけでなく、電話やメールでのレファレンスに応じている。
令和6年度のレファレンス件数は、581件であった。
- サ 県内研究団体の発表会
県内の自然史系研究団体が集い、お互いの研究成果を発表し合う合同研究発表会を実施しており、13目の発表会を令和7年3月8日に実施し、69人の参加があった。
- シ 博物館友の会の活動支援
博物館の活動支援を目的として平成11年8月に設立され、令和6年度で25年目を迎えた。
(ア)会員数：（個人会員：48人 ジュニア会員 1人 賛助会員：1団体）
(イ)物品販売：「SSP展図録」を委託販売、「黒潮はくぶつかん」販売
(ウ)刊行物発行：会報「むーちゃんだより」120号～123号
- ス 研修室の利用
3つの研修室（研修室1：60人、研修室2：32人、研修室3：8人）は、主に博物館の諸活動で利用しているが、外部団体から利用依頼があった場合、利用条件を満たしていれば、博物館活動に支障が来さない範囲で貸し出しに応じている。
令和6年度は、27件（663人）の利用があった。
- セ 情報室の利用
「みんなの情報室」では、国内の主な博物館の図録や6部門の関係書籍の他、視聴覚資料を閲覧できる。
また、令和元年から未就学児を含む親子などが楽しみながら学べる「むーちゃん広場」を設置した。令和6年度は1,462組4,363人の利用があった。

3 情報発信及び経営

(1)情報発信

- 県内外の方々、博物館に興味を持ち気軽に訪問していただくとともに、本館を訪れる際に十分に満足してもらうため、施設の運営状況や活動状況等に関する情報発信を様々な方法で行った。
- ア 広報推進委員会：年12回開催
- イ 博物館だよりの発行（年2回）
① みやはく通信 第6号 発行：令和6年4月 第7号 発行：令和6年9月
- ウ ホームページの運用
(ア)令和6年度更新回数：年621回更新（月平均/51.8回更新）
(イ)平成28年から開設したSNSでは、Facebookが107件、X（旧Twitter）が123件、インスタグラムが105件の投稿を行った。
(ウ)ホームページへのアクセス件数：年間 429,333件

エ 県広報紙等への掲載

- (ア) 県政けいじばん（毎月第2、4日曜：新聞5社に掲載）：年20回
- (イ) 県広報紙「県広報みやぎ」：年5回

オ その他の広報及びイベント

- (ア) 4館見学ツアー（令和6年度実績：6団体782人利用）
- (イ) 県庁職員の情報ネットワークを活用したイベント情報等の発信を行った。
- (ウ) 令和6年4月27日（土）に県内の小学生5名を「一日博物館長」に任命し、第45回SSP展の開会式を行った。
- (エ) 観光関係機関等へのPR
宮崎市内の観光案内所などの観光関係機関、国際交流関係機関、文化団体、館周辺の飲食店等を訪問し、ポスター・チラシなどを配布・説明を行った。
- (オ) 博物館こどもDAY
令和6年11月4日（月）の振替休日に実施した。特別展「化石タイムカプセル」の関連イベントを隣接する埋蔵文化財センターの施設公開に合わせ共同開催し、両館を巡るスタンプラリーを設けオリジナル缶バッジの配布を行い、入館者を相互に行き来させる良い機会となった。
- (カ) クリスマスツリー設置とクリスマスコンサート
来館者の少ない冬場に入館を促すため、クリスマスツリー設置やクリスマスコンサートを実施した。

(2) 経営

魅力のある総合博物館として適正な管理運営を行うため、来館者へのアンケート調査を行うとともに来館者の安全・安心を確保するため、職員研修や危機管理に対応する訓練等を実施した。

ア 来館者のアンケート調査

館運営に対する意見をいただく目的で、1階と2階にアンケート記入場所を設置した。

- (ア) 個人アンケート（有効回答件数：946件※うち395件はオンラインアンケートの回答）
- (イ) 学校団体アンケート（有効回答件数：58件）
- (ウ) 一般団体アンケート（有効回答件数：146件）
- (エ) 特別展アンケート（有効回答件数：2,784件※うち75件はオンラインアンケートの回答）

イ 職員の資質向上

- (ア) 基本研修：全職員を対象にコンプライアンスや危機管理対応など基礎的な研修を年4回実施
- (イ) 県外研修等：「学芸員専門研修」等に年15回、延べ27人の職員が参加
- (ウ) 展示解説員への研修：学芸員の案内による自然や史跡などの実地見学や経験年数に応じた実務研修等

ウ 危機管理

博物館は、広く県民が利用する施設であり、毎日多くの来館者が訪れ、また、県民の財産である貴重な資料の収蔵や民家4棟を移築復元していることなどから、各種の危機事象に適切に対応するための「危機管理マニュアル」や「防火管理規程」を作成して、職員への防災・防火訓練を実施した。

- (ア) 防災・防火研修（令和6年4月16日・令和6年9月17日）
・危機管理マニュアルに基づく様々な危機事象に応じた対処方法等の研修を行った。また、宮崎市応急手当研修センター職員を招聘し、心肺蘇生法・AED操作研修を行った。
- (イ) 避難訓練（令和6年6月11日・令和7年1月25日）
・日向灘南部を震源とする震度5の地震を想定した防災訓練を計画し、全職員による避難誘導や伝達訓練を実施した。また、民家園からの火災を想定した防災訓練を、埋蔵文化財センター分館職員と民家園ボランティアの合同で行った。

エ 県内にある博物館等との連携

【宮崎県博物館等協議会】

- (ア) 会員数：36施設（令和7年3月31日現在）
- (イ) 令和6年度の活動状況
 - a 役員会、総会・第1回研修会：令和6年6月7日（金）
・会場：宮崎県総合博物館（内容：令和5年度事業報告、決算報告等及び令和6年度事業計画、収支予算・会員証および会費納入についての説明・研修会）
 - b 第2回研修会：令和6年10月30日（水）
・会場：都城市 都城島津邸（内容：巡検・講演・協議）
 - c 役員館の担当者会：令和7年2月28日（金）
・方法：オンライン会議（内容：令和7年度の事業及び予算案の検討等）
 - d 機関誌の発行
・『宮博協だより 日向路の博物館29号』を令和7年3月に発行

第5節 県立西都原考古博物館

1 設 置

県立西都原考古博物館は、宮崎県総合博物館の構成施設であった「西都原資料館」を再編整備するとともに、同「西都原古代生活体験館」を構成施設に加え、平成16年4月に開館した。西都原考古博物館は、館と古墳群全体を一つの博物館と捉える「フィールドミュージアム」として、「NPO法人との協働」による県民参画型の博物館運営を行っており、「常新展示」の方針のもと、常時、約850品目の展示を行っている。

また、施設は「ユニバーサルデザイン」に重点を置いた設計で、安全・安心で利用しやすい施設となっている。

なお、構成施設は次のとおりである。

- 考古博物館 (延床面積6,678㎡) 西都市大字三宅字西都原西5670番
- 古代生活体験館 (// 1,014㎡) 同
- 西都原古墳群遺構保存覆屋 (延床面積1,394㎡) 古墳群内
- 13号墳内部主体見学施設 (// 22㎡) 同
- 4号地下式横穴墓保存見学施設 (// 21㎡) 同
- 鬼の窟古墳

2 事業実績

(1) 展示活動

入館者数 80,729人(内、特別展等開催期間 57,903人)

※令和6年4月1日～令和7年3月31日(開館日数299日)

ア 常新展

「プロローグ・古墳時代前史・前方後円墳の世界・地下式横穴墓の世界・古墳時代の終焉・律令体制の時代・考古学の世界・考古学研究所」を展示構成の基本に据え、常に新しい情報の展示を目指している。

イ 特別展等

(ア) 開館20周年特別企画

「みんなの西都原フォトコンテスト2024」

会 期：令和6年4月20日(土)～令和6年6月23日(日)

入館者：11,946人

内 容：前年度末に募集した西都原古墳群やその周辺の写真のコンテストを開催した。来館者の投票で賞を決定し、グランプリ作品は令和5年度年報(令和6年6月発行)表紙と20周年記念クリアファイルに使用した。

(イ) 開館20周年記念特別展 海を越えたヒト・モノ・ココロの交流史

展示会Ⅰ「海がつなぐ古代世界～対馬・西海・日向～」

会 期：令和6年7月6日(土)～令和6年9月8日(日)

入館者：13,746人

内 容：海洋県的一面を持つ宮崎県と同じく豊かな海と密接な歴史を持つ地である長崎県の対馬・西海を取りあげ、縄文時代から現代へと続く海と人の暮らしの移り変わりをひもとく展示を行った。列島でも有数の銅矛出土地帯である対馬からは増田山遺跡の銅矛、朝鮮半島との関係を示す陶質土器など、西海からはつぐめのはな遺跡の石銚、門前遺跡の石鋸など先史漁撈に関連する出土品を展示し、県民に紹介する展示とした。

関連事業

講演会：「島と海の考古学～古墳・捕鯨・貝塚」

期 日：令和6年8月25日(日)

場 所：考古博物館ホール

講 師：対馬博物館 尾上博一氏

大瀬戸歴史民俗資料館 川道寛氏

聴講者：46人

(ウ) 開館20周年記念特別展 海を越えたヒト・モノ・ココロの交流史

展示会Ⅱ『「土偶の美」と「縄文の美」～東北日本と九州～』

会 期：令和6年10月5日（土）～令和6年12月8日（日）

入館者：16,851人

内 容：縄文人たちの美意識の結晶ともいえる土偶に着目し、東北日本（東北・関東・中部地方）と九州の土偶や縄文土器等の比較を通じて、精神性豊かな縄文文化が生み出した造形美の世界に誘うとともに、交流から見た縄文時代の宮崎を紐解く機会とするものである。特に、宮崎の地では鑑賞する機会の少ない遮光器土偶や亀ヶ岡式土器（縄文時代晩期）など東北地方の出土品を数多く展示した。

関連事業

講演会：「土偶から読み解く縄文時代の精神文化」

期 日：令和6年10月27日（日）

場 所：考古博物館ホール

講 師：東京都立大学 山田康弘 教授

聴講者：67人

(エ) 開館20周年記念 黒木一明写真展「風の旅」

会 期：令和6年12月10日（火）～令和7年1月13日（月）

入館者：4,422人

内 容：開館20周年記念の写真展として、写真家黒木一明氏が撮影した西都原古墳群等の写真展を開催した。

(オ) 開館20周年記念特別展 海を越えたヒト・モノ・ココロの交流史

展示会Ⅲ「美と権の装身具～玉が映した宮崎の古墳文化～」

会 期：令和7年1月18日（土）～令和7年3月23日（日）

入館者：10,938人

内 容：宮崎の古墳時代に焦点を当て、「玉」を通して、それらが映す、きらびやかな世界に秘められた当時の社会の成り立ちや繁栄の様子、海を介したヒト・モノ・ココロの交流等を読み解こうとするものである。県内から出土した玉を中心に展示し、海外からもたらされた珍しい玉や玉の装着状態が分かる人物埴輪等を展示した。

(カ) 開館20周年記念プロジェクト

「もう一つの船～西都原169号墳出土の船形埴輪復元～」

会 期：令和7年3月8日（土）～令和7年4月13日（日）

入館者：6,218人（令和6年度分）

内 容：西都原古墳群の船形埴輪には、170号墳出土（国重要文化財指定）の他に、隣接する169号墳からも「もう一つの船」が出土しているが、全体形や構造は長らく不明のままであった。そこで、開館20周年を契機に改めて埴輪片の接合と復元等を通じて全体形状や構造を解明し、学術的な価値付けを検討するプロジェクトの成果を紹介するものである。接合復元品の他に、三次元計測に基づく3Dモデルのディスプレイや復元的製作品等を展示した。

ウ その他の展示 展示会Ⅰ関連企画展示「日向灘の多彩な海幸」

内 容：児湯るびなす支援学校の生徒、弥勒祐徳氏、菊地清氏らによる海をテーマとした作品を展示するとともに、写真に残る県内の珍しい海の生物、クジラの供養塔などを展示し、宮崎県の豊かな海の幸について紹介する展示を1階エントランスの一画で行った。

(2) 主な調査活動

ア 西都原古墳群保存整備事業

令和6年度から5か年で「西都原古墳群史跡整備事業」を実施しており、令和6年度は、同事業にて第3支群西都原156号墳の発掘調査を行い、概要報告書を刊行した。また、第3支群内唯一の前方後円墳であり、当館3階のラウンジから眺めるビューポイントの一角にある西都原265号墳の墳丘保存修復工事（墳丘整備工事）

を実施した。墳丘保存修復工事とは、発掘調査等の成果に基づいて古墳本来の姿に復元整備するものであり、今年度は後円部の一部及び前方部について樹根の切り崩し、盛土による遺構面の保護および張芝を実施した。

イ 世界遺産調査研究事業

非破壊的手法により地中の状況を把握する「地中レーダー探査」を実施し、西都原古墳群の全体像の解明と保存整備を目指している。本地中探査は、令和6年度から5か年で実施する「みやぎの古墳魅力発信事業」に位置づけられているもので、西都原の中間台地上に立地する鷺田支群を対象としている。令和6年度は、西都原古墳群232・222号墳を対象として行った。

ウ 博物館資料整備事業

考古資料（鉄製品、古人骨、土器、石器等）の整理、修復、保存処理、データベース化等の作業を行っている。特に経年劣化が進行する鉄製品については、国庫補助を受け保存処理を進めている。

(3) 国際交流事業

西都原考古博物館では、開館以来、東アジア地域との学术交流を行っている。

開館からの5か年は、韓国から資料を借用しての「日韓交流展」を、平成21年度からは台湾を加えて、日台韓による「国際交流展」を開催してきた。こうした国際交流展示会の開催は、東アジア地域の学術文化交流促進事業による人的交流等を含めた調査研究の実践の成果である。

これまでに、韓国国立中央博物館考古歴史部・韓国国立中原文化財研究所と学術文化交流協定を締結し、共同研究・展示会の共催・職員の相互交流等を行ってきた。

現在は台湾新北市立十三行博物館と韓国国立羅州博物館の二館と学術文化交流協定を締結し、共同調査研究や職員の人的交流などの交流を行い、国際交流展として成果の一端を公表している。

台湾関係では、令和6年4月に台湾新北市立十三行博物館で行われた「2024新北市国際考古フォーラム—動物と考古学—」に発表者として参加し、「2024新北市考古生活フェスティバル」にも勾玉製作体験のためのブースを当館から出店し、職員2名が参加した。

また令和7年2月には、学術文化交流協定に基づき十三行博物館から2名の職員を招聘し、令和7年度に十三行博物館で予定している展示会への資料貸与について協議を行った。また、3月には令和7年度に当館で予定している国際交流展の資料調査を目的とし、宜蘭県立蘭陽博物館を職員2名で訪問した。

韓国関係では、11月に韓国国立羅州博物館より館長および学芸研究士を招聘して人的交流を深めるとともに、学術文化交流協定の5年間の延長更新を締結した。

(4) 普及事業

ア 考古博講座・講演会

講座名	聴講者数	実施日	講師等
みんなの西都原フォトコンテスト2024表彰式	5人	6月2日(日)	表彰式参加者
展示会I関連講演会 島と海の考古学～古墳・捕鯨・貝塚	46人	8月25日(日)	対馬博物館 尾上博一氏、 大瀬戸歴史民俗資料館 川道寛氏
展示会I関連講座 「縄文人は鯨を獲ったか？ ～長崎県つぐめのはな遺跡 と宮崎県松添貝塚の出土資料から～」	33人	9月1日(日)	西都原考古博物館 松本茂 副主幹
展示会II関連講演会 土偶から読み解く縄文時代の精神文化	67人	10月27日(日)	東京都立大学 山田康弘 教授

展示会Ⅱ関連講座 “第2の道具”と南九州の 縄文人	30人	11月30日(土)	宮崎市文化財課 金丸武司 副主幹
展示会Ⅲ関連講座 玉からみた宮崎の古墳文化 —海を越えた交流・玉を飾 る人々—	40人	2月9日(日)	宮崎県埋蔵文化財センター 藤木聡 主査
考古博講座 西都原古墳群を歩く	16人	3月15日(土)	西都原考古博物館 橋本英俊 主査
計	237人		

令和7年3月9日には当館ホールにおいて、開館20周年記念プロジェクト関連講演会「船形埴輪研究の最前線～西都原古墳群で出土した「二つ」の船形埴輪」を開催した。

講演会ではプロジェクトに御協力いただいた犬木努氏（大阪大谷大学）を招聘し、西都原古墳群から出土した二つの船形埴輪の学史的・学術的意義について、古墳時代の船の構造や船形埴輪研究を紐解きながら御講演いただいた。最後には地下1階展示室で復元品を実際に見ながら解説をしていただき、船形埴輪について理解を深める機会を得ることができた。（参加者60名）。

イ 体験・実験講座

講座名	参加者数	実施日	備考
ミニチュア鉄剣を作る	24人	5月11日(土)	
考古学って楽しい!	3人	7月27日(土)	
縄文釣り針を作る	16人	8月4日(日)	
アカネ色に染める	8人	10月14日(月)	
土偶・人面土器を作る	19人	11月10日(日)	
古代食を作る	18人	12月15日(日)	
埴輪船を作る	7人	1月25日(土)	
玉を作る	13人	2月16日(日)	
計	108人		

ウ 考古博物館少年団

少年団活動は、古代の状況に近い体験や製作活動を通じて、当時の人々の知恵や技術を学ぶとともに、古墳群や身近な史跡への理解や保護についての意識を醸成することを目的としている。

令和6年度は、29人が登録し活動を行った。「古代のくらしを楽しく学ぼう」というテーマのもと体験活動を中心に行った。

エ 古代生活体験館

特別史跡西都原古墳群保存整備事業により、縄文、弥生、古墳時代の古代生活を学ぶ施設として、平成9年7月13日に開館した。通常の体験メニューは、勾玉、土器、埴輪、石器の制作と、アンギン編み、火起こし、鏡の鑄造体験で、希望者は来館時に申し込んで体験できる（団体利用は事前予約が必要）。

令和6年度に体験館を訪れた人数は10,023人で、その内の8,251人が実際に様々な活動を体験した。

(5) その他

ア 刊行物

- ・ 図録 開館20周年記念特別展展示会Ⅰ『海がつなぐ古代世界～対馬・西海・日向～』
- ・ 図録 開館20周年記念特別展展示会Ⅱ『「土偶の美」と『縄文の美』～東北日本と九州～』
- ・ 図録 開館20周年記念特別展展示会Ⅲ『美と権の装身具～玉が映した宮崎の古墳文化～』
- ・ 『宮崎県立西都原考古博物館研究紀要』第21号
- ・ 『宮崎県立西都原考古博物館年報』2023（令和5）年度
- ・ 『特別史跡西都原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書（XXV）』

第6節 県埋蔵文化財センター

1 設 置

宮崎学園都市建設をはじめとする大規模開発が増大するという情勢に対応するために、埋蔵文化財発掘調査体制の確立と、膨大な調査資料の整理・保管・活用を目的に、昭和56・57年度の国庫補助事業により埋蔵文化財センターを建設、昭和57年10月2日に開館し、県総合博物館埋蔵文化財センターとして業務を開始した。

平成8年4月1日に県総合博物館から埋蔵文化財の発掘調査機能をもつ県埋蔵文化財センターとして独立した。
平成12年1月20日に佐土原町（現：宮崎市佐土原町）に新築移転し、宮崎市神宮の旧本館を分館とした。

2 業 務

- ・埋蔵文化財の調査研究
- ・出土品その他の資料の保存及び活用
- ・埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備
- ・埋蔵文化財関係者の専門的・技術的な研修及び指導
- ・埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発

3 施 設

(本館) 宮崎市佐土原町下那珂4019

床面積 2,656.50 m²

- ・本館（鉄筋コンクリート造一部木造平屋建）

1,745.99 m²

- ・附属建物（鉄骨造）

整理作業棟 216.76 m²

- ・附属建物（鉄骨造）

収蔵庫棟 693.75 m²

(分館) 宮崎市神宮2丁目4-4

床面積 1,652.38 m²

- ・分館（鉄筋コンクリート造2階建）

4 令和6年度活動状況

(1) 発掘調査

令和6年度は、東畦原第1遺跡（新富町）、城川遺跡（宮崎市）の2遺跡で本発掘調査を実施した。

(2) 出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行

埋蔵文化財センターでは、発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行い、発掘調査報告書を作成している。

令和6年度に整理を実施した遺跡は、河川改修事業に伴う1遺跡である。なお、令和6年度は整理作業の終了した1遺跡について発掘調査報告書を刊行した。

(3) 近代宮崎の出発点 西南戦争関連遺跡調査・活用事業（文化庁補助事業）

令和5年度から3か年事業で本県の西南戦争（明治10年、1877年）関連遺跡について所在地や現況の把握と、国史跡指定に向けて必要なデータ取得を目的とする確認調査を実施している。

また、市町村教育委員会・学校・地域住民との連携により関連遺跡の保存・継承を図るため、遺跡の所在する市町村での展示会や講座を計画する等、教育普及活動も行っている。

令和6年度は、台場22基、墓・慰霊碑等50基、その他（激戦地等）3か所の悉皆調査を行った。

【悉皆調査一覧（台場）】

市町村名	名 称	箇所数
延岡市	和田越台場群	12
日之影町 ・美郷町	九左衛門峠台場群	3
美郷町	吉野宮北尾根台場群	2
都城市	陣ヶ岡山台場群、高束山台場	5

【悉皆調査一覧（墓・慰霊碑等）】

市町村名	名 称	基 数
延岡市	土方雄基之墓、川路勇夫之塚、西南役烈士之墓	3
川南町	薩摩隼人之塚	1
高鍋町	水町實武之墓、泥谷小源太墓、阪田諸美遺物之墓	3
宮崎市	忠烈碑	1
国富町	招魂之碑	1
高原町	田口長富墓	1
都城市	肥田木覺介墓、弓削研墓、小山秀静墓	3
日南市	佐師徳被之墓	1
串間市	西南戦争戦没者墓地、山下鑄十郎之墓、吉田織衛之墓	36

【悉皆調査一覧（その他）】

市町村名	名 称	箇所数
延岡市	菅原洞穴	1
門川町	辺見十郎太奮戦の地	1
都城市	薩軍旧谷川墓地	1

【確認調査一覧】

	遺跡名	所在地	調査期間
1	和田越台場群 10・58・60号	延岡市無鹿町・大峽町	R6.11.5～R7.3.14（実調査日数20日）

【測量調査一覧】

	遺跡名	所在地	調査期間
1	和田越台場群 60・62号	延岡市大峽町	R6.11.20～R6.12.17 (実調査日数5日)

(4) 教育普及活動

令和6年度の教育普及事業は、文化庁の補助事業（令和4年度から令和6年度まで）として移動展示会を主とした発掘成果地域還元事業「ふるさとの遺跡再発見」を実施したほか、埋文講座（年5回）、遺跡発掘成果展2024「東九州自動車道118遺跡 清武～西都編」、施設公開、分館展示のほか、出前講座等のアウトリーチ活動を実施した。令和6年度の分館入館者は6,312名であった。

ア 発掘成果地域還元事業「ふるさとの遺跡再発見」（文化庁補助事業）

各種開発事業に先立って県内各地で行った発掘調査の成果を地域へ還元し、地域の特色ある埋蔵文化財の公開活用を推進するため、移動展示会と関連講座を3会場で開催した。

①名 称：発掘成果地域還元事業「ふるさとの遺跡再発見」

②主 催：宮崎県埋蔵文化財センター

③共 催：高千穂町・高千穂町教育委員会
都城市教育委員会
国富町・国富町教育委員会

④会場・会期

高千穂会場（高千穂町コミュニティセンター） 令和6年7月10日（水）～8月8日（木）

山之口会場（都城市山之口総合支所） 令和6年10月1日（火）～10月27日（日）

国富会場（国富町総合文化会館） 令和7年2月1日（土）～2月27日（木）

⑤観覧者数

高千穂会場 704名 山之口会場 6,925名 国富会場 246名

合計7,875名（体験講座参加者含む。）

⑥関連行事（ギャラリートーク〔展示解説〕・体験講座（石器レプリカ、土器文様拓本、土器立体パズル）

高千穂会場 令和6年8月4日（日） 参加者48名

山之口会場 令和6年10月20日（日） 参加者47名

国富会場 令和7年2月9日（日） 参加者42名

⑦ふるさとの遺跡学習会（移動展示会に関連した学習会）

都城市木之川内小学校 令和6年6月28日（金） 参加者47名

高千穂町立田原小学校 令和6年7月17日（水） 参加者38名

高千穂町立高千穂小学校 令和6年7月17日（水） 参加者65名

高千穂町立押方小学校 令和6年7月18日（木） 参加者36名

都城市立高崎小学校 令和6年9月29日（日） 参加者57名

都城市立丸野小学校 令和6年11月29日（金） 参加者40名

国富町立本庄小学校 令和7年2月20日（木） 参加者52名

イ 埋文講座

近年発掘調査報告書を刊行した遺跡の最終成果報告、また本県の歴史を考える上で重要な遺跡や当センターの事業報告の場として、分館研修室で講座を実施し、合計で156名の参加者があった。

開催日	講演名	講師	参加者
第1回 R6.5.19	斜面の歴史と少し新しい調査記録の話 樋口遺跡（五ヶ瀬町）	宮崎県埋蔵文化財センター 留野 優兵	20名

第2回 R6.6.23	盆地統一「都城」～都城の成り立ちと発掘調査結果～ 都城（鶴丸城）跡（都城市）	宮崎県埋蔵文化財センター 小吹 雅史	29名
第3回 R6.8.25	激戦、大台場～西南戦争 日之影大楠の戦い～ 西南戦争関連遺跡調査・活用事業	宮崎県埋蔵文化財センター 上野 哲矢	47名
第4回 R6.12.15	九州唯一の逸品～山崎上ノ原第1遺跡で出土した「特殊扁壺」～	宮崎県埋蔵文化財センター 和田 理啓	20名
第5回 R7.1.19	宮崎平野の形成過程から考える段丘発達と遺跡の立地	宮崎県埋蔵文化財センター 松田 清孝	40名

ウ 埋文センター施設公開

例年、埋蔵文化財センターの事業のPRと埋蔵文化財保護啓発の目的で「施設公開」を開催している。令和6年度は、文化財保護強調週間中の11月4日（月）に、「埋文センターで“ホンモノ”体験」と題して分館において開催した。

【施設公開「埋文センターで“ホンモノ”体験】】

開催日	開催場所	内容	参加者
R6.11.4	・埋蔵文化財センター分館	展示物解説、バックヤード見学、土器復元体験、土器拓本体験 土器パズル、発掘疑似体験、石器レプリカ製作、ドングリつぶし体験 石斧体験等	451名

エ 遺跡発掘成果展

埋蔵文化財センターが東九州自動車道の建設に伴い発掘調査を行った遺跡の資料を展示する遺跡発掘成果展2024「東九州自動車道118遺跡 清武～西都編」を県立図書館2階特別展示室で開催し、展示期間中に関連講座（ギャラリートーク）を開催した。また、同講座2回目と同日に県立図書館2階視聴覚室で遺跡発掘速報会を実施した。

【遺跡発掘成果展2024「東九州自動車道118遺跡 清武～西都編】】

開催期間	開催場所	展示遺跡	参加者
R7.2.19 ～ R7.3.9	県立図書館2階特別展示室	下星野遺跡、権現原第1遺跡、白ヶ野第2・3遺跡、本城跡、内宮田遺跡、柳迫遺跡、迫内遺跡、町屋敷遺跡、倉岡第2遺跡、別府原遺跡、平田迫遺跡、宮ノ東遺跡、上ノ原遺跡、下屋敷遺跡、長菌原遺跡 15遺跡	753名

【ギャラリートーク】

開催日	開催場所	ギャラリートーク	参加者
R7.2.23	県立図書館2階特別展示室	ギャラリートーク：東九州自動車道118遺跡 清武～西都編 展示解説	6名
R7.3.2	県立図書館2階特別展示室	ギャラリートーク：東九州自動車道118遺跡 清武～西都編 展示解説	21名

【遺跡発掘速報会】

開催日	開催場所	報告遺跡	参加者
R7.3.2	県立図書館2階視聴覚室	田宮遺跡、城川遺跡、東畦原第1遺跡	32名

オ 分館テーマ展示

分館の展示室において、埋蔵文化財センターがこれまでに発掘調査を行った遺跡について、遺跡ごとに出土遺物を紹介するテーマ展示を年4回行った。一部は埋文講座や遺跡発掘成果展などの事業との連携を図って構成した。

カ 出前展示

発掘調査で県内各地から出土した遺物等を各地域で展示し、発掘の成果を公開している。合わせて埋蔵文化財センターの業務内容についての紹介も行っている。令和6年度は2回実施した。

開催日	名称	場所	内容	観覧者
R6.10.13	埋蔵文化財センター事業紹介 「埋蔵文化財センターってなあに？」	イオンモール宮崎	埋蔵文化財センターの紹介 体験講座	300名
R7.1.25 1.26	広瀬西小校区芸能文化まつり	佐土原総合文化センター	埋蔵文化財センターの紹介 遺物展示・体験講座	811名

キ 出前講座

地域や学校等からの依頼に応じて、埋蔵文化財センター職員が県内各地に出向いて行う出張講座を実施している。それぞれの地域の遺跡や遺物の展示・解説、遺物に触れる体験、埋蔵文化財センターの業務紹介等を行った。令和6年度は、ふるさとの遺跡学習会等を含め32件の講座を実施した。また、オンラインによる発掘現場との中継なども行った。

	開催日	学校名・機関名	対象	内容	参加者
1	R6.5.22	川南町放課後子ども教室（通山地区）	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 各種体験活動	20名
2	R6.5.24	宮崎市立恒久小学校 6年生	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 各種体験活動	89名
3	R6.5.29	川南町放課後子ども教室（東地区）	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 各種体験活動	14名
4	R6.6.4	宮崎市立生目小学校 小学6年生	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 古墳のAR体験	103名
5	R6.6.13	高鍋町立高鍋西小学校 小学6年生	小学生	分館・宮崎県総合博物館とのオンライン中継（施設紹介）	75名
6	R6.6.17	高鍋町立高鍋西小学校 小学6年生	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	35名
7	R6.6.18	門川町立草川小学校	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 分館とのオンライン中継	66名
8	R6.6.22	日南市立桜ヶ丘小学校（家庭教育学級）	小・中学生 保護者	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 各種体験活動	36名
9	R6.6.26	川南町放課後子ども教室（川南地区）	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 各種体験活動	23名
10	R6.6.27	川南町立通山小学校 小学6年生	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 分館とのオンライン中継	26名
11	R6.6.28	都城市立木之川内小学校 全校児童 （ふるさとの遺跡学習会）	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 各種体験活動 分館とのオンライン中継	47名
12	R6.7.3	川南町放課後子ども教室（山本地区）	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 各種体験活動	23名
13	R6.7.10	綾町立綾中学校	中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 分館とのオンライン中継	79名
14	R6.7.10	川南町放課後子ども教室（多賀地区）	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 各種体験活動	13名
15	R6.7.11	宮崎市立田野小学校	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	114名

16	R6.7.17	高千穂町立田原小学校 全校児童 (ふるさとの遺跡学習会)	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 各種体験活動	38名
17	R6.7.17	高千穂町立高千穂小学校 小学6年生 (ふるさとの遺跡学習会)	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 各種体験活動	65名
18	R6.7.18	高千穂町立押方小学校 全校児童 (ふるさとの遺跡学習会)	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 各種体験活動	36名
19	R6.7.30	日南市教育委員会 小・中学校学力向上支 援事業「処平塾」	小・中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 各種体験活動	12名
20	R6.8.10	高鍋高校 08 祭	一般	遺物展示・体験活動(石器レプリカ 作り)	178名
21	R6.8.23	日南市立東郷小学校(児童クラブ)	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 各種体験活動	35名
22	R6.9.13	宮崎市立学園木花台小学校 小学6年生	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	58名
23	R6.9.29	都城市立高崎小学校 小学4年生 保護者 (ふるさとの遺跡学習会)	小学生 保護者	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	57名
24	R6.11.9	こゆ地域づくり推進機構(物見遊山)	一般	各種体験活動	146名
25	R6.11.29	都城市立丸野小学校、木之内川内小学校 小学6年生(ふるさとの遺跡学習会)	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 露頭(地層)見学	40名
26	R6.12.7	広瀬西小校区地域づくり推進委員会	一般	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説・ 各種体験活動	29名
27	R6.12.16	県立明星視覚支援学校	中・高等部	遺跡紹介(城川遺跡)・遺物展示・ 解説・各種体験活動	28名
28	R6.12.19	久峰中校区活動センター	一般	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説・ 各種体験活動・発掘現場とのオン ライン中継	19名
29	R7.1.26	広瀬西小校区芸能文化まつり(宮崎市立広 瀬西小学校)	小学生	石器レプリカ作り	50名
30	R7.2.3	都城市立高崎麓小学校 全校児童 (西南戦争関連遺跡調査・活用事業)	小学生	ふるさとの歴史(西南戦争と高崎 麓小学校)・地域の遺跡紹介・遺物 展示・解説・西南戦争関連遺跡と のオンライン中継	24名
31	R7.2.12	県立みやざき中央支援学校	中学部	遺跡紹介(城川遺跡)・遺物展示・ 解説・各種体験活動	22名
32	R7.2.20	国富町立本庄小学校 小学6年生 (ふるさとの遺跡学習会)	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 各種体験活動・発掘現場とのオン ライン中継	52名

ク 現地説明会(調査報告会等)

発掘調査中の現場を県民の方に見学していただく遺跡の現地説明会を東畦原第1遺跡(新富町)、城川遺跡(宮崎市)で開催した。

【現地説明会】

	開催日	遺跡名	開催地	内容・対象	参加者
1	R6.7.30	東畦原第1遺跡	新富町	遺跡の概要、遺跡内の遺構・遺物の説明 NEXCO 西日本	20名
2	R6.12.16	城川遺跡	宮崎市	遺跡の概要、遺跡内の遺構・遺物の説明 県立明星視覚支援学校	28名
3	R7.2.13	城川遺跡	宮崎市	遺跡の概要、遺跡内の遺構・遺物の説明 県立みやざき中央支援学校	22名
4	R7.2.16	城川遺跡	宮崎市	遺跡の概要、遺跡内の遺構・遺物の説明 一般	34名

ケ 見学・研修等で分館に訪れた団体およびインターンシップ・職場体験の受け入れ

【施設見学】

	実施日	団体名	内容	人数
1	R6.5.9	小林市立小林小学校	展示見学・展示物解説	91名
2	R6.5.12	宮崎考古学会	研修	25名
3	R6.5.17	延岡市立上南方小学校	展示見学・展示物解説	38名
4	R6.5.25	宮崎地質研究会	研修	10名
5	R6.6.25	NEXCO 西日本	展示見学・展示物解説	12名
6	R6.7.6	宮崎地質研究会	研修	10名
7	R6.7.13	宮崎大学附属小学校	展示見学・各種体験活動	147名
8	R6.7.25	なでしこ児童クラブ	展示見学・各種体験活動	82名
9	R6.7.29	ファルケホイスコーレ児童クラブ 早鈴・若葉	展示見学・展示物解説	55名
10	R6.8.7	放課後等デイサービス なないろ	展示見学・各種体験活動	26名
11	R6.8.8	放課後等デイサービス まーぶるクラブ	展示見学・各種体験活動	20名
12	R6.8.23	のぞみ保育園	展示見学・各種体験活動	39名
13	R6.8.31	宮崎地質研究会	研修	9名
14	R6.9.28	宮崎地質研究会	研修	8名
15	R6.10.4	埋蔵文化財担当専門職員研修会	研修	26名
16	R6.10.16	絵手紙の会	展示見学・土器のスケッチ	7名
17	R6.10.23	小林市立須木小学校	地域の遺跡・各種体験活動	10名
18	R6.10.31	小林市立西小林小学校	展示見学・展示物解説	38名
19	R6.11.8	宮崎市立生目台西小学校	展示見学・各種体験活動	27名
20	R6.11.16	宮崎民俗学会	研修	4名
21	R6.11.21	宮崎市立大宮中学校	展示見学・展示物解説	170名
22	R6.12.8	宮崎大学学芸員課程	研修	37名
23	R6.12.14	宮崎地質研究会	研修	9名
24	R6.12.26	放課後デイサービス おひさま SUNNY	展示見学・各種体験活動	10名
25	R7.1.26	宮崎考古学会	研修	7名
26	R7.2.1	宮崎地質研究会	研修	10名
27	R7.2.11	放課後デイサービス おひさま SUNNY	展示見学・各種体験活動	10名

【インターンシップ】

	期間	場所	内容	対象	参加者
	R6.8.26 ～ R6.8.27	県埋蔵文化財 センター本館・分館	埋蔵文化財センターの業務体験 展示作業補助業務	大学生	2名

【職場体験】

	期間	場所	内容	対象	参加者
	R7.2.5 ～ R7.2.6	県埋蔵文化財 センター本館	埋蔵文化財センターの業務体験	中学生	4名

(5) 遺物整理及び収蔵状況

ア 収蔵庫（分館）

分館収蔵庫には、登録を完了した遺物や登録作業途中・待機中の遺物を収蔵している。令和6年度は、登録を完了した遺物と登録待機中の遺物を併せたコンテナ総数は7,228箱となった。

イ 収蔵庫（本館）

新収蔵庫には、主に本館で整理作業の終了した遺物や登録待機遺物を収蔵している。令和6年度は、コンテナ26箱を搬入した。また、東九州自動車道関連の調査で出土した礫の整理を行い20箱の圧縮となった。よって、本館の収蔵量はコンテナ15,078箱となった。

ウ 登録作業

分館における令和6年度の実績は3遺跡、コンテナ91箱である。登録累計304遺跡、登録済みコンテナ6,800箱となった。本館における同年度の実績は1遺跡、コンテナ26箱であり、登録累計119遺跡、コンテナ4,185箱となった。よって、令和6年度の本館と分館を合わせた登録収蔵総累計は、423遺跡、コンテナ10,985箱である。

(6) 図書資料収蔵状況

全国から送られてくる発掘調査等の報告書や購入書籍・雑誌類を図書室に集架している。令和6年度は1,388冊の受け入れがあり、合計収蔵数は88,588冊になる。図書管理システムによる図書資料の登録と、バーコードによる貸出・返却管理を行っている。

(7) 刊行物

発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行い、発掘調査報告書を刊行しているほか、年報等を発行し埋蔵文化財への理解を深める一助とした。

ア 令和6年度刊行発掘調査報告書一覧

No.	報告書名	副書名	執筆・編集者
270	田宮遺跡	五ヶ瀬川・大瀬川適正分派事業（天下地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	守部丘大

イ その他の資料

発行年・月	広報出版物
R 6. 5	宮崎県埋蔵文化財センター 年報 第28号 令和5(2023)年度
R 7. 3	令和7年度宮崎県埋蔵文化財センター 年間行事案内「イベントカレンダー」
R 7. 3	宮崎県埋蔵文化財センター 通信 「ひむか」27号

(8) 職員研修・会議等

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所で実施している発掘技術者研修や全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会主催の各種会議等に職員を派遣し、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

令和6年度は、上記のほか、オンラインを併用して開催された文化庁担当者講習会や、発掘調査現場及びセンター内での安全衛生の増進を図るため、各講習会へも参加している。

(9) 職員派遣

市町村の教育委員会などに埋蔵文化財等の専門的・技術的な指導を行い、諸機関・団体主催講演会等の普及啓発行事にも職員を派遣している。令和6年度の職員派遣は17件延べ20名であった。

第7節 スポーツ指導センター

1 設 置

「体育・スポーツに関わる職員等の研修及び専門的・技術的事項の研究並びに県体育館等の機能と併せ、体育・スポーツ指導の一元化・強化を図る」ことを目的として、昭和58年4月1日宮崎県教育庁スポーツ指導センターが設置された。

平成13年4月1日、機構改革により土木部（現県土整備部）から、総合運動公園有料公園施設に関する管理・運営が教育委員会に委任された。

平成18年4月1日、総合運動公園有料公園施設のうち、県教育委員会所管の4つの施設（武道館、硬式野球場、第2硬式野球場、屋内運動場）が土木部に所管換えになるとともに、総合運動公園有料公園施設及び県体育館・ライフル射撃競技場の管理運営業務が指定管理者へ移行した。

2 業 務

- (1) 体育及びスポーツに関する専門的、技術的事項の調査及び研究
- (2) 体育及びスポーツの普及及び振興のため必要な事業
- (3) 体育及びスポーツ関係職員の研修
- (4) 体育及びスポーツに関する資料の収集、整理及び活用
- (5) 体育館、新体育館、ライフル射撃競技場、プール、山之口陸上競技場、山之口投てき練習場及び総合運動公園の利用者の体育及びスポーツの指導
- (6) 体育館、新体育館、ライフル射撃競技場、プール、山之口陸上競技場、山之口投てき練習場及び総合運動公園有料公園施設の管理

3 令和6年度 事業実績

(1) スポーツ指導センター事業

① 体育・保健体育指導に関する研修

No.	講座名	期 日	会 場	対 象	人数	内 容	講 師
1	幼児児童の楽しい水遊び	5月14日(火)	[中部] ABCスポーツクラブ	幼稚園等の運動指導、体育・保健体育指導に関わる教員等	28	講義 「水難事故の現状とその対応」 実技 「楽しい水遊び(水に慣れる遊び、浮く、潜る遊び)」	スイミングクラブ インストラクター
		5月23日(木)	[南部] スイミングフィットネスフィットピア		15		
		5月28日(火)	[北部] フィットネスクラブターザン		13		
2	幼児児童の楽しい運動遊び	8月27日(火)	[南部] 三股町武道体育館		12	講義・実技 「運動大好き子を育てよう!」	澤井雅志氏 (日本体育大学兼任講師)
		8月28日(水)	[北部] アスリートタウン延岡アリーナ		中止		
		8月29日(木)	[中部] ひなた武道館		中止		
3	小学校体育指導者養成講習会	6月21日(金)	ひなた武道館	小学校体育地区別講習会の各地区講師	8	講義 「学習指導要領を踏まえた体育授業の考え方」 講義・協議・実技 「体づくり運動系」「表現運動系」	春山 文香 教諭 (宮崎市立宮崎南小学校) 末原 義国 教諭 (小林市立三松小学校)
4	小学校体育地区別講習会 (体づくり運動系、表現運動系)	7月30日(火)	ひなた武道館	中部(宮崎市内)	体育・保健体育指導に関わる教員等	40	高須 力樹 教諭 (宮崎市立湖見小学校) 占部 隼 教諭 (宮崎市立穆佐小教諭) 池之上 優希 教諭 (高原町立広原小学校) 杉尾 育樹 教諭 (三股町立三股西小学校) 重村 実環 教諭 (日南市立東郷小学校) 有嶋 優 教諭 (西都市立妻南小学校) 伊藤 麗絵 教諭 (日向市立日知屋東小学校) 下り藤 雅也 教諭 (延岡市立南方小学校)
		7月31日(水)	早水公園体育文化センター	南部		74	
		8月2日(金)	ひなた武道館	中部(宮崎市外)		39	
		8月23日(金)	アスリートタウン延岡アリーナ	北部		55	
5	中学校・高等学校保健体育地区別講習会 (保健、球技:ゴール型)	8月20日(火)	宮崎市総合体育館	体育・保健体育指導に関わる教員等	32	講義「学習指導要領を踏まえた保健体育授業のポイント」 講義・実技「保健」「球技(ゴール型)」	原田 卓弥 教諭 (延岡市立北川中学校) 金丸 宜弘 教諭 (西都市立都都郡中学校)
		8月21日(金)	早水公園体育文化センター		16		
6	中・高保健体育セミナー (器械運動)	7月4日(木)	ひなた武道館	体育・保健体育指導に関わる教員等	15	講義「学習指導要領の趣旨を踏まえた保健体育授業のポイント」 講義・実技「器械運動」	長崎 望 教諭 (小林市立小林中学校)
	小学校体育セミナー (ラグビー・フットボール)	9月26日(木)	アスリートタウン延岡アリーナ	体育・保健体育指導に関わる教員等	12	講義・実技 「ラグビー、フットボール」	年永 健二 教諭 (宮崎市立生目台東小学校)
	幼児・小学校体育セミナー (幼児児童の運動遊び)	10月24日(木)	ひなた武道館	幼稚園等の運動指導、体育・保健体育指導に関わる教員等	31	講義「幼児期運動指針及び幼稚園教育要領を踏まえた運動遊び指導の考え方」 講義・実技・演習「幼児児童の運動遊び」	下田 航 教諭 (日向市立財光寺小学校)
	中・高保健体育セミナー (武道:剣道)	11月12日(火)	ひなた武道館	体育・保健体育指導に関わる教員等	8	講義「学習指導要領を踏まえた保健体育授業のポイント」 講義・実技「武道:剣道」	高橋 実友 教諭 (日南市立鉄肥中学校)
7	表現運動系・ダンス指導者講習会	12月10日(火)	ひなた武道館	体育・保健体育指導に関わる教員等	13	実技・演習 「指導が2倍楽しくなる授業の考え方」	ダンスカンパニー んまつーぽす
8	アダプテッドスポーツ研修会	1月17日(金)	ひなた武道館	体育・保健体育指導に関わる教員等	32	講義「体育授業場面における障がいのある子どもへの指導上の工夫」	澤江 幸則 准教授 (筑波大学)
9	体育・保健体育指導力向上研修	5月22日(水) ~24日(金)	兵庫県神戸市	小学校・中学校・高等学校の教員	9	小学校 「運動遊び(幼児含む)、体づくり運動系、表現運動系」 中学校・高等学校 「器械運動、球技:ゴール型、剣道、保健」	大学教授等
10	体力向上マネジメント指導者養成研修	11月27日(水) ~29日(金)	茨城県つくば市	指導主事、教員等	1	講義・演習等	スポーツ庁 教科調査官等
合計					453		

② 運動部活動・スポーツ指導に関する研修

No.	講座名	期 日	会 場	対 象	人数	内 容	講 師
1	運動部活動外部指導者研修	5月21日(日)	スポーツ指導センターHP オンデマンド配信	運動部活動外部指導者	オン デマ ンド	説明「部活動とは」「部活動を指導するにあたって」「『スポハラ(スポーツハラスメント)』とは」「県中学校体育連盟『ベンチ入り制度』について」	スポーツ振興課 (公財)宮崎県スポーツ協会 宮崎県中学校体育連盟
2	運動部活動顧問研修会 (バレーボール、陸上競技、 バドミントン)	11月28日(木)	ひなた宮崎県総合運動公園 陸上競技場、屋内走路、 体育館、ひなた武道館	運動部活動に関わる教員 等	55	講義・実技	重黒木 久美 教諭(尚学館中) 西川 亮太 教諭(泉ヶ丘高) 佐藤 友春 教諭(久峰中) 岩切 晋作 教諭(宮崎第一高) 甲斐 秀則 教諭(東郷学園中) 時任 淳 教諭(聖心ウルスラ高)
3	第1回スポーツ指導者セミナー	7月22日(月)	ひなた武道館	スポーツ指導者及び関係者 等	58	講演「正しい身体の使い方」	佐々木 さはら 氏 (九州医療科学大学 講師)
	第2回スポーツ指導者セミナー	1月24日(金)			75	講演「パワハラで 人生を くじった 元名監督に学ぶ 変わる勇氣」	松井 英幸 氏 (流通経済大学 ラグビー部 アドバイザー)
合計					188		

4	スポーツ指導者養成事業 事前研修会	7月22日(木)	ひなた武道館	所属、競技団体から 推薦された指導者等	12	県外派遣事業 事前説明
ス ポ ー ツ 指 導 者 養 成 事 業 (県 外 派 遣 事 業)	氏名	所属	競技名	派遣先	派遣期間	
	近藤 伸也	県立延岡星雲 高等学校	アーチェリー	東京国際大学	令和7年1月8日(水)~10日(金)	
	串間 勇哉	県立宮崎工業 高等学校	水球	日本体育大学	令和6年8月21日(水)~23日(金)	
	桐山 雄一	宮崎県山岳・ク ライミング連盟	クライミング	クライミングジムPUMP2	令和7年1月8日(水)~9日(木)	
	宮田 一輝	県立延岡工業 高等学校	ハンドボール	中部大学	令和6年7月31日(水)~8月3日(土)	
	富山 喜正	県立佐土原 高等学校	ホッケー	駿河台大学	令和6年10月25日(金)~27日(日)	
	三澤 寿栄	宮崎日本大学 高等学校	柔道	五條市立五條東中学校	令和6年12月6日(金)~8日(日)	
				桐蔭学園高等学校	令和6年12月12日(木)~14日(土)	
	徳淵 喬	延岡市立 西階中学校	ソフトテニス	明德義塾中学校	令和6年12月20日(金)~22日(日)	
	小野 雄祐	宮崎市立 宮崎中学校	剣道	佐賀県立大和中学校	令和6年10月24日(木)~26日(土)	
	佐藤 友春	宮崎市立 久峰中学校	陸上競技	西宮市立塩瀬中学校	令和6年11月23日(土)~24日(日)	
	甲斐 雅章	宮崎県バドミ ントン協会	バドミントン	RKR	令和6年12月13日(金)~15日(日)	
吉田 智	宮崎市立 広瀬中学校	サッカー	セレッソ大阪スポーツクラブ	令和6年10月31日(木)~11月3日(日)		
柳田 政美	都城市立 妻ヶ丘中学校	バレーボール	大田区立大森第二中学校	令和6年11月8日(金)~11日(月)		

(2) みやざき広域スポーツセンター事業

①生涯スポーツ指導者養成研修

No.	講座名	期 日	会 場	対 象	人数	内 容	講 師
1	総合型地域スポーツクラブ マネジメントセミナー	9月7日(土) 9月8日(日)	県教育研修センター	地域スポーツクラブ等ス ポーツ団体関係者、公認 アシスタントマネジャー単 位取得希望者	17	講義1 地域スポーツクラブとは 地域スポーツクラブの現状 講義2 クラブマネジャーの役割 講義3 クラブのつくり方Ⅰ 講義4 クラブのつくり方Ⅱ 講義5 クラブの運営Ⅰ 講義6 クラブの運営Ⅱ	祐末 ひとみ 講師 (びわこ学院大学) 渡邊 優子 理事長 (NPO法人希楽々) 山田 健次 ゼネラルマネ ジャー 西田 由実 事務局長 (NPO法人A-lifeなんかん)

② 総合型地域スポーツクラブ育成促進事業

No.	項 目	主 な 内 容
1	総合型地域スポーツクラブ育成に関する研修会・講習会の開催	宮崎県地域スポーツ推進研修会 ・令和6年10月16日(水)ひなた武道館大会議室 ・講演「学校部活動の地域移行を見据えた『新たな地域クラブ』の推進」 ・令和6年度スポーツ庁地域スポーツクラブ活動アドバイザー 奈良県生駒市教育委員会生涯学習部 スポーツ振興課長 西政仁 氏
2	総合型地域スポーツクラブへの支援	総合型クラブ訪問・相談・支援 みやざき広域スポーツセンター連絡会議(ハイブリッド)の開催 5月27日(月)ひなた武道館大会議室(参加者 クラブ26名:市町村20名) 1月31日(金)ひなた武道館大会議室(参加者 クラブ25名:市町村19名)
3	総合型地域スポーツクラブについての普及・啓発	市町村訪問・相談・支援 情報ネットワークの構築(HP) 啓発用リーフレット・チラシ等の作成・配付
4	総合型地域スポーツクラブに関する情報収集・提供	庁内報告会(月1回)5/13、6/6、7/3、8/5、10/3、11/6、12/6、1/9、2/6 地域スポーツ推進会議の開催(年3回)4/10、9/4、2/21 先進クラブ等視察 10月21日(月) NPO法人新町スポーツクラブ(群馬県高崎市新町2483-2) 10月22日(火) NPO法人希楽々[きらら](新潟県村上市九日市501) 10月23日(水) NPO法人PIVOTFOOT(東京都大田区西馬込2-31-3) 各クラブの活動状況等把握

(3) 宮崎県公立武道館協議会事業の支援

No.	事業名	期 日	会 場	対 象	人数	内 容	講 師
1	地方青少年弓道錬成大会	8月3日(土) ~4日(日)	[宮崎市] ひなた武道館	小・中・高校生	46	講義・実技等	遊谷 佳史氏 原田 友康氏 (公財)全日本弓道連盟 岩切 久実氏 藤野 小百合氏 宮崎県少林寺拳法連盟
2	地域社会少林寺拳法 指導者研修会	8月31日(土) ~9月1日(日)	[宮崎市] ひなた武道館	地域の 少林寺拳法指導 者	36	講義・実技等	安田 智幸氏 谷 聡士氏 (一財)少林寺拳法連盟 船ヶ山 日出光氏 良本 昭雄氏 宮崎県少林寺拳法連盟
	地域社会空手道 指導者研修会	12月21日(土) ~22日(日)	[宮崎市] ひなた武道館	地域の 空手道指導者	40	講義・実技等	相原 智之氏 加藤 英夫氏 (公財)全日本空手道連盟 藤枝 孝明氏 佐藤 伊織氏 (一社)宮崎県空手道連盟

(4) その他**① 調査研究**

No.	事業名	主な内容
1	体育、スポーツに関する調査研究	本県スポーツ・体育関係者の研修ニーズ調査及び総合型地域スポーツクラブに係る調査
2	武道振興に関する調査研究	各武道団体からの情報収集等による活動状況等把握

② 情報提供

No.	提供方法	時期	主な内容
1	要覧等 (宮崎の教育、宮崎の体育・スポーツ、研修センター等)		スポーツ指導センターの本年度事業一覧、年間事業計画、前年度の県有体育施設利用状況、事業実績等の紹介
2	研修一覧	3月下旬発行	スポーツ指導センターが行う研修の紹介
3	ホームページ	随時、更新	スポーツ指導センターの事業概要、講座・事業一覧、年間事業計画、みやざき広域スポーツセンターに関する情報、児童生徒の体力・運動能力調査結果等

③ 総合運動公園有料公園施設、新県体育館、県体育館、ライフル射撃競技場等の管理

No.	主な内容
1	指定管理者(関係機関)との連絡調整に関すること。
2	使用料収入、還付及び減免に関すること。
3	総合運動公園占用許可及び公園内行為許可に関すること。
4	教育財産の維持管理に関すること。

4 県有体育施設年度別利用状況

(1) 県体育館

① 設置

置県80周年を記念し、総合体育施設建設計画の一環として、昭和43年6月に宮崎市大和町(現在の宮崎市宮崎駅東2丁目)に建設された。県民の体格・体力の維持増進をはかり、体育及びスポーツの普及振興に努めている。

② 施設等

設置場所 宮崎市宮崎駅東2丁目4番地1
敷地面積 15,975.73㎡
構造 本館 鉄筋コンクリート造 2階建 一部3階建
別館 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨2階建
延面積 7,663.89㎡
競技場 本館競技場 1,700.36㎡
別館第1競技場 621.49㎡
別館第2・3競技場 438.40㎡
競技場設備 ・本館 バレーボール3面、バスケットボール2面、テニス3面、バドミントン8面、卓球15面、体操10種目、ハンドボール1面、レスリング、ボクシング、フェンシング、剣道
・別館第1 バレーボール1面、バスケットボール1面、バドミントン3面、卓球4面、体操、フェンシング、剣道
・別館第2・3 柔道1面、剣道1面(多目的)
観客収容人数 2,345席(固定席1,745席、移動席600席)
駐車可能台数 約140台(館周辺駐車場約140台)

③ 利用状況

年度別利用状況

(単位：人)

施設名	令和4年度	令和5年度	令和6年度
本館	110,834	177,342	201,644
別館第一	32,706	45,778	44,846
別館第二	7,939	9,751	9,240
別館第三	12,355	14,367	12,611
登はん壁	3,104	3,478	3,359
会議室	7,209	8,041	11,405
計	174,147	258,757	283,105

④ 無料開放事業

(単位：人)

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
こどもの日	卓球・バドミントン等 33	卓球・バドミントン等 43	卓球・バドミントン等 64
スポーツの日	卓球・バドミントン等 61	卓球・バドミントン等 60	卓球・バドミントン等 53

(2) 県ライフル射撃競技場

① 設置

昭和53年8月に国民体育大会競技場施設として建設され、2つの射場を有する。令和9年に開催する国民スポーツ大会に向けて、全面改修を行い、令和7年5月に供用開始した。

② 施設等

(ア) 設置場所 宮崎市田野町乙4765-1
(イ) 競技施設 エアライフル射場 10m(27射座)、スモールボアライフル射場 50m(14射座)

③ 利用状況

年度別利用状況

(単位：人)

施設名	令和4年度	令和5年度	令和6年度
10m射場	496	437	232
50m射場	133	134	-
計	629	571	232

(3) 武道館

① 設置

平成8年12月に建設工事が着工され、平成10年11月に開館の運びとなった。本県における武道の普及・振興のため、“ひむかの国の建武の郷(けんぶのさと)”として位置づけ、和風建築を基調とした切り妻型の屋根で宮崎の山々をイメージして構成され、国際大会にも対応できる機能を備えている。

② 施設等

(ア) 設置場所 宮崎市大字熊野2206-1

(イ) 施設内容

- ・主道場 柔道・剣道・空手道等6面(固定席1,534席・車椅子席10席)
- ・柔道場 4面(150席)
- ・副道場 空手道/合気道/なぎなた/少林寺拳法等2面(108席)
- ・剣道場 2面(108席)
- ・弓道場 近的:12人立(98席)、遠的:6人立
- ・相撲場 競技用土俵1面、練習用土俵1面(76席)
- ・トレーニング場 筋力マシン、トレッドミル、エアロバイク等
- ・会議室 大会議室1(200名収容)、中会議室2(30名収容)、小会議室1(20名収容)

③ 利用状況

年度別利用状況

(単位:人)

施設名	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
主道場		80,273	111,206	136,774
柔道場		23,993	25,193	31,995
剣道場		12,788	15,558	14,555
副道場		16,118	18,822	16,296
相撲場		712	964	1,201
弓道場(近的)		20,709	26,311	25,273
弓道場(遠的)		7,375	7,171	10,641
トレーニング場		16,480	18,589	21,223
会議室		18,889	23,774	30,288
計		197,337	247,588	288,246

④ 無料開放事業

(単位:人)

区別	年度	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
こどもの日	柔道場	8	6	柔道場	4	柔道場	0
	弓道場		2	弓道場	0	弓道場	45
	相撲場		2	相撲場	0	相撲場	0
スポーツの日	柔道場	0	0	柔道場	21	柔道場	0
	弓道場	0	0	弓道場	13	弓道場	0
	相撲場	0	0	相撲場	11	相撲場	0

(4) 硬式野球場(サンマリスタジアム宮崎)

① 設置

平成11年3月建設工事が着工され、平成13年2月に開場となった。平成11年に愛称を一般公募し「サンマリスタジアム」が選ばれる。愛称に因んでスタンドの配色も「太陽の赤」「海の青」「空の青」を基調としている。内外野とも天然芝張で、プロ野球の公式戦も開催できる規模と設備を有し、令和5年2月には侍ジャパン宮崎キャンプも開催された。

② 設備等

(ア) 設置場所 宮崎市大字熊野1443-12

(イ) 施設内容

- ・球场面積 30,232㎡
- ・建築面積 15,900㎡
- ・グラウンド面積 14,332㎡
- ・構造 鉄筋コンクリート造4階建
- ・球場の形式 円形バルコニー席タイプ
- ・観客収容人数 30,000人(内野18,000人/外野12,000人)
- ・球場の規格 両翼100m 中堅122m 内外野ともに天然芝張
- ・その他 ナイター照明灯6基 スコアボード電光表示

③ 利用状況

年度別利用状況

(単位：人)

施設名	令和4年度	令和5年度	令和6年度
グラウンド	371,715	235,373	275,150
大会議室	3,700	4,098	3,890
中会議室	930	630	630
ミーティング室	7,620	5,945	4,990
監督室	160	165	317
コーチ室	702	644	638
計	384,827	246,855	285,615

(5) 屋内運動場（木の花ドーム）

① 設置

平成14年12月建設工事が着工され、平成16年4月に開場となった。愛称を一般公募し、立地場所である木花の地区名や日向神話のコノハナサクヤヒメをイメージさせ、県産杉材を利用した木造ドームであること等から「木の花ドーム」が選ばれる。天然芝に近い感触をもつ人工芝を採用し、スポーツだけでなくイベント等多目的に利用できる施設となっている。

② 設備等

(ア) 設置場所 宮崎市大字熊野1443-12

(イ) 施設内容

- ・延床面積 11,463㎡
- ・建築面積 10,966㎡
- ・アリーナ面積 8,886㎡
- ・規格 楕円形122m×102.5m 高さ38m
- ・構造 木造（下部鉄筋コンクリート造）平屋建
- ・観客収容人数 800人（アリーナ約5,000人）
- ・その他 人工芝 照明灯 会議室 スコアボード電光表示

③ 利用状況

年度別利用状況

(単位：人)

施設名	令和4年度	令和5年度	令和6年度
ドーム	41,424	43,951	28,282
会議室	855	513	936
計	42,279	44,464	29,218

④ 無料開放事業

(単位：人)

区別	令和4年度	令和5年度	令和6年度
こどもの日	12	2	0

(6) 宮崎県総合運動公園

① 設置

置県80周年記念事業のひとつとして、昭和38年の基本構想発表から昭和56年3月の完工まで17種23競技のできる全国でも有数の運動公園として完成した。自然環境も生かされており、「緑の中のスポーツ公園」として本県スポーツ・レクリエーションの場として広く県民に親しまれ、活用されている。

② 設置等

(ア) 設置場所 宮崎市大字熊野1443-12

(イ) 施設内容

- 敷地面積 1,540,000㎡（内松林面積520,000㎡）
- ・陸上競技場 第1種公認400m×8コース
- ・第2陸上競技場 300m×6コース
- ・水泳場 50m、25m、室内、幼児プール（令和7年3月廃止）
- ・第3競技場（サッカー場）第3種公認400m×8コース（21,000㎡）
- ・ラグビー場 13,175㎡ 155m×85m
- ・補助球技場 10,000㎡ 120m×84m（人工芝）
- ・自転車競技場 333m
- ・ゲートボール場 25m×20m 4面
- ・軟式野球場A 両翼99m、中堅122m

- ・軟式野球場 B 両翼92m、中堅100m
- ・運動広場 東西2面 145m×100m
- ・庭球場 ハードコート24面(屋外コート18面、屋内コート6面)
- ・第2硬式野球場 両翼92m、中堅122m(旧市営球場、平成16年4月1日県へ譲渡)
- ・体育館 床面積1,049㎡
- ・トレーニング場(ウエイトトレーニング) 床面積220㎡
- ・第2トレーニング場(ウエイトトレーニング) 床面積168㎡
- ・合宿所 収容人員 88名
- ・屋内練習場 45m×65.8m
- ・屋内走路 110m(100m兼用)×5コース 幅跳び・三段跳び1コース砂場
- ・駐車可能台数 約3,500台

③ 利用状況

年度別利用状況

(単位：人)

施設名	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
陸上競技場		101,283	37,820	100,172
第2陸上競技場		20,102	21,815	69,158
水泳場		24,933	28,520	35,743
第3競技場 (サッカー場)		39,195	19,565	39,394
ラグビー場		24,874	20,222	24,772
補助球技場		31,744	16,463	43,023
自転車競技場		6,242	—	—
第2トレーニング場		4,239	2,021	5,653
ゲートボール場		4	0	100
軟式野球場 A		2,588	17,590	22,776
軟式野球場 B		13,143	13,933	15,792
運動広場 A B		44,736	46,083	46,031
運動広場 C D		43,082	45,784	39,274
庭球場		90,053	98,600	—
第2硬式野球場		53,179	6,609	28,472
体育館		9,667	9,419	14,186
トレーニング場		1,805	3,087	5,032
屋内練習場		10,190	8,111	17,230
合宿所		4,210	3,500	3,802
屋内走路		—	788	22,011
計		525,269	399,930	532,621

④ 無料開放事業

(単位：人)

年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度
区 分	こどもの日	146	100	23
	スポーツの日	5	0	0
	庭 球 場	19	68	0
こどもの日	運動広場	19	24	10
	室内プール	19	68	0
	庭 球 場	19	68	0
スポーツの日	運動広場	5	0	0
	室内プール	0	4	8
	庭 球 場	75	6	0

(7) 新県体育館（アスリートタウン延岡アリーナ）

① 設 置

令和9年に開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けて、令和3年9月建設工事が着工され、令和5年8月にサブアリーナが開場した。「スポーツランドみやぎ」の新たな競技力向上の中核施設としての役割を担うとともに県民の体位・体力の維持・増進を図り、体育及びスポーツの普及振興に努めている。令和8年3月にはメインアリーナが完成予定である。

② 施 設 等

(ア) 設置場所 延岡市大貫町1丁目2894

(イ) 施設内容 敷地面積 39,593㎡
 建築面積 11,498.14㎡
 延 面 積 12,998.20㎡
 構 造 鉄筋コンクリート造 2階建 一部鉄骨造、木造
 競 技 場 サブアリーナ 1,530㎡ (45m×34m)
 多 目 的 室 463.45㎡ (29.9m×15.5m)

競技場設備 ・サブアリーナ バスケットボール2面、6人制バレーボール3面、ハンドボール/フットサル1面、バドミントン/ミニバレーボール6面、テニス/ソフトテニス6面、卓球12面、柔道6面、その他武道/ダンス等
 ・多目的室 卓球 武道各種

観客収容人数・サブアリーナ 504席（固定席500席、車椅子席4席）

駐車可能台数 約800台（メインアリーナ竣工時）

③ 利用状況

年度別利用状況

(単位：人)

施設名	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
メインアリーナ		-	-	-
サブアリーナ		-	48,805	108,238
多目的室		-	6,613	15,085
トレーニングルーム		-	-	-
会議室 1	1	-	863	2,010
会議室 2	2	-	1,287	2,855
会議室 3	3	-	-	-
会議室 4	4	-	-	-
会議室 5	5	-	-	-
応接室		-	-	-
計		-	57,568	128,188

④ 無料開放事業

(単位：人)

区 分	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
こどもの日		卓球・バドミントン等 -	卓球・バドミントン等 0	卓球・バドミントン等 0
スポーツの日		卓球・バドミントン等 -	卓球・バドミントン等 0	卓球・バドミントン等 0

(8) 県プール

① 設 置

令和9年に開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会や全国大会等の大規模な公式大会の大会会場として令和6年12月完成し、令和7年4月供用開始した。

大規模な公式大会のほか、日常的な県民利用による生涯スポーツの振興、県内外からの合宿・キャンプ利用等による「スポーツランドみやぎ」の魅力向上に寄与する施設として活用されている。

② 施 設 等

(ア) 設置場所 宮崎市錦本町4-1

(イ) 施設内容 敷地面積 25,974.33㎡
建築面積 10,697.81㎡
延面積 14,265.33㎡
構造 鉄筋コンクリート造 3階建
競技場 50m屋内温水プール
25m屋内温水プール

競技場設備 ・トレーニングルーム
・屋外クライミングウォール/屋内ボルダリング
・会議室他

観客収容人数 ・50mプール観客席(固定席1,500席、仮設席1,012席、車椅子席15席)
駐車可能台数 約263台(普通車250台、大型車13台)

(9) 山之口陸上競技場・山之口投てき練習場

① 設 置

令和9年に開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けて、都城市と共同で整備を行い、令和6年12月完成し、令和7年4月に供用開始した。新たな競技力向上の中核施設としての役割を担うとともに県民の体位・体力の維持・増進を図り、体育及びスポーツの普及振興に努めている。

② 施 設 等

(ア) 設置場所 都城市山之口町花木2381-4

(イ) 施設内容 敷地面積 約24ha
建築面積 陸上競技場14,741.69㎡
延床面積 陸上競技場22,809.73㎡
競技場面積 陸上競技場22,508.80㎡ 投てき練習場14,328.80㎡
構造 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造 4階建
競技場構造 陸上競技場トラック：全天候型舗装400m×9レーン
投てき練習場フィールド：改良クレイ舗装、芝、全天候型舗装(槍投助走部)

観客収容人数 メインスタンド(個席) 7,000人
バックスタンド(個席) 4,500人
サイドスタンド(芝生席) 3,500人
駐車可能台数 約1,200台

第8節 青少年教育施設

I 青少年自然の家

(1) 青島青少年自然の家

ア 設置

青島青少年自然の家は、明治百年記念事業の一つとして設置され、昭和50年9月に開所した社会教育施設である。平成18年度より指定管理者制度を導入している。

この施設は、次の教育目標を達成し、自主性に満ちた心豊かでたくましく生きる力を備えた青少年を育成するため、学校や家庭では得がたい自然体験や集団宿泊生活の機会を与える。

- ・ 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や畏敬の念を育てる。
- ・ 集団宿泊生活を通じて、規律・協同・友愛・奉仕の精神を育てる。
- ・ 野外活動を通じて、心身を鍛錬する。

イ 施設の概要

○ 設置場所 宮崎市大字熊野字藤兵衛中州 (TEL 0985-58-1711)

○ 位置・環境

JR日南線運動公園駅から徒歩約10分、宮崎交通バス青島線運動公園南口から徒歩約10分。

第34回国民体育大会の主会場となった宮崎県総合運動公園の一画に位置し、東は黒潮おどる日向灘と亜熱帯植物が茂る青島を望み、背後には斟鉢山、双石山、加江田溪谷をひかえ、四季温和な気候と自然に恵まれた所である。

また、付近には多目的に活用できる全天候型運動施設「木の花ドーム」や海岸沿いに青島まで続く「トロピカルロード」がある。

○ 施設の概要

- ・ 敷地面積 53,843 m²
- ・ 延床面積 6,671 m² (本館、総合研修館、キャンプ施設)
- ・ 屋外施設 つどいの広場 キャンプ場 キャンプファイヤー場 掲揚台 野外炊飯場
フィールドアスレチック
- ・ 収容人数 宿泊室 304人
キャンプ場 150人

○ 活動内容

自然観察活動 — 星空観察、グリーンウォッチング、自然観察「青島探検」、ナイトウォーク、ビーチコーミング、日の出見学、磯の観察、干潟の観察、浜辺の植物観察、バードウォッチング

アウトドアスポーツ — ボディーボード体験、サーフィン体験、カヌー体験、水泳・海水浴、しおかぜ追跡ハイキング、フィールドアスレチック、ハイキング、登山、オリエンテーリング、ウォークラリー、サイクリング、フォトアドベンチャー、グランドゴルフ、魚釣り体験など

職業体験活動 — ビジネスマナー研修

創作体験活動 — 砂の造形、さるいて創ろう活動、プラホビー、草花しおり、砂絵、流木フォトフレーム作り、塩づくり、貝がらペンダントなど

その他の諸体験活動 — キャンプファイヤー、古代火おこし体験、親子の触れ合い・遊び体験、史跡巡りなど

ウ 主な令和6年度主催事業実績

事業名	目的	期日	対象	参加者
アスレチック開放DAY	フィールドアスレチック活動を通して、たくましい体と心を育てる。	11月9日(土) 3月20日(木)	未就学児、小学生以上、保護者、ボランティア	227名 803名
げんキッズキャンプ	野外体験活動を通して、豊かな情操やたくましい体を育むとともに、参加者同士の交流を図る。	5月18日(土)～ 5月19日(日) 1月25日(土)～ 1月26日(日)	小学生、ボランティア	55名 50名
あおしまファミリーキャンプ	家族での自然遊びを通して、自然の素晴らしさを家族で共有し、絆を深める。	10月19日(土)～ 10月20日(日)	未就学児、小学生、保護者	28名
クッキング探偵団	参加者同士でコミュニケーションをとりながら、季節を感じ、達成感を味わう。	9月14日(土)	小学生、ボランティア	29名
元気モリモリ 焼きいもレンジャー	季節を感じ、自分で作る楽しさを知ってもらう。	11月30日(土)	小学生、ボランティア	14名
青島の夜空を楽しませ Night	天体観測を行うことで、天体への興味関心を深める。	12月6日(金)	未就学児、小学生、保護者	24名
わくわく自然の家まつり	施設を県民に広く理解してもらうために「まつり」を開催し、来所者に野外活動や創作活動などの多彩な体験活動を提供する。	2月23日(日)	未就学児、小学生、中学生、高校生、保護者ほか	2,051名

エ 利用状況

○ 利用状況（令和6年度）

利用団体	利用団体数	利用実人員	宿泊延人員	利用延人員
保育園、幼稚園	27	2,807	33	2,840
小学校	182	10,202	7,343	17,602
中学校	15	1,063	617	1,688
高校	55	1,470	1,680	3,253
高等専門学校	0	0	0	0
専門学校	14	584	304	890
短大、大学	3	210	38	259
その他の学校	1	17	359	378
少年団体	252	12,975	3,668	16,759
青年団体	17	494	1,105	1,611
その他	64	7,526	538	8,085
合計	630	37,348	15,685	53,365

○ 年度別利用状況

年度	利用団体数	利用実人員	宿泊延人員	利用延人員
平成17年度	461	27,858	28,306	54,447
18	707	37,364	31,943	70,701
19	774	43,927	34,982	81,156
20	830	46,316	34,051	83,442
21	822	45,044	33,855	80,954
22	887	45,230	28,361	74,821
23	691	42,087	33,260	76,886
24	618	42,252	34,194	77,197
25	566	34,832	28,951	64,999
26	576	35,342	25,283	61,209
27	541	33,104	27,805	61,451
28	511	35,885	26,384	62,423
29	566	36,616	26,593	64,064
30	559	43,051	24,151	68,156
令和元年度	549	40,011	22,237	63,142
2	425	20,035	5,014	24,961
3	310	17,279	7,463	24,787
4	496	25,868	11,498	38,064
5	551	31,693	15,103	48,085
6	630	37,348	15,685	53,365

(2) むかばき青少年自然の家

ア 設 置

むかばき青少年自然の家は、青少年を自然に親しませ、集団宿泊生活を通じて、その情操や社会性を豊かにし、心身を鍛練し、もって健全なる育成を図ることを目的とする社会教育施設である。

昭和 57 年 3 月本館建設に着工して 58 年 3 月に完工し、同年 4 月に開所した。また、59 年 3 月には野外教育施設が完工し、平成 9 年 3 月に天体観測ドームが完工した。平成 18 年度より指定管理者制度を導入している。

この施設は、次の教育目標を達成し、自主性に満ちた心豊かでたくましく生きる力を備えた青少年を育成するため、学校や家庭では得がたい自然体験や集団宿泊生活の機会を与える。

- ・ 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や畏敬の念を育てる。
- ・ 集団宿泊生活を通じて、規律・協同・友愛・奉仕の精神を育てる。
- ・ 野外活動を通じて、心身を鍛練する。

イ 施設の概要

- 設置場所 延岡市行藤町 760 番地 3 (TEL 0982-38-0272)
- 位置・環境
 - 延岡市の西部に位置し、市中心部から約 13 km の自然林の中にある。
 - 周辺には海拔 831 m の行藤山(雄岳)・落差 76.6 m の行藤の滝・74ha の明治百年記念県民の森・行藤神社・舞野神社などの史跡・名勝があり、九州自然歩道むかばきコースなど環境に恵まれている。
- 施設の概要
 - ・ 敷地面積 20,379 m²
 - ・ 延床面積 4,196 m² (本館、野外炊飯場、キャンプ倉庫、キャンプトイレ)
 - ・ 屋外施設 キャンプ場、営火場、運動広場、つどいの広場
 - ・ 収容人数 宿泊室 200 人
キャンプ場 125 人
 - ・ 天体観測ドーム 直径 5 m ドーム内に口径 400 mm カセグレン式反射望遠鏡設置
- 活動内容

自然観察活動 ——— 星空観察(天体観察)、野鳥観察、植物・樹木観察、昆虫観察、自然散策

アウトドアスポーツ ——— 行藤山登山・滝トレッキング・展望台ハイキング、沢登り(沢歩き)、沢遊び、オリエンテーリング、追跡ハイキング、ウォークラリー、イニシアティブゲーム、マス釣り・マスつかみ・マス調理

防 災 ——— ダンボールハウス作り、空き缶炊飯、煙体験ハウス、水消火器

創作体験活動 ——— 木のペンダント、プラホビー、木のペナント、紙粘土と木のクラフト、マイ箸作り、木の実細工、杉焼き板細工、陶芸体験(むかばき焼き)

その他の諸体験活動 ——— キャンプファイヤー、キャンドルのつどい、レクリエーションゲーム、館内フォトアドベンチャー、館内ミニ探検ゲーム、AED研修、子育て体験、野外炊飯(炊さん)など

ウ 主な令和6年度主催事業実績

事業名	目的	期日	対象	参加者
チャレンジ山楽隊	登山を通して人と人との交流や家族の絆を深めるとともに、むかばきの自然と新緑の美しさ・素晴らしさを堪能し、自然に対する興味・関心を持ってもらう。	4月13日(土) 1月11日(土)	未就学児、小学生、 中学生、保護者	46名 48名
すまいる家族大集合	自然体験活動を通し、自然環境への理解と家族間交流を図るとともに家族の絆を深める。	4月20日(土) 4月21日(日) 9月21日(土) 9月22日(日)	未就学児、小学生、 保護者	28名 28名 27名 35名
むかばきオープンデー	施設を開放することにより、地元住民を始め、多くの方々に自然の家を理解してもらい、地域の活性化に寄与する。また、家族で「春のむかばき」を楽しみながら、自然の家及び周辺環境への関心を深めてもらう。	5月4日(土)	全年齢対象	996名
わいわい楽しい昼食会	生涯にわたって健康で豊かな人間性を育むため、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することのできる人間を育成する。	6月 13日間 7月 6日間 1月 10日間 2月 3日間	未就学児、引率者	531名 239名 250名 85名
むかばきひとり旅	小学生・中学生が家庭を離れ、列車やバスを利用してむかばき青少年自然の家までひとり旅をすることにより、自立心を身につけるとともに、集団生活や冒険的な活動を通して、たくましい心と体を育てる。	7月13日(土) ～7月15日(月) 2月1日(土) ～2月2日(日) 2月8日(土) ～2月9日(日)	小学生、中学生、 ボランティア	66名 46名 48名
むかばき青少年自然の家まつり	施設を開放することにより、地元住民を始め、多くの方々に自然の家を理解してもらい、地域の活性化に寄与する。また、家族で「秋のむかばき」を楽しみながら、自然の家及び周辺環境への関心を深めてもらう。	11月4日(月)	全年齢対象	793名
きらきらナイト	むかばきの大自然の中で、美しい冬の星空を観察し、星や星座などの関心を高める。	11月23日(土) 11月30日(土)	未就学児、小学生、 中学生、保護者	59名 47名
ハンドメイド塾	「手作り」を通して、作る喜びを味わう。	12月15日(日) 1月19日(日)	未就学児、小学生、 中学生、高校生、 一般	63名 55名

エ 利用状況

○ 利用状況（令和6年度）

利用団体	利用団体数	利用実人員	宿泊延人員	利用延人員
保育園、幼稚園	113	2,709	278	2,999
小学校	56	2,937	2,339	5,293
中学校	13	423	402	826
高校	58	1,469	2,375	3,876
高等専門学校	0	0	0	0
専門学校	2	88	154	243
短大、大学	7	94	31	125
その他の学校	0	0	0	0
少年団体	83	2,955	1,108	4,083
青年団体	4	165	23	198
その他	118	5,139	607	5,749
合計	454	15,979	7,317	23,392

○ 年度別利用状況

年度	利用団体数	利用実人員	宿泊延人員	利用延人員
平成17年度	250	12,890	14,248	27,362
18	386	15,147	15,871	31,210
19	592	17,850	17,667	36,138
20	567	21,093	17,987	39,213
21	538	19,786	16,543	36,523
22	448	17,262	14,703	32,077
23	443	19,539	16,401	36,119
24	455	20,310	16,090	36,536
25	495	21,592	16,237	37,989
26	482	20,222	14,281	34,709
27	532	21,854	14,015	36,121
28	515	21,463	13,698	35,394
29	527	20,665	12,760	33,573
30	542	21,490	14,752	36,690
令和元年度	472	18,778	12,686	31,601
2	271	8,379	2,603	11,020
3	244	9,094	3,497	12,644
4	322	11,524	4,419	15,976
5	465	16,911	7,809	24,856
6	454	15,979	7,317	23,392

(3) 御池青少年自然の家

ア 設 置

御池青少年自然の家は、青少年を自然に親しませ、自然の中での集団宿泊生活を通じて、豊かな情操や社会性を育むとともに、心身を鍛練し、もって健全な育成を図ることを目的とする社会教育施設として、平成3年10月に開所した。平成18年度より指定管理者制度を導入している。

この施設は、次の教育目標を達成し、自主性に満ちた心豊かでたくましく生きる力を備えた青少年を育成するため、学校や家庭では得がたい自然体験や集団宿泊生活の機会を与える。

- ・ 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や畏敬の念を育てる。
- ・ 集団宿泊生活を通じて、規律・協同・友愛・奉仕の精神を育てる。
- ・ 野外活動を通じて、心身を鍛練する。

イ 施設の概要

○ 設置場所 都城市夏尾町 5988-30 (TEL 0986-33-1414)

○ 位置・環境

都城市の西部、市中心部から約25km離れた霧島錦江湾国立公園内に位置している。

西に高千穂峰(1,574m)を仰ぎ、北東には牧草場が広がるなど、山間部にありながら空間的な広がりを持っているので十分な開放感を与える。

なお、施設の名称にもなっている御池は、施設の西にある周囲4km、水深103mの霧島山系中最大の火口湖であり、湖の西岸は全国でも4ヶ所という野鳥の森に指定(環境省指定)されている。この雄大な自然を利用した高千穂峰登山・御池野鳥の森ハイキング・天体観察などの魅力的な活動が展開される。

○ 施設の概要

- ・ 敷地面積 43,163 m²
- ・ 延床面積 4,210 m² (本館、体育館、キャンプ施設)
- ・ 屋外施設 キャンプ場、営火場、運動広場、つどいの広場
- ・ 収容人数 宿泊室 200人
キャンプ場 246人

○ 活動内容

自然観察活動	霧島山登山、御池ハイキング、御池野鳥の森ハイキング、ナイトハイキング、追跡ハイキング、霧島ジオハイキング、ウォークラリー、オリエンテーリング、ハンターゲーム、魚釣り、バードウォッチング、ネイチャーゲーム、グリーンアドベンチャー、天体観察、狭野神社ウォークラリーなど
アウトドアスポーツ	スポーツレクリエーション(ムーンカート、フリスビー・ドッチボール・グランドゴルフ)、フォトアドベンチャー、沢遊びなど
防 災	防災カルタ、消火器体験、煙体験、KYT(危険予知トレーニング)、応急救護、手作りランプ、防災マップ作成、ロープワークなど
創作体験活動	木ホルダー、記念盾、焼き板、写真立て、竹細工(竹トンボ、はし、竹ケン玉)、プラホビー、木の実細工、落ち葉のしおり、陶芸、レザークラフトなど
その他の諸体験活動	スケッチ・写真、火おこし体験、茶道、野外炊飯、天体アドベンチャー、屋内活動(追跡ハイキング、フォトアドベンチャー)、キャンプファイヤー、キャンドルファイヤーなど

ウ 主な令和6年度主催事業実績

事業名	目的	期日	対象	参加者
森のチビッコひろば	自然の中での遊びを通して、幼児の体や心を育てるとともに、協調心や創造力を培う。	6月 6日間 9月 9日間 10月 11日間 11月 11日間 12月 5日間 1月 2日間 2月 7日間 3月 1日間	未就学児	161名 202名 228名 280名 228名 28名 149名 13名
防災学びんぐスクール	霧島山の噴火をはじめとする自然災害に対して、地域の特色を生かし、地域と連動した学校防災の取組を通して、児童生徒の防災に対する実践的な態度や自然に対する畏敬の念及び自然に親しむ態度の育成に寄与する。	4月 1日間 5月 1日間 8月 1日間 9月 1日間 11月 1日間 12月 3日間 1月 7日間 3月 1日間	小学生、中学生	18名 36名 68名 32名 161名 248名 378名 68名
もくもくもっくんハウス	災害への備えと災害時に必要な知識と技能などについて、体験活動を通じて学び、防災に対する実践的な態度を身につける。	5月 2日間 6月 5日間 7月 2日間 8月 1日間 9月 3日間 10月 5日間 11月 5日間 12月 4日間 1月 4日間 2月 4日間 3月 1日間	未就学児、引率者	131名 374名 112名 114名 168名 224名 394名 418名 336名 171名 40名
レッツトライ「山登り」	登山活動を通して霧島の四季の自然に触れ、自然や郷土への理解を深めるとともに、自然災害に対する備えについても学ぶ。	5月25日(土) 8月4日(日)	家族	28名 17名
あつまれ！自然探検隊	霧島や南九州の雄大な自然の中での体験活動を通して、自然に親しむ態度を育むとともに、自立心や協調性を育む。	6月8日(土)～ 6月9日(日) 11月9日(土)～ 11月10日(日)	小学生、ボランティア	29名 23名
みいけ焼き	土の特性を生かした陶芸作品づくりに取り組むことによって、物作りの楽しさや喜びを味わう中で豊かな情操を育む。	6月22日(土) 7月13日(土) 1月18日(土) 2月15日(土)	未就学児、小学生、保護者	34名 35名 27名 27名
みいけに泊まろう！ 通学合宿	異年齢の子どもたちが、宿泊をともにし、通学する体験を通して、望ましい生活習慣や学習習慣を身につけ、自立心と共に連帯感や協調性を育てる。	6月16日(日)～ 6月19日(水) 6月30日(日)～ 7月3日(水) 11月17日(日)～ 11月20日(水) 12月1日(日)～ 12月4日(水) 12月15日(日)～ 12月18日(水)	小学生、保護者	37名 38名 36名 29名 53名
みいけオープンデー 「やまびこ祭」	自然の家で行う創作活動等を実際に体験する機会や、地域の郷土芸能を鑑賞する機会等を祭りとして提供することにより、広く県民に施設の理解を図る。	10月20日(日)	全年齢対象	861名

エ 利用状況

○ 利用状況（令和6年度）

利用団体	利用団体数	利用実人員	宿泊延人員	利用延人員
保育園、幼稚園	22	544	338	885
小学校	44	1,978	1,385	3,380
中学校	21	807	785	1,598
高校	24	539	1,332	1,880
高等専門学校	0	0	0	0
専門学校	0	0	0	0
短大、大学	1	9	9	18
その他の学校	1	44	0	44
少年団体	61	1,629	1,143	2,896
青年団体	8	139	0	139
その他	170	9,487	614	10,102
合計	352	15,176	5,606	20,942

○ 年度別利用状況

年度	利用団体数	利用実人員	宿泊延人員	利用延人員
平成17年度	278	18,202	21,400	40,164
18	360	23,258	19,050	42,642
19	368	24,444	18,854	44,306
20	402	26,750	18,200	46,034
21	351	25,828	15,287	42,294
22	261	18,860	12,264	31,248
23	13	425	56	483
24	223	17,092	4,338	21,985
25	353	24,433	9,567	34,973
26	335	24,948	11,222	36,698
27	374	26,061	11,109	37,434
28	375	24,958	10,336	35,247
29	335	23,101	8,243	31,460
30	362	27,515	7,504	35,161
令和元年度	390	25,451	9,175	34,689
2	177	8,439	2,431	10,892
3	171	6,944	3,100	10,075
4	231	9,645	3,391	13,350
5	319	12,271	4,767	17,230
6	352	15,176	5,606	20,942

令和 8 年 3 月 発行

宮崎県の教育 - 令和 7 年版 -

編 集 宮崎県教育庁教育政策課
宮崎県宮崎市橘通東 1 丁目 9 番 10 号
TEL 0985-26-7234
FAX 0985-26-7306
E-mail kyoikuseisaku@pref.miyazaki.lg.jp
